

近代における言語接触と中国語造語法の研究

関西大学大学院

文学研究科文化交渉学専攻

韓一瑾

目 次

序 論	1
第一節 言語接触と中国語近代化の歩み	1
第二節 先行研究について	8
第三節 English-Chinese Dictionary, 1916 (官話) について	10
第四節 本論文の特徴と構成	20
第一部 現代中国語における音訳語とその造語法	24
はじめに	24
第一章 音訳固有名詞と造語法	27
第一節 音訳固有名詞の分類	28
1、純音訳語	28
2、半音訳半意識語	32
3、音訳＋範疇を表す形態素	33
第二節 音節形式の特徴と多音節造語法の成立	35
第三節 翻訳用字と翻訳方法の変遷と音訳造語要素の形成	40
第二章 音訳専門用語と造語法	50
第一節 音訳専門用語の分類	50
1、化学類専門用語	50
2、物理学類専門用語	52
3、地理学類専門用語	53
4、生物学類専門用語	54
5、医学類専門用語	56
6、機械学類専門用語	57
第二節 音訳専門用語語形の定着と類推機能の発達	62
第三節 専門用語と多数訳語の対応関係と音訳専門用語の成立	66
第三章 音訳詞と意識詞の交替関係	68

第二部 現代中国語における意識語とその造語法	77
はじめに	77
第一章 意識語の造語要素について	78
第一節 本章の研究対象	78
第二節 漢字使用頻度の統計から見る造語要素の形成	80
第三節 現代中国語における「語根」と「接辞」の討論と『官話』(1916)の有効性	84
第四節 「一性」について	92
1、『官話』(1916)の「一性」類語の特徴について	92
2、「一性」の語形統一状況について	95
3、日本語における「一性」について	97
4、結語	102
第五節 廃語の造語要素について	103
1、はじめに	103
2、『官話』(1916)における廃語の造語要素について	104
2. 1 造語要素「一質」について	108
2. 2 造語要素「一精」について	108
2. 3 造語要素「一素」について	109
3、「質」、「精」、「素」の語構成特徴について	110
4、結語	114
第二章 意識による学術用語について	115
はじめに	115
第一節 『官話』(1916)の学科分類と学科内術語漢字使用頻度サンプリング	117
第二節 生物学専門用語と造語法	120
1、『官話』(1916)における生物学専門用語について	120
2、日本語における「一科」類生物学用語について	123
3、結語	125

第三節 言語学専門用語と造語法	125
1、新概念に対する新造語要素「格」、「式」、「類」の形成について	126
2、伝統と現代の衝突——「字」、「詞」、「語」の形成について	128
3、伝統を守る——「音」と「読」の形成について	131
4、結語	132
第三章 品詞の文法的な機能と造語法	133
第一節 区別詞の位置付け	133
第二節 区別詞の分類	135
第三節 中国語の接辞式区別詞の創製と日本語	136
1、「一性」区別詞	138
2、「一等」区別詞	141
第四節 終わりに	144
結び	144
参考文献	149
付録	154
表一 『官話』(1916)の音訳語	154
表二 『官話』(1916)の「一性」	198
表三-1 『官話』(1916)の「質」	205
表三-2 『官話』(1916)の「精」	216
表三-3 『官話』(1916)の「素」	222
表四 『官話』(1916)の「科」	226
表五 『官話』(1916)の言語学専門用語	228

序論

第一節 言語接触と中国語近代化の歩み

言語接触とは、二種類以上の言語が互いに影響を及ぼしあうことである。言語発展の歴史を遡ってみると、中国語は途切れなく周辺民族や国家の言語と接触し、その過程において形成された。従って、言語接触の角度より中国語を研究することは重要な意義を持っている。

魏晉南北朝時代に中国では異なる民族が一つの地区に雑居していたことが盛んであったと共に、中国語と少数民族諸言語間には互いに語彙の借用が行われていた。これが人口移動による直接言語接触である。もう一種の言語接触は書物の伝播、特に文献の翻訳より成立された。これが間接言語接触である。例えば、東漢からの仏教文献の伝来と翻訳は一種の間接言語接触であった。

しかし、近代¹に入ると、直接言語接触と間接言語接触が同時に発生し、接触の度合いが進むにつれ借用語の流入は一時的、表面的なものから恒久的な言語そのものに関わる次元までに達した。さらに、語彙の借用だけではなく、文法や語法の借用も行われた。これにより、中国語に一体どのぐらいの変化がもたらされたかについて、王力は「从词汇的角度来看，最近五十年来汉语发展的速度超过以前的几千年。（語彙の角度から見れば、ここ五十数年の中国語の発展のスピードはこれまでの数千年より速い。）」²

「从民国初年到现在，短短的二十余年間，文法的变迁，比之从汉至清，有过之无不及。（民国初期から現在までの、たった二十数年の間、文法の変

1 中国で歴史学と言語学は異なる時代区分をしている。歴史学者は1840年アヘン戦争
2 王力 『汉语史稿』中華書局（1980年 第一版）P516を参照。1954年に北京大学で行った「漢語史講義」の内容を整理して出版されたので、ここの「最近五十年」は1904年—1954年を指す。

遷は漢代から清代までより大きい。）」³と語彙や文法の二つの面から中国語が激しい変化を実現したことを指摘している。中国語の語彙と文法が英語をはじめ多くの外国語と接触してきたことにより大きな変化を成し遂げたことを「中国語の欧化」という。これは西洋諸言語（特に英語）の影響を受け、中国語が新たな表現や文法を増やしてきたことを指している。

しかし、言語がとある状態から別の状態に変容するのは突然変異の結果ではなく、長い間の変遷過程を通じなければならない。マシーニ (Masini) が『現代汉语词汇的形成——十九世纪汉语外来词研究 (The formation of modern Chinese lexicon and its evolution toward a national language)』⁴において「現代汉语词汇的发展并不是北方文学传统简单地加上五四运动革新派的现代观念而自然产生的结果，它是早在 19 世纪就开始演变的更为复杂而漫长的过程的产物。(現代中国語語彙の発展は、ただ北方文学伝統に五四運動革新派の現代観念を加えて、簡単且つ自然に生産した結果ではなく、これは早くも 19 世紀から始まった、更に複雑且つ長い時期を通じてできあがった産物である。)」と指摘したように、言語接触による中国語の変化は 19 世紀から動きがあり、五四運動に終焉⁵を迎えた。

では、この長い間に発生した言語接触とは「西洋諸言語」と「中国語」の間だけで行われたものであったのだろうか。これまでの研究において、英語書籍の翻訳が中国語に変化をもたらした原因だという説がある。19 世紀初めにロバート・モリソンをはじめとする来華宣教師は対訳辞典を編纂

3 王力『中国語法理論』(『王力文集』第一巻 山東教育出版社 1984 年) P434 を参照。
この本の初版が 1946 年に商務印書館より出版された。

4『現代漢語詞彙的形成——十九世紀漢語外來詞研究』馬西尼 漢語大詞典出版社 1997 年 09 月を参照。

5 この「終焉」は中国語がより落ちていた状態になり、現代中国語がほぼ形成したことを指す。言語接触が終わった、または中国語の変化が終わったことではない。

し、西洋書籍を翻訳したことは確かに中国語の語彙と文法に莫大な影響を与えた。しかし、以下のような史実も無視することができない。

江戸期の蘭学の勃興、特に明治維新後、大量の西洋書籍が日本語に訳された。日本は19世紀中に中国で創造された翻訳語を吸収したのみならず、蘭学や唐話学の基礎の上に独自の翻訳語体系をも構築し、1880年代末にはほぼ翻訳語彙体系の基盤を整備していた。これに対して、中国も北京同文館、上海江南製造局で西洋書の翻訳を行ってきたが、20世紀に入ると日本書からの重訳にシフトした。日中が戦争状態になるまでの日本書の中国語訳は、他の言語の翻訳より遙かに多い。日本書の翻訳は西洋の新知識を導入するルートの一つであることが分かる。日中両国ともに「漢字」を使って新語を作る上、近代において互いに頻繁な語彙交流の歴史を持っていることから、現代中国語の形成過程を研究する際、日本語の影響を軽視することはできない。

さらに、上記のような日本書の伝来や日中間の直接的な語彙借用だけではなく、西洋宣教師の日本の翻訳語に対する態度や当時の英華辞典と日本語の交渉も軽視できない。例えば、先行研究において、1877年に創設された益智書会（英語：The School and textbook series committee）が中国語における訳語を統一されるための部会を設けたことが述べられている。この益智書会はマッカーティー（麦嘉締 McCartee）に日本の訳語を収集することを指示しており、その後の上海会議でも江南製造局教習のフライヤー（傅兰雅 John Fryer）が北京と東京で翻訳語の資料を集めること、アレン（林樂知 Young J. Allen）に続いて日文の訳語を収集することなどを要請していた。これは当時の来華宣教師たちが日本人による漢字訳語にきわめて高い関心を払っていた証拠である。また、当時の英華辞典が日本の翻訳語を大量に参考したことも当該辞書の序言に羅列された参考文献を見れば、一目瞭然であろう。

それでは、日本語の潜在的な影響はいつから中国語の表面にまで現れ、中国社会の注目の的になったのだろうか。1905年に王国維が『論新学語之輸入』⁶に「十年以前，西洋学术之輸入限于形而下学之方面，故虽有新字新语，于文学上尚未有显著之影响也。数年以来，形上之学渐入于中国；而又有一日本焉，为之中间之驿骑。于是日本所造译西语之汉文，以混混之势而侵入我国之文学界。（十年前、西洋學術の輸入は形而下学に限られたため、新語は存在したが、文学への影響はまだ著しくはなかった。この数年来、形而上学は徐々に中国に入っていた。さらに日本という国が西洋と中国の学术交流の架け橋に位置していたことから、日本において創製または翻訳された新漢文が中国文学界に紛れ込んでいる）」と指摘したように、日本語の影響を語る上では1895年前後が境界であり、これ以前には、日本で生み出された新名詞は中国においてまだ流行してはいなかった。中国における中外言語接触は中国語と西洋語（主に英語）を主流として行われた。しかし、1895年以降、日本からの訳語が中国語新名詞として用いられ、「混混之势」と言われる程度まで影響が拡大された。これは王力によって「从鸦片战争到戊戌政变（1898），新词的产生是有限的。从戊戌政变（1898）到“五四”运动（1919），新词产生得比较快。“五四”运动以后，一方面把已经通行的新词巩固下来，另一方面还不断地创造新词，以应不断增长的文化需要。现在在一篇政治论文或学术论文里，新词往往达到百分之七十以上。从词汇的角度来看，最近六十多年来汉语发展的速度超过以前的几千年。⁷（阿片戦争から戊戌の変法（1898）まで新語の創出は限りがあるが、戊戌の変法（1898）から五四運動（1919）に至るまでの間、新語の創出は迅速であった。五四以降、通用された新語が定着し、新しい語彙も文化需要に応じて創造されていた。現在では、一篇の政治論文や学術論文に、新語の

⁶ 王国維 「論新学語之輸入」(王国維論学集 中国社会科学出版社 1997年)を参照。

⁷ 王力『漢語詞彙史』王力文集(第十一卷)(山東教育出版社 1990年3月)を参照。

使用は 70%以上を占めている。語彙の角度から見れば、最近の六十年間中国語の発展のスピードは、それ以前の何千年よりも速い。）」と指摘されている。以上の二つの論述を時代区分の角度から対照してみると、日本からの訳語の流行と中国における新語の創出の最も速い時代はほぼ一致している。

次に上記の二つの言語接触の段階を経て、ようやく近代中国語から現代中国語に転換した時代について述べたい。中国語発展の歴史から見れば、中国語は大体古代中国語及び近代中国語、現代中国語に分けられる。そのうち、近代中国語と現代中国語を区分するのは音声、語彙、文法などの基準があるが⁸、これらどの角度から定めたとしても、学界において現代中国語の歴史区分は「五四時期」⁹を近代中国語から現代中国語に変転したもっとも大切な時期と言う観点を持っている。なお、20 世紀初めの「五四運動」以降、西洋語彙とドッキングできる新語はすでに中国語語彙の一部分、特に専門用語の主流になっていた。これこそが現代中国語語彙の確立や形成の最終段階と見なす重要な標示であろう。要するに、現代中国語の変遷過程から見れば、19 世紀末から 20 世紀初頭までの期間はこの新たな中国語の形成期の結末に当たる。この時期、音声、語彙および文法はいずれも産生、衝突、淘汰、定着の過程を経て、落ち着いた状態になっていた。それと同時に造語法も変わってきた。従って、本論文はこの時期における造語

⁸ 王力、呂叔湘、張壽康は現代中国語と近代中国語の区分について討論したが、いずれも文法を区分基準として定めた。

⁹ ここで「五四時期」がいつからいつまでについて説明する。この時代について、いろいろな意見があるが、代表的なのは、刑福義の「1917 年－1921 年」や刁晏斌の「以五四为中心点，前后一段时间（五四運動を中心として、前後の一連の時期）」、楊霞が定めた「1911 年-1921 年」などがある。要するに、「五四時期」は「1919 年」この時点ではなく、1910 年代から 20 年代までの持続的な時期だと思われる。

法の状態に注目したい。

以上述べたところを総合し、筆者は近代言語接触の視点から本論文の研究時期を「19 世紀末から 20 世紀初頭」に定めた。

次は本節の二つ目の問題「中国語の近代化」、すなわち、中国語の近代的性格とは何か、そしてその性格は言語接触とどのような関係にあるのかについて述べたい。まず、「近代化」は言語としての優劣性とは関係がなく、外来文化や外国語に対応できるように変容すると言う意味で考えたい。沈国威（2010）¹⁰は国民国家の「近代」言語とは、少なくとも以下の特徴を備えていなければならないと指摘している。

絶えず現れ、日々増加する新概念に対処することができること（生産性）

新しい知識を伝えたり、教えたりすることができること（伝播性）

書面語と口頭語がほぼ一致していること（普及性）

大多数の国民に理解され、均等に習得される可能性を備えていること（民主性）

この基準を踏まえて、中国語自身から考えると、「近代化」は中国語が西洋概念を受け入れる際、自分の言語で新概念を表すために、新しい語彙、造語要素、語構造、文法及び表現が出現する傾向にある。まず、語彙の「近代化」の本質について述べたい。語彙の近代化とは、新語が大量に増加し、そして、この増加した新語が外国語と一対一になれるように進化する過程といえよう。すなわち、ある事象の唯一の翻訳名が、外来新概念と一対一の対応関係を形成することである。これは中外辞典の編纂により進められ、また前述の 1877 年に創設された益智書会や第三節に論じる審定名詞館も訳語の統一に貢献した。具体的な例から言えば、益智書会は 1891 年に地名人名委員会を設立し、また 1896 年には科技術語委員会を設立し、1904

¹⁰沈国威「中国語と近代——東アジアの言語環境における思考」（外国語学部紀要 第 2 号）を参照。

年に最終成果として『術語辞彙』(Technical terms: English and Chinese)を完成させた。これらの努力により、当時の中国語における訳語は統一へ向けて進化していた。

次に「造語法」の「近代化」について論じる。近代において中国語は外国語との接触、特に書籍の翻訳によって、語彙を借用しなければならなくなった。しかし、借用語に頼るだけでは、すべての西洋新概念を表現することができない。そこで新しい名詞を創製しなければならなくなった。ここで強調したいのは新しい名詞が作られる「材料」が「借用語」すなわち「翻訳語」の中から抽出されたものであり、中国語造語法の近代化は語彙の近代化に依存するということである。翻訳により旺盛な造語力を持つ造語要素は形成され、さらに新しい語構造パターンや表現様式も出現した。例えば、「一化」、「一性」、「一的」の形成により、中国語は外国語の接辞に柔軟に対応できるようになった。

しかし、上述の両者を混同することはできない。語彙の近代化は「訳語の統一」問題であり、造語法の近代化は「訳語の体系化」問題であるからだ。この二つの概念は異なる側面の問題だと筆者は考える。統一することが前提ではあるが、統一したからといって必ずしも体系化するわけではない。本論文では両方を検討するが、着眼点は「体系化」に置かれることをここで強調したい。

また、文法の近代化は「文法の欧化」というテーマで、1940年代以来、王力(『漢語史稿』、科学出版社、1957)を筆頭とする国内外の研究者たちから注目され、研究が行われてきている。近年、新しい研究の高まりが生じる様相もある。代表的なものに『現代漢語欧化語法概論』(謝耀基、1990)や『現代漢語欧化語法現象研究』(賀陽、2008)があるが、紙幅の関係上、本文においては省略する。

端的に言えば、中国語の近代化とは言語接触により、「孤立」から「対

応的」に転化していく過程と言えよう。これにより、中国語は近代文化や文明に対応できる機能を取得し、現代中国語の様相の基盤が固められた。以上の内容を踏まえつつ、本文の重要な研究目的の一つは 19 世紀末から 20 世紀初頭に中国語近代化がどこまで至ったことを解明することとする。

第二節 先行研究について

本節ではまず本論文の論題である『近代における言語接触と中国語造語法の研究』に関する先行研究を整理する。言語接触と現代中国語の「欧化」問題についての先行研究は語彙と文法を中心に研究を行う傾向があるが、今まで、造語法についての先行研究は筆者の知る限りほとんどなく、以下三点からのアプローチしかない。

沈国威の『近代日中語彙交流史 - 新漢語の生成と受容』（改訂新版 2008 年 笠間書院）は日中言語接触に於いて日中両国の新漢語創出と伝播の様相を解明した名作であり、その中の『研究編』の P30—43 は日本語借用語の弁別について、造語法と用字法の観点から可能性と有効性を考察し、主謂格と後補格は典型的な中国語の造語型であり、中国の古典として現代日本語の中に存在し得るにしても、日本人による運用、すなわち新規の造語は難しいという結論が出られた。また、日中造語法の根本的な違いについて以下の通り指摘している。日本語の「内心的構造」（**endocentric construction**）の中心語は右側に位置し、すなわち右側の成分が構造の品詞を決めることができる。これに対して、中国語においては、他動詞が含まれている構造では中心語が左側に位置する。すなわち内心的構造の中心語右側原則が日中造語法の唯一の違いである。「定中格（V+N）」の造語能力から見れば、日本語のほうか中国語よりずっと高く、日本語からの借用語にも少なくない。さらに、氏は複合語の分析意識は外来成分の内部には入らず、この構造の差異が中国人の日源訳語を受け入れることに対して実際

的な影響を与えなかったと指摘した。

荒川清秀『近代日中学術用語の形成と伝播—地理学用語を中心に』（白帝社、1997）の「はじめに」には「語の誕生、起源という、ある語の初出資料を突き止めることで終わってしまいがちだが、本書ではそれだけではなく、その語がいかんしてつくられたという造語論からの検討を行いたい。」としているが、当書で造語論と関連して述べられているのは、中国語では「海」と「洋」の造語力の違いがあること（P178—179）や、日中両国の「海」と「洋」の造語力の比較（P180）に留まっている。氏は「海」の方が生産的であることはたしかだが、日本語に比べ中国語の「洋」の方が生産的であることは否定できないと指摘している。

千葉謙悟『中国語における東西文化交流——近代翻訳語の創造と伝播』（三省堂 2010 年 2 月）の第三部第三章「意識語の語構成—The United States と「合衆国」—」では「合衆国」の語構成が創造当初の意図として「合衆+国」ではなく「合+衆国」であったことを指摘し、そこから生じた西洋人と中国人の間における語構成解釈の違いを考察した。また、第四章「意識語の語構成解釈と意味変化—日中における「合衆」—」では日本に伝わって以後の語構成解釈の変化に注目し、造語法から訳語の創造過程を究明した。

以上の先行研究をまとめて見ると、今まで言語接触による造語法の研究は形態素の結合パターンが生産的かという点からの分析と、複合語を構成するそれぞれの形態素の造語力、すなわち、他の形態素と結合する能力、さらに三字漢語の切り分け意識による語構成の違いなどについて触れてはいるが、後者はそれぞれ一つの例を挙げてはいるが、全体的に見れば、体系的が不足し、まだ開拓されていないところが多い。

また、以下の参考文献は中国語造語法と直接には関係がないが、本論文の創作に多大な啓発を与えた。

まず、80年代以前の中国における言語接触の研究では主に中国語に変化をもたらした原因は英語書籍の翻訳だという説をとっている。これに対して、中国語の「欧化」を日本語の影響と言う観点から研究したものには、沈国威『近代日中語彙交流史 - 新漢語の生成と受容』、『近代中日词汇交流研究 - 漢字新詞的創製、受容与共享』（中華書局、2010）などがある。これらは日中言語接触に於ける語彙の変遷や交流を解明しており、近代日中語彙交流が現代中国語の形成に不可欠な役割を演じたことを立証している。また、朱京偉『近代日中新語の創出と交流：人文科学と自然科学の専門語を中心に』（白帝社、2003）のように、日中新語を音節数と翻訳語の関係から述べたものや陳力衛『和製漢語の形成とその展開』（汲古書院、2001）のように、日本において外国の概念に対して独自に創出した漢語が中国へ逆輸入された状況を検討した優れた先行研究もある。

また、日本においては山田孝雄『国語の中に於ける漢語の研究』（宝文館 昭和15）からすでに漢語と国語の関係についての研究が始まっている。山田氏は『言海』所載の語から「和語 21871、漢語 13546」の統計データを摘出し、当時漢語が国語にとり入れられた深さの程度を考察した。また、森岡健二『近代語の成立〈語彙編〉』（明治書院、1991）や高野繁男『近代漢語の研究 - 日本語の造語法、訳語法』（明治書院、2005）などには、日本において消滅した漢語についての論述がある。上記の研究は本文の中国語造語法に直接の関係はないが、「他山之石」として、本論文の研究方法や中国語における消滅した「新語」¹¹の研究に影響を与えた。

第三節 English-Chinese Dictionary, 1916（官話）について

本論文の主な研究対象である English-Chinese Dictionary, 1916（官話）のタイトルページによると、本辞書の正式な名称は English-Chinese Dictionary

¹¹ 19世紀末から20世紀初めの10年における新語を指す。

of the standard Chinese spoken Language (官話) and handbook for translation¹² であり、編集者は赫美玲 (K. Hemeling, PH. D.) である。1916 年、上海美華書館 (The Presbyterian Mission Press, Shanghai) により出版された。この辞書は近代中国語の形成期である 1910 年代に出版され、日本から伝わった新語や中国教育部委員会選定の学術用語を採用しており、近代中国語の語彙を解明するための研究価値があると考えられる。

辞書の編纂者である赫美玲については、『中国近現代人名大辞典』¹³で以下のように紹介されている： Karl E.G. Hemeling (1878-1925)、ドイツ人。赫墨玲と訳されたこともある。1898 年から中国税関に勤め、汕頭、南京、漢口、上海、牛莊、天津、北京と蕪湖の代理、副税務長、税務長などを歴任した。1905 年、盛宣懷¹⁴の秘書として中国とドイツの通商条約の修正についてドイツ代表と交渉したことがある。

赫美玲は中国学に造詣が深い人物である。彼の著書である『南京官話』 (The Nanking Kuan Hua) は 1902 年に出版され、南京官話と北京官話の主な違いや南京官話の音声、音節などを紹介した言語学専門書である。この本では、南京官話の音声と英語、ドイツ語、フランス語、スコットランド語の音声を比較している。その他、1905 年に上海の中国税関 (Chinese Maritime Customs) により赫美玲が編集した『英漢口語詞典』 (A Dictionary from English to Colloquial Mandarin Chinese) が出版された。この辞書はステント (George Carter Stent) の『漢英合璧相連字典』 (A Chinese and English Vocabulary in the Pekinese Dialect) を底本として編成したものである。原文を変えずに新しい内容を補充しただけで、ページ数が 804 ページまで増加した辞書である。著作によると、赫美玲は言語学の専門知識を持っている

¹² 以下、『官話』(1916) と略称。

¹³ 『中国近現代人名大辞典』(李盛平編 1989 年 中国国際広播出版社) の P810 を参照。

¹⁴ 盛宣懷 (1844-1916)、近代政治家、企業家。

だけではなく、いくつかの外国語に精通していたことがわかる。

本辞書の語彙収録や対訳について、大英博物館のジャイルズ¹⁵ (Lionel Giles) は次のような評価を与えた。

One cannot help questioning Mr. Hemeling's judgment in allowing so large a number of extremely uncommon words to take up so much valuable space. (Journal of the Royal Asiatic Society (New Series) (1921), 53 : pp 631)

ヘメリン氏の、多数のめったに見ることのない単語が本辞書の貴重なスペースを占めるやり方には疑問を持たずにはいられない。(筆者訳)

Mr. Hemeling is to be commended for the evident pains he has taken to obtain idiomatic Chinese equivalents for English phrases, especially sayings and proverbs. (Journal of the Royal Asiatic Society (New Series) (1921), 53 : pp 632)

ヘメリン氏は英語のフレーズ、特に格言やことわざを自然な中国語に訳した際、様々な工夫を凝らしたことで賞賛を得た。(筆者訳)

要するに、ジャイルズの言によると、この辞書の問題点とはめったに見ることのない単語や不自然な英語タームを大量に収録することや英漢誤訳などであり、優れたところは英中対訳が自然かつ適切であることである。

どのような辞書を編纂する際にも多数の資料を参考しなければならない。参考資料を通じ、辞書がどのような語彙に重点を置いているか、また収録された語彙がどのような資料の影響を受けたかなどが分かる。『官話』(1916)の編纂過程でも多数の資料を参考していた。また、ヘメリンは序

¹⁵ ジャイルズ (Lionel Giles, 1875 年－1958 年), イギリス人。1900 年から大英博物館に勤め、館長補佐や東方図書写本部 (Department of Oriental Manuscripts and Printed Books) 部長に歴任、中国語図書の管理職を勤める。

言に参考文献を詳しく書き並べている。これらは合わせて 19 冊あり、この辞書の底本であるステント (George Carter Stent) の『漢英合璧相連字典』 (A Chinese and English Vocabulary in the Pekinese Dialect) ¹⁶に加えて 20 冊がある。

これらの参考資料については沈国威 (2010) ¹⁷に詳しく説明されているが、紙幅の都合上、本文では省略する。ただ、補充として筆者はこの中の 4 冊の参考資料の書物にあるプロセスや、原本の所蔵状況、学者の評価などについて簡単に説明する。

1. Deutsch-Chinesisches Handwörterbuch Jentschoufu (1906)について

この辞書は 1906—1907 に出版された。発行地は兗州府¹⁸であり、発行機構は Kath 出版社である。筆者が知る限り、現在アメリカのニューヨーク図書館とシカゴ図書館に原本が所蔵されている。また、この辞書が出版された経緯を記録する文献としては『胶澳发展备忘录』¹⁹があり、このメモランダムに「一部词汇量相当大的德华字典正在印刷中 (一部の語彙量が大きい逸華辞典が今印刷している)」(1904 年 10 月-1905 年 10 月) と「曾经多次被提到的篇幅浩繁的德华字典已经完成 (かつて何回も言及した紙幅が

¹⁶本辞書の扉に Based on the Dictionary of the late G. C. Stent, published 1905 by the Maritime Customs. Shanghai Statistical department of the inspe general of customs, 1916. と説明していた。

¹⁷『近代中日词汇交流研究——汉字新词的创制、容受与共享』(沈国威 中華書局 2010 年) p434-436 を参照。

¹⁸ 今の山東省南部にある。

¹⁹于新華主編、青島開埠十七年『膠澳發展備忘錄』全訳 (北京市中国檔案出版社 2007 年) を参照。この本について、以下の説明がある：2004 年 10 月に青島公文書館の職員がドイツで青島の都市建設を記録した第一手資料を大量に発見した。その一冊の名前は『膠澳發展備忘錄』であり、これは当時の膠澳總督府により編纂されたものである。1898 年 10 月より、一年ごとに記録され、1914 年まで途切れずに 17 年間記録された。

大きい逸華辞典はすでに完成された)」(1906年10月-1907年10月)の記録が残されている。以上の文献と千枚以上の頁数から分かるように、これは確かに分厚い辞書である。また、この辞書は山東省に滞在していたカトリック教メンバーにより編集され、多くの山東方言が含まれていた。²⁰

2 . English-Chinese Handbook of Business Expressions L de Gieter について

この辞書の正式な名称は *An English-Chinese handbook of business expressions used in banking, exchange, loans, stock & shares, book keeping, correspondence, commerce, industry, administration, insurances, contracts, treaties, import export, shipping, I.M. customs & postal services, etc., Compiled with a view of assisting students in the translation of Chinese commercial documents.* (英漢ビジネス表現ハンドブック——銀行、為替、ローン、株券や株式、簿記、通信、商業、工業、政府、保険、契約、条約、輸出入、海運、税関、郵便サービスなどの場合に使える。本辞書の編纂目的は学生が中国語商業ドキュメントを翻訳する手伝いすること)であり、この辞書の名前から見ると、このハンドブックは主に当時のビジネス分野に関連している語彙を収録した。この辞書は1911年に上海 *Imprimerie de T'ousèwè* により出版され、合わせて67ページあり、今は中国大連図書館西文特色館に所蔵されている。

3 Manuel de la langue mandarine, with English text A.T.Piry and C.H.Oliver

これは中国語、フランス語、英語の術語や中国北方官話の熟語やイデオムで書いたイデオロギーに関わる文集である。A.T.Piryにより編纂され、英語の部分はC.H.Oliverにより完成された。『官話』(1916)の多数の哲学分野における新語がこの文集を参考した可能性があるだろう。

4 Recueil de nouvelles expressions chinoises Zikawei

²⁰何多源編『中文参考书指南』(上海市:上海书店出版社, 1989. 10) P68-69を参照。

この辞書については、1912 年フランス遠東学院紀要（Bulletin de l'Ecole française d'Extrême-Orient）に以下のような説明がある。

Recueil de nouvelles expressions chinoises, 新名詞彙録 Chang-hai, Impr. De T'ou-sè-we, 1912; in-i 2, [II]- 100 p.

Utile petit recueil des expressions nouvelles qui « depuis quelques années, au contact de la civilisation européenne et sous l'influence immédiate du Japon, » ont été introduites dans la langue chinoise. Notes bibliographiques (In: Bulletin de l'Ecole française d'Extrême-Orient. Tome 12, 1912. pp. 113-127.)

これは新しい中国語表現の語彙集であり、名前は『新名詞彙録』である。上海の徐家匯によって出版された。出版年代は1912年であり、頁数は100である。これは新しい表現方式を集めて編纂された実用語彙集であり、主にここ数年ヨーロッパ文明と接触している過程に、且つ日本の直接の影響を受けて形成された新語である。フランス遠東学院紀要、第12巻、1912年、pp13-127（筆者訳）

この短い説明文からは二つの情報を得ることができる。一つは早くも1912年に外国より伝来された新語に関して、二言語による辞書がすでに出版されていたことである。即ち、遅くとも1912年には中国語における新語の創造はすでに落ち着いた状態になり、辞書に納めるのも可能になったということである。また、当時の辞典編纂者は日本語が中国語に直接の影響を与えていたことに気付き、特に語彙の面における借用現象に注目している。

上記で補充した内容以外に、本文ではさらにもう2点言及する必要がある。1つ目は Englishi-Chinese Stardard Dictionary, commercial Press についてである。なぜかという沈国威氏²¹によれば、この辞典は顔惠慶が編集し1908年に上海商務印書館から出版された『英華大辞典』である可能性が高

²¹ 近代中日詞匯交流研究 漢字新詞的創制、受容與共享 沈國威著 中華書局 P434.

いからだ。この辞書は『(商務書館) 華英音韻字典集成 Commercial Press English and Chinese Pronouncing Dictionary』(1903 年) を受け継いだ英中辞書で、さらには日本の英和辞典を利用したことが明確に記されており、当時大きな反響を呼んだ。したがって本文でもし時間経過の角度から『官話』(1916) に収録されている語句の「生まれ変わり」について考察が必要である場合、この辞書は重要な参考文献になるであろう。『官話』(1916) は『英華大辞典』を参考にして作られたため、もしその中で『英華大辞典』と異なる訳語を選び採用していたならば、さらに当時の訳語が短期内に大きな変化を遂げたことを証明できるし、現存している中国語語彙の語形が定着した精確な時期も確認できる。なお、この辞書に載っている参考文献には、上記で提示した *Recueil de nouvelles expressions chinoises* 『新名詞彙録』では日本語の影響を受けたとはっきり示している以外に、『英華大辞典』を編纂するのに日本の英和辞典を利用したことも確認できた。さらに『矿物字彙』(1890 年 小藤文次郎などより編集された) や日本の『哲学大辞書』を元に編纂された *English-Chinese Dictionary of philosophical terms*, D. MacGillvray. などがあり、みな訳語が「日本が原点である」証明だということが見てとれる。

次は『官話』(1916) における「新語」と「部定語」についてそれぞれの特徴や研究価値について説明したい。『官話』(1916) の序言では「新語」について次のように説明している：*Modern terms-largely drawn from old Chinese and from the Japanese language-with the character 新. It should be noted that many of these are now in common colloquial use.* (新語：主に古代中国語や日本語から選ばれ、漢字「新」で表記される。注意すべきなのは多くの新語が今日の日常生活でよく使われるということである。一筆者訳)

では、近代中国語の新語の研究から見ると、これらの「新語」はどのよ

うな研究意義があるのだろうか。

まず初めに、近代中国語の新語の起源の問題を説明することができる。当該の辞書の序言の部分にこれら「新語」に対する **largely drawn from old Chinese and from the Japanese language** の説明があり、この説明の中で我々は近代における中国語の新語の主要な起源が2つあるということが分かる。一つ目としては中国に來た宣教師である。なぜなら彼らは新語を翻訳する際に中国の古書に用いられているなじみのない漢字を使用する傾向があったからである、またもう一つの起源は直接日本の訳語を借用したことである。では、どの学問の専門用語が宣教師の手で訳され、どの学問の専門用語が日本語から借用した訳語なのだろうか。これに関しては、当該の辞書の序言に載っている参考文献から我々は手がかりをつかむことができる。なぜなら、一部分の参考文献に來華宣教師の訳語が反映されており、また他の一部分の参考文献には日本語が近代における中国語語彙へ影響を与えたことが反映されているからだ。これについては上記でも触れた。しかし具体的に各々の学問や各々の新語の起源を知るためには、『官話』（1916）に記載されているあらゆる新語を整理して初めて答えることができる。

次に、当該の辞書から中国語新語の造語法の発展過程を知ることができる。周知のとおり中国語は形態変化が欠けている言語であり、且つ意味を持っている単音節語素の大部分が語基語素になれる言語である。それ故現代中国語の語彙の中で、語基語素を複合法により組み合わせ、複合語を構成するのが最もよく行われる造語方法である。しかし20世紀以降に現れた中国語の新語を見ると、現在その造語方法に変化が生じており、多くの造語要素を付加することにより構成された新語が創製されていることを簡単に知ることができる。これらの大部分の所謂「类词缀」または「准词缀」は中国独自のものではない。19世紀末から20世紀初頭に多くの新語

が作られた中で、同時にこのような多くの造語要素も生まれた。ではこれらの造語要素はなぜ「外来」から「本土」の物になったのか、どの学科がより早く類推性質を持っている造語成分を利用して体系的な専門用語を確立できたのか、また、どの学科の専門用語が 20 世紀初頭において、なおまとまりのない状態であったか。これらの問題は未だ解決していない。『官話』(1916) に収録される「新語」を調査することにより、以上の問題を解決したい。

次は部定語について審定過程と語彙自身の特徴を述べる。まず、『官話』(1916) の序言では部定語が以下のように説明されている。(d)the standard scientific term(some 30.000)selected for the use of Chinese universities and schools by a commission of the Chinese scholar, Dr. Yen Fu(嚴復)with the characters (部定) (pu ting) . These terms cover the following sciences, Arithmetic, algebra, Geometry, Trigonometry, Logic, Psychology, Ethics, Economics, Civil, International, and Constitutional Law, History, Zoology, Botany, Organic and Inorganic Chemistry, Animal, Human and Botanical Physiology, Geology, Physics (Dynamics, Optics, Acoustics, Electricity, Magnetism, Thermotics), Hygiene, and Medicine. Of the names of places fixed on, only a small selection has been made, as complete inclusion was considered to be beyond the scope of this dictionary. Owing to the intervening political and financial difficulties, these terms have at the time of printing not been officially promulgated by the Government. (d 嚴復をはじめとする、中国教育部委員会が選定した大学や学校要の基礎学術用語約 30,000 語を漢字「部定」で表記する。これらの単語は以下の学科と関わっている：算数、代数学、幾何学、三角関数、論理学、心理学、倫理学、経済学、民法、国際法、憲法、歴史、動物学、植物学、有機や無機化学、動物や人類、植物生理学、地質学、物理学 (力学、光学、音響学、電気学、電磁学、熱学)、衛生学、医

学。地名用専門用語については、極一部を選んだ。もしすべてを収録すれば、本辞書の範囲を超えてしまうと考えらる。政治や財政などの原因で、これらの術語は政府より正式に公表されなかった。)

序言により、部定語が清政府学部（教育部）の中に設立された「審定名詞館」により選定された学術用語であることがわかる。1909年に設立した「審定名詞館」の詳しい状況について、学部は「奏陈第二年下届筹办预备立宪成绩折“编订名词馆，自上年奏设以来，教育、法政各门，已编物理、化学、历史、舆地及心理、宪法等项。凡已编者，预计本年四月可成；未编者，仍当挨次续办。”（予備立憲成績を申し上げる「編定名詞館は、去年設立の許可をいただいて以来、教育、法政各部門において、すでに物理、化学、歴史、地理及び心理、憲法などの項目の編集を始めている。上記の項目は今年の四月に出来上がる予定があり、まだ編集されていないものも順次に行うべきである。」）」²²との記載がある。また、沈国威²³の嚴複日記についての考察によれば、1909年10月13日に名詞館が設立した後、1911年8月12日には赫美玲が名詞館を訪問した。この間の二年近くで、嚴複をはじめ、名詞館は30000例の学術用語を審査した。

清末に学部が「審定名詞館」を増設したことは、近代における中国政府による名詞統一の初めての試みであった。この機構を増設する過程に学部の責任者であった張之洞²⁴は極めて重要な役割を演じた。²⁵張之洞は日本から伝来された名詞について、長らく反対する立場を示し、学部による新名詞の統一には日本から伝来された名詞を「是正」しなければならないと思

²² 陳学恂主編『中国近代教育史教学參考資料』上冊，人民教育出版社，1986年，p 760。

²³ 沈国威『近代中日词汇交流研究—漢字新詞的創製、受容与共享』中華書局 2010年 p 440—447。

²⁴ 張之洞、清末の政治家。洋務派官僚として重要な役割を果たした。曾國藩、李鴻章、左宗棠とならんで、「四大名臣」とも称される。

²⁵ 「張之洞与編訂名詞館」 彭雷霆（湖北大学学报（哲学社会科学版）2010年1月第37卷第1期）を参照。

いがちであった。さらに、嚴複自身もめったに使わない漢字で訳語を作ろうとする主張があり、この点についても多くの批判をうけた。こうした背景から、部定語には「日源漢語」の数量が少ない。この原因を分析するためにも、この辞書に収録されたすべての部定語を一つ一つ整理する必要があるだろう。

以上、新語の特徴とその研究意義、そして部定語の審定過程とその研究意義について考察した。以上に述べた時代背景と辞書特徴などから本文の研究対象を定めた。

第四節 本論文の特徴と構成

本節では先行研究及びその問題点を踏まえつつ、本論文の特徴を述べる。本論文は言語接触という角度から中国語造語法の近代化に注目し、新事物を表現する際や外国語に対訳する際に中国語語彙の内部構造にどのような変化が起こったかについて考えたい。要するに、言語接触により発生した現象は単なる語彙の借用、文法の受容だけではなく、語彙構造の面においても多かれ少なかれ影響があることを立証したい。新語の増加と中国語の本質にはどのような関係があるかについて述べたい。また、現代中国語の造語法が「西洋」と「日本」二つの影響を受けて成立したことを解明したい。

研究の特色と独創的な点は、以下の三点を取り入れたことである。

一、まず、中国語造語法をより体系的に考察することである。『官話』(1916)の新語と部定語をすべてもらさずに調査することにより、確実なデータのもとに、当時の英中辞典に載せた語彙全体の特徴を把握することができ、その中の造語法に関わる問題点も発見できる。

二、音訳語と意識語を同時に造語法の視野に入れる。音訳語とは言え、音声上の問題だけではなく、漢字を組み合わせで一定的な語形で概念を表す

ため、中国語の影響による発音や意味、語形などが中国語に同化されている。従って生産性がある造語要素を形成していると思う。また、意識語も中国語固有の構造により創造されるわけではない。多くの意識語は漢字を用いて、外国語の構造によって造製された。この種類の新語の創出は、必ず中国語自身の構造に影響を与えたであろうと思う。

三、現存語と廃語²⁶を同時に研究すること。今までの造語法に関する研究は現存語に限られており、廃語についての研究は全く開拓されていない分野である。多数の造語要素は現代中国語の形成期に強い生産力を持ったが、結局現代中国語に残されなかった。宣教師によって創製された新語や嚴複が作った新術語は古代中国語のなじみのない字や中国社会で受容しにくい語構造を使ったため、ほぼ消滅してしまった。しかし、この時期の廃語に使われている造語要素は一般に広く用いられた漢字であり、中外言語対訳の面において現在の語彙よりも分析しやすい。また、日本において和製漢語の消滅について普通語と専門用語の用字が異なっているというような先行研究があるが、中国語にも同じ傾向があるかどうかについても確認したい。

四、英中、日中対照ではなく、まず、中国語自身の変化を重視し、その上で、英語と日本語を参照しながら、西洋発、日本経由のルートを中心として、東アジア地域における文化交渉の視点から分析を行った。

研究方法は官話（1916）²⁷の新語（12134 語）と部定語（16070 語）を抽出し、英華大辞典（1908）や現代中国語の対照を行う。対照によって造語法を中心に、三者が同じ造語要素や造語手段を使うかどうかを判断する。

次は本文の構成について述べる。今まで言語接触による中国語語彙研究は意識語を対象として行われるのが主流であったが、現代中国語の造語法

²⁶ 現代中国語においてすでに消滅してしまった語を指す。

²⁷ 序論第三節でこの辞書について詳しく紹介する。

や語構成の形成を研究するためには、固有名詞を中心とした音訳語を無視することができない。第一部は音訳語を研究対象として造語法の面で考察を進めたい。第一章は『官話』（1916）に収録された音訳固有名詞を研究対象とし、第一節ではそれを翻訳方法により「純音訳語」、「半音訳半意識語」、「音訳＋範疇を表す形態素」という三つの種類に分類した。第二節では音訳語の音節数と造語法の関係について考察した。外国語と中国語の音節にどのような対応関係があるかについて、また音訳語の音声と方言の関係について考察を行った。第三節では翻訳用字と翻訳方法の変遷、そして音訳造語要素の形成について述べた。

第二章では音訳専門用語と造語法について研究を行った。まず、専門用語を学術分野ごとに「化学」、「物理学」、「地理学」、「生物学」、「医学」、「機械学」に分けた。同じ分野における音訳語語形は統一されていたかどうか、そしてその翻訳方式は同じものであったかについて考察した。第二節では「林克(link)」、「カク(cock)」、「瓦路(valve)」を例として音訳語語形の統一性と造語要素の類推機能の発達について述べた。第三節は一つの原因語とさまざまな翻訳語の対応関係を中心に、それぞれの翻訳語に潜めた造語法を究明した。

第三章では意識語が必ず音訳語に取って代わるかどうかについて、取って代わる傾向と代らない部分について論述した。

第二部では意識語と造語法の関係について述べたい。まず、意識語を現存語と廃語に分けて、現存語は「性」を例として英語原文、日本語訳語、官話（1916）の訳語の三者を対照し、意識現存語の造語要素の形成過程には英語、日本語両方の影響を受けたことを立証したい。

また、先行研究においては、当時創出された新語が消滅した原因についてのあまり検討されていない。次の小節は「質」、「精」、「素」を中心に、当辞典に収録された「質」、「精」、「素」類新語、部定語の他の訳語や『英

華大辞典』(1908)の訳語と対照して、それ以前の訳語は語彙ではなくフ
レーズで表しており、音訳の場合、「質」、「精」、「素」を利用して新語を
作る傾向があることを述べたい。また、「質」は「物、体、精、素、組」
など多くの意味を持つため、徐々に「精」や「素」に分化する傾向もある。

第二章は学術用語を中心に、新語を再分類し、各分野における語数統計、
語彙の長さの統計及び字頻統計を行う。また、自然科学、社会科学という
順番で、それぞれの学問領域から一つの分野を選び、それらの用語につ
いて調査する。第一節では生物学専門用語、第二節では言語学専門用語につ
いて論述する。

第三章のテーマは「品詞の文法的な機能と造語法」である。品詞分類や
品詞転換の角度から中国語の造語法を研究したい。また、新興品詞である
区別詞を中心とした語の当時の発展状況や、「性」、「等」などの区別詞性
格を持つ接辞の形成状況について考察を加える。英日中を対照し、区別詞
が英語書籍の中国語翻訳を通じて形成されたものであったとしても、この
過程に日本語はそのまま直接使える漢字を用いた訳語や造語語素を提供
した。これらのことから、中国語の新興区別詞は日中言語接触のもと、両
国の語彙交流や受容のプロセスにおいて形成されたと考えられる。

総括すると、第二部では意識語の造語法について、現存語と廃語の造語
要素、理系専門用語と文系専門用語の造語法、文法的な機能と造語法など
三つの角度からアプローチし、現代中国語形成期における意識語の造語法
を解明したい。

第一部 現代中国語における音訳語とその造語法

はじめに

外来概念を中国語に導入するルートとして、「音訳」と「意識」二つの手段があるが、今まで言語接触による中国語語彙研究は意識語を対象として行われるのが主流であった。なぜかという、中国語の固有造語材料を用いて中国語の固有構造により語彙を創造するのは中国語新語の主な源であるからだ。しかしながら、音訳とはある言語が外国語を借用する基本方式というだけではなく、最初に選ばれる方式とも言えよう。外来の新事物や新概念を最初に受け入れた際に外国語の意味を十分に理解できず、或いは自分の言語にその意味と対応できる意識語を見つけられなかった場合には、音訳が最も適合な方式となったのである。胡以魯は『論訳名』に「以义译为原则者也（意識を原則とする）」と主張すると同時に「第事物固有比字属名以定其号而终不可题号者，则无妨从其主称（しかし、ある事物を正確に命名できない場合は従来 of の言い方に従っても良い）」²⁸と指摘していた。従って、中国語語彙を研究する際には音訳語を重要な部分として注目しなければならない。

さらにまた、現代中国語の造語法や語構成の形成を研究するためにも、固有名詞を中心とした音訳語を無視することはできない。音訳語とは言え、音声上の問題だけではなく、漢字を組み合わせで一定の語形で概念を表すため、意識語と同様に造語の面においても、生産性がある造語要素が形成できると考えられる。意識語と音訳語双方を「外国語」ではなく、「外来語」と見なす理由は、これらが外国語とはつきり区別することができるからである。要するに、外来語は外国語の影響を受けてはいるものの、外国語を変化させずに使用するのではなく、外国語に基づいて改造や創製の過

²⁸ 胡以魯 『国語学草創』（1923年再版）付録「論訳名」を参照。

程を通じなければならない。音訳語は外国語の音声を借用するが、外国語の音声を漢字で転化する際にも「改造」や「創製」の経過があると考えられる。例えば、中国語には外国語と対応がない発音がある場合、外国語に似ている発音で取って代えるのが基本な方法であるが、鍵となる問題はいわゆる「似通っている」とされる基準は何であろうか、ということだ。違う言語にある異音²⁹、いわゆる条件異音と自由異音³⁰は互いの言語においても同じ役割をするのであろうか。また、漢字の発音と意味両方を配慮するのも音訳語の特徴と言えよう。従って、第一部は音訳語を研究対象として造語法の面において考察を進めたい。

まず、「音訳語」の概念整理を行い、定義や使用範疇を明確に確定すべきである。学界では「音訳」という概念の定義づけについては様々な見方があるが、例えば、「半音訳半意識」漢字音訳詞やアルファベットで表記される語彙は「音訳」の範疇に収めるかどうかについて、意見はまとまっていない。しかし、広義に解釈すれば、他の言語の発音を、中国語の漢字を用いて転写するという方法で創出された新語のすべては「音訳詞」と見なすことができるであろう。本文の主な研究目的は音訳詞と現代中国語造語法の相互影響を解明することであり、訳語の「漢化」³¹の深さにより外来語の創出や定着の状況を注目するものである。そのため、翻訳の過程において外国語語彙の任意の部分を漢字を用いて音声を表すことができる場合、この新語を「音訳外来語」と見なす。

明清時代より西洋宣教師の著書においてすでにおびただしい数の音訳語が現れていたが、当時は宣教師たちが布教のため、中国各地で暮らしていたため、当地の方言土語の影響を受けやすかった。周知のように、中国

²⁹ 異音 (英: allophone) とは、ある音素がいくつかの異なる音声として現れるときに、その個々の互いに異なる音声を指す。

³⁰ いかなる音環境で現れるかという条件が決まっている異音を条件異音という。現れる条件が決まっていない異音を自由異音という。

³¹ 中国語の影響による発音や意味、語形などが中国語に同化される過程を指している。

における方言の違いは大きく、特に音声の違いはもっとも大きい。従って、広州語や上海語、閩南語などの発音による音訳語が大量に作られた。また、宣教師が音訳語を作った際、どのような漢字を使うかについては個人個人が異なる習慣を持っていたので、その時代の音訳語翻訳方法や使われた漢字の字形は繁雑であり、「殊人殊訳」（異なる人により異なる訳語を出した）の時代とも言える。しかし、20 世紀初頭より、中国と外国の交流が深化するに伴い、西洋から伝来された概念が中国社会に広がり、深く理解されるようになってきた。これに従い、意識の方法で創出された新語は、元々の語形が統一されなかった音訳外来語に取って代わり、中国語語彙の圧倒的な主流になっていた。これに対して、一部の音訳語の語形は徐々に定着し、中国社会に受け入れられ、現代中国語語彙の一部になっていた。19 世紀のアヘン戦争より中国は西洋諸文化、概念、語彙などと接触しており、それによって中国語における新語の大量の増加や、一つの概念が多数の訳語と対応するなどという現象が起こった。このような現象は言語社会に混乱をもたらした。その後、多くの新語が消滅する過程を通じて、19 世紀の末から 20 世紀初頭にかけて、ようやく落ち着いた状態になり、西洋の新概念を表す新語が当時の専門用語や通用語の主流になり、また当時の中外辞典に載せられるようになった。

本章は English-Chinese Dictionary of the standard Chinese spoken Language (官话) and handbook for translation³²に収録された新語や部定語を研究対象とし、その中の音訳語をすべてもらさず調査した。辞書に収録されたタームを研究対象にする理由は、辞書に収録されたということはその語彙はすでに一定の社会範囲で使用され、社会の認可を得たということの根拠となる。この辞書が出版された時代は新概念を表す語彙が社会の主流になった

³² 以下『官話』（1916）と略称。この辞書の編集者や出版機構などは本論文の序章を参照。

時代であり、音訳語もある程度安定した状態になっていた。新語と部定語を研究対象にする理由は、この二種類の語彙は近代中国語と外国語の言語接触により創出され、近代化の特徴を持っていると見なすことができるからである。当時の音訳語がめったに使わない漢字を使う傾向があるかどうか、また、常用漢字を使う傾向があるかどうか、音訳語の構成部分は造語要素になれるか。なれるとすればそれはどのような語素なのか。以上の問題を解決するためには、現代中国語形成初期の「音訳語」を中国語造語法研究の枠に入れなければならないだろう。この部分では、音訳語を固有名詞と学術用語に分け、音訳語の音節形式や内部構造、使用される漢字の特徴などの考察を通じて、音訳語と中国語造語法の関係について述べる。

第一章 音訳固有名詞と造語法

本章は『官話』(1916)に収録された「新語」と「部定語」の統計を通じて、その中の音訳外来語について調査した。辞書に載せた音訳外来語は合わせて480例があり、それは「新語」と「部定語」の語彙数28257(うち新語が12155例、部定語が16102例である)に比べて、1.69%しか占められないことがわかった。中国語は外国より伝来されていた概念を受容し始めた際に最も著しい特徴は音訳語の濫用とのことである。すなわち、多数の音訳語で同一の西洋概念を表したことであり、訳語が相互に激しく競争して創出と消滅が繰り返していた。しかし、上述のデータにより、20世紀初頭において中国語における新概念や新事物を表す主な手段として使われたのは音訳法ではなく、意訳法が登場していた。それでは、当時がどのような音訳語が新語や規範語として辞書に収録されたか。当時の音訳語が今でも現存な中国語として使われているか。この480例の音訳語を分析することにより、この問題を解明したいと思う。付録の表一は英語原文、『官話』(1916)の訳語、「新語」か「部定語」、収録されているページ数、

辞書に載せた音訳語以外の訳語、現代中国語における訳語、『英華大辞書』(1908)³³に載せた訳語の順番で音訳語をまとめた。

第一節 音訳固有名詞の分類

本節では音訳固有名詞を分析対象として、これらを三種類に分類した。固有名詞とは「ある類に属する個物に与えられた名称を表わす語。人名、地名、国名のほか、書名、会社名、学校名、年号、商号、商品名、器物・家畜の呼び名など。(日本国語大辞典)」である。『官話』(1916)に収録されている音訳固有名詞は主に地名国名表記や人名表記、度量衡、宗教政治団体などが含まれている。筆者は音訳固有名詞を翻訳方法により「純音訳語」、「半音訳半意識語」、「音訳+範疇を表す形態素」に分類し、それぞれの特徴を述べる。

1、純音訳語

「純音訳語」とはある外国語の発音を完全に漢字で書き直す音訳語である。「純音訳語」を考察する前に、まず、ある特別な現象について検討したい。学界においては、「純音訳語」と「音訳兼意識語」を二つの種類に分けて研究する意見がある。「音訳兼意識語」とは、「香波(shampoo)」、「基因(gene)」のような翻訳の過程において、漢字の発音と意味の両方を考慮し、概念と何らかの関連性がある漢字を使用している翻訳語を指す。しかし、このような音訳語はただ漢字を選ぶ際に漢字の基本意味と音訳概念の繋がりを配慮しただけで、その本質は「純音訳語」と違いがないと筆者は考える。例えば、「香波(shampoo)」の「香」はシャンプの香りを提示し、「波」は「𩺰(さんずい)」を用いて、液体を提示してはいるが、「香」と

³³ 『英華大辞書』An English and Chinese Standard Dictionary (1908) 中国において初めて「辞書」という名称を付けた英語と中国語の辞書。編集者は顔惠慶(1877-1950)であり、1908年2月商務印書館により出版された。

「波」の基本意味を合わせて「shampoo」という全体の意味を表すことはできない。この二つの漢字はそれぞれ「sham-」と「-poo」の二つの音節に対応する非語素成分である。従って、本章はこの二種類の音訳詞を区別せずにすべて「純音訳語」と見なす。

純音訳固有名詞には主に地名や国名の表記、宗教や社会团体、人名表記、度量衡などが含まれている。まず、団体や人名類の純音訳語について以下のようにまとめた。

人名や団体類

亚波罗(【希腊、罗马神话】阿波罗(即太阳神))³⁴ 嘎利发(哈里发(伊斯兰教的国王)) 亨利(亨利(男子名)) 希尔古理(【古典神话】赫拉克勒斯) 犹弼德(【罗马神话】朱庇特) 克虏伯(克虏伯(德国大军火制造商世家)) 马而土斯(马尔萨斯) 麦弥鲁(马穆鲁克) 米度沙(【希腊神话】美杜莎) 蒙克利夫(蒙克里夫) 纳白尔(纳皮尔) 拿破仑(拿破仑) 礼尔斯(能斯特) 帕拉氏(【希腊神话】帕拉斯) 泊夫兰(扎弗兰) 基利斯督(【基督教】救世主 基督) 耶和华(耶和华, 上帝) 雷克兰斯(勒克兰社) 晒啦冰(【圣经】撒拉弗, 六翼天使)

发提麦(法蒂玛(Fatima)的后裔(的);法蒂玛王朝(909-1171)的(成员)) 弥撒(【天主教】弥撒) 波罗德斯丹(抗罗宗, 抗议宗) 乌托邦(乌托邦(理想中最美好的社会))

³⁴ 括弧内は現代中国語の翻訳語であり、主に『21世紀英漢詞典』を参照したが、他の英漢専門用語辞書も参考した。しかし、この辞書が序言で論述したように、専門用語とめつたに使わない漢字を大量に含んでいるので、どのような現代中国語辞書でも収録されていない場合もある。従って、このようなタームに含まれている音訳の部分だけを検索し、括弧内に記した。もし音訳部分にも収録されてない場合があれば、括弧内にXで表記する。以下同。

「波羅德斯丹」以外の「人名や団体類」音訳語のすべてが現代中国語においても純音訳語である。また、音節数も現代中国語とほぼ同じである。胡以魯は「人名以称号著，自以音为重，虽有因缘，不取义译。（中略）则人名亦不妨略肖国人姓名以便记忆。收声等无妨从略。」³⁵（人の名前を訳する際には音声を重視すべきである。名前に意味があっても意訳の方法を取らない。…覚えやすくするため、外国人の名前は中国人の名前に近いものにし、末音は省略しても良い。）といったような人名翻訳法を提示しているが、上記の音訳語を見ると音訳の人名は中国の音節習慣に一致して2－4字の漢字で表して入るものの、中国人の名前に似せてはいないようである。

次は地名や国家名の純音訳語を整理した。以下のように地名や国家名の純訳語は7つある。『官話』（1916）の音訳語においては、「奥国（Austria）」以外がすべて純音訳語である。

地名・国家名類

阿非利加（非洲） 盎格鲁撒逊（盎格鲁—撒克逊） 阿根廷（阿根廷） 澳斯他利亚（澳大利亚） 巴非列（巴伐利亚州） 玻利非亚（玻利维亚）

以上の地名・国家名は今でもすべて音訳で概念を表し、その内の五例は現在においても純音訳語で表す。ただ、「阿非利加」と「巴非列」二例は、現在「音訳＋範疇を表す形態素」で訳している。胡以魯の「論訳名」に「地名取音与人名同。可缘附者不妨缘附，可略者无妨从略，国名州名之习用者不妨但取首音，音声学应有之损益且无妨从习惯而损益之。（中略）其所异

³⁵ 胡以魯「論訳名」を参照。以下同。

于人名者，则可译无妨译义。」（地名の音訳は人名と同じである。意識できる地名は意識しても良い。省略できるものは省略しても良い。よく使用される国名や州名などは最初の音節で表しても良い。音声学上の増減すべきところは慣例に従い、増減しても良い。）と記されていることに対照して見ると、当時の地名音訳に使われる翻訳法は省略法ではなく、直音訳である。また、全体的に見ると、その中大部分の地名国家名類はすでに統一されている。以下は「Arab」を例として整理した表であるが、違う単語やフレーズにおいて「Arab」がいずれも「阿剌伯」に訳されている。

英語原文	『官話』部定語	非新、部定語	現代中国語
Arab	阿剌伯人	天方人	阿拉伯人
Arabia	阿剌伯国	天方	阿拉伯
Arabian figures	阿剌伯码	X	阿拉伯数字
Arabian numerals	阿剌伯码	X	阿拉伯数玛

もう一種類の純音訳語は度量衡用固有名詞である。『官話』（1916）に収録された純音訳度量衡類語彙は以下の通りである：

度量衡類

安培（【电学】安(培)(电流单位)） 克伦（库仑(电量单位)） 代尼(达因(力的单位)） 达因(达因(力的单位)） 华拉德（法拉（电容单位）） 咖（口伦）（加仑） 高伦（加仑） 格兰（克） 格兰姆（克） 咀尔（【物理学】焦耳(米千克秒制中功和能的单位)） 启罗窝特(千瓦) 立特(公升) 米突(米(公制长度单位)） 迈当(米(公制长度单位)） 翁漠(欧姆) 欧木(欧姆) 吨（吨） 弗打（福特（电压单位）） 福尔（福特（电压单位）） 和尔特（【电工学】伏特，伏） 米库罗华拉德（【电工学】微法(拉)）

音訳度量衡類名詞は合わせて 34 例あるが、そのうち、21 例は純音訳の形で表れる。その他は半音訳半意識語 11 例と「音訳＋範疇を表す形態素」語 2 例がある。この統計データによれば、度量衡類固有名詞の大部分が純音訳語であった。また、現代中国語と比較すると、当時の用字と違いがあるが、基本的には純音訳の翻訳方式を継承している。これは度量衡概念は完全な外来概念であり、中国語で意識するのが他の概念より難しいからである。その上、多くの度量衡類語彙の外国語原文の音節は短く、二つの漢字で表記することができ、「双音節」という中国社会の語彙音節意識に相応しい。

2、半音訳半意識語

半音訳半意識語とは外来の概念を翻訳する際に外国語原文の一部分を音訳で訳し、一部分を意識で訳した語彙である。この種類には意識の部分があるので、「漢化」の程度が純音訳語より高い。統計によると、歴史事件や王朝類の固有名詞は半音訳半意識で翻訳する傾向がある。具体的な例は以下の通りである。

歴史事件や王朝類

加伯朝（卡佩王朝） 加罗林朝（X） 拿破仑法典（拿破仑法典）
伯林会议（X） 布尔奔朝（波旁王朝） 兰迦斯德朝（兰开斯特王朝）
都度尔朝（都铎王朝） 瓦罗亚朝（瓦卢瓦王朝） 约克朝（约克王朝）
墨罗文朝（X） 布尼之战（布匿战争） 维也纳会议（X） 奥地利继统之役（奥地利王位继承战争） 波兰继统之役（波兰王位继承战争） 西班牙继统之役（西班牙王位继承战争） 圣约翰骑士（X）
胡亦党（辉格党） 少年义大利党（【历史】青年意大利党）

また、度量衡類は半音訳半意識語の数量も多く、度量衡における半音訳半意識語は複合度量衡類に集中している。

度量衡類

安丕小时([电] 安培小时) 百分格兰姆(里克) 百分立特(厘升) 百分米特(厘米) 千千欧穆(【电工学】兆欧(姆)) 公墩(公吨; 米制吨(重量单位)) 微华拉德(微法) 千法拉(微法) 微法拉(微法) 米库罗华拉德(微法) 瓦德小时(瓦时 瓦特小时)

国名類の「神圣罗马帝国(神圣罗马帝国)」や「拉丁帝国(拉丁帝国)」などの例と団体類の「拉丁护教派」などの例もあるが、数が少ないため、本節の研究対象からは除外する。

以上、歴史関連の用語と複合度量衡用語が半音訳半意識語になる理由は二つあると考えられる。一つは元々の英語原文が長く、逐一音訳すると長くなってしまうため、意識法が語形を短くする有効な手段であったこと。また、これらの種類の英語原文は複合語やフレーズであるので、構造を分析することができ、意識することも可能であったこと。しかし、別の角度から見れば、造語の面においては、この種類の音訳語は造語要素をつくる語素になるのも難しい。それは音訳の部分は具体的な概念や特定の事物を表すため、意味の表現に限界性があるからである。また、意識の部分はほぼ基本概念を表すや基本修飾語素として使われ、新しい語彙を創造するには生産力が弱い。

3. 音訳+範疇を表す形態素

「音訳+範疇を表す形態素」類音訳語とは外国語を音訳した後に、音訳の後ろに範疇や類別を提示できる漢字を付けて形成される音訳語である。

この種類の音訳語の命名はまだ統一されない。例えば、張永言は「混合詞」と名づけ、「汉语里的借词有时在译音之外再在后面加上一个‘类名’这种由一部分外语成分和一部分本语言成分组成的词也叫‘混合词’ (hybrid)。」

(中国語の借用語は音訳の後ろに「類名」をつけられることもある。一部分の外国語成分と一部分の自分の言語成分を組み合わせで構成される語彙は「混合詞 (hybrid)」と称する。) と定義している。³⁶この種の音訳語は意味が明確であり、漢化の程度も高いので、生命力が強い音訳語であろう。しかし、当時の辞書に載せた「音訳＋範疇を表す形態素」を統計して見ると、この種類の音訳語は数量が少なく、「範疇」も具体的な概念で、日常生活に関わる語素である。例えば、国家民族類の「阿剌伯人(アラ伯人)」、「阿剌伯国(アラ伯)」、「奥国(奥地利)」、「哈迈特族(含米特人, 含族人)」、「塞迈特族(闪族; 闪米特人)」や度量衡類の「立特单位(公升)」、「恩斯单位(盎司)」、宗教や政治団体類の「哥兰经(古兰经)」、「日伦大党(吉伦特派(成员))」、「伊斯兰教(伊斯兰教)」、「雅各宾党(【历史】雅各宾党人)」、「摩尼西教徒(摩尼教徒)」、「吠陀经典(吠陀经)」などがある。

「音訳＋範疇を表す形態素」類音訳語の「範疇語素」は類別、範囲を表すことができるので、類推性と生産性があり、現代中国語においては新語を創出するに最も便利な方法である。その上、「音訳＋範疇を表す形態素」の発展は、次のことを証明することができる。すなわち、全ての語素の中で、範疇を示すことができる部分の語素の活動性が強くなることで、分離できる一部分として造語に使われるということである。しかし、上記の例から見れば、当時はこれらの形態素がまだ虚化されておらず、範疇形態素は造語要素として語彙を創出できる機能が未だ発達されていなかった。また、上記の例に挙げた範疇形態素も半音訳半意識語と同じく、造語の面では限界があるため、生産力を持つ造語要素になるのが難しい。

³⁶ 張永言『詞彙学簡論』華中工学院出版社 1982年9月 第一版 P95を参照。

第二節 音節形式の特徴と多音節造語法の成立

本節では音訳語の音節形式と造語法の関係について考察したい。まず、中国語の特徴より音訳語の翻訳過程を検討し、その本質を解明したい。中国語は音節を基本音声単位として成立している言語であり、音節と対応する記録記号は漢字である。漢字で外国語を音訳することの本質は、とある音節を音声形式としての記号で外国語を切り分け、また記録することである。従って、音訳の過程に最も大切なのは中国語の音節で外国語の音声構造を切り分けること、すなわち、中国語の音声システムで外国語の音声システムに対応することである。この過程において中国語音声は外国語に制限と改造を与えており、「漢化」の過程と見なされる。

そこで、本節では「音節の漢化」を中心として『官話』（1916）に収録された音訳語を分析する。統計によれば、音訳固有名詞において音節が最も長いのは7つであり、短いのは1つである。そのうち、単音節が1例、双音節が20例、三音節が25例、四音節が32例、五音節が10例、六音節が5例、七音節が2例である。また、純音訳語には単音節が1例、双音節が18例、三音節が19例、四音節が8例、五音節が3例、六音節が1例であり、半音訳半意訳語には双音節が1例、三音節が5例、四音節が14例、五音節が6例、六音節が4例、七音節が2例あり、「音訳＋範疇を表す形態素」語には双音節が1例、三音節が1例、四音節が10例、五音節が1例ある。以上のデータにより、音訳語の音節数量は基本的に2-4音節にまとめられ、純音訳語は双音節、三音節、半音訳半意訳語は三音節、「音訳＋範疇を表す形態素」語は四音節にまとまる。

まず、音節の対応関係から考察を行う。音節対応の規則性から見ると、対応できる音素は他の音素と組み合わせると、対応できなくなる場合がある。西洋諸言語の音節形式はほぼ多音節であるため、音訳を通じて創製さ

れる中国語新語も多音節語である場合が多い。それは純音訳語、すなわち音節対音節の形式と半音訳半意識、「音訳＋範疇を表す形態素」の音節対音節と意識部分の形式が含まれている。また、音節対音節の形式は一对一の関係に限らない。現代中国語の主な造語方法は合成と縮減であるので、ここでも音節の対応関係は二種類に分けることができる。一つは音節を縮減すること、もう一つは音節を増加することである。中国語は外国語を受け入れる際に多音節を単音節に縮減することについて大体以下のような方法で省略する。まず一つは前の音節だけで音訳することである。例えば、*ipecacuanha* [ˌpɪkækjʊˈænə] を「衣必格」に、*mangosteen* [ˈmæŋgəstiːn] を「芒姑生」に、*fahrenheit scale* を「法伦表」に、*girondists* を「日伦大党」に訳す。また、初めの一音節プラス意識形態素で音訳する。例えば、*fahrenheit thermometer* を「华氏温度表」に、*galileas' thermometer* を「加氏温度表」に、*Austria* を「奥国」に訳す。さらに、*Hinke's bird's plan of window ventilation* を「辛伯通气窗」と訳したように二つの単語からそれぞれ一つの音節を選び、組み合わせて新語を創製する手段もある。

以上のような多音節外国語を中国語に訳する際に、音節を短くする手段について、重視されてこなかったもう一つの傾向がある。それは音節を増やすことにより音訳語を創出することである。これも中国語の語形や音声の「漢化」のため、外国語の音節を増加して形成された音訳語である。また、音訳成分の前後に意味を表す中国語語素を付加するのも、中国語の多音節化単語を増やす有効な手段である。趙元任³⁷が「中文里的音节跟字数对于翻译外国名字很有影响。中文很少单音节的字，所以往往把外国的单音节译成两个。」（中国語の音節と字数は外国語の名前の翻訳に多くの影響を与えた。中国語には単音節の名前が少ないため、外国の単音節語を二つの音節に訳するのが一般的である。）と指摘したように、『官話』（1916）

³⁷ 趙元任語言學論文集 2002年 商務印書館 624ページを参照。

においても音節を増加して訳されたことが多かった。人名類の *Krup* [krʌp] を「克虜伯」に、度量衡類の *dyne* [dam] を「代尼」、「达因」に、*gramme* [græm] を「格兰」や「格兰姆」に翻訳したのがその例である。いずれも英語の音素を中国語の音節に訳したことにより、音節を増やしている。また、*hercules* ['hɜ:kjuli:z] を「希尔古理」に訳したように、「r」は独立の音素表記ではなく、ただのアルファベットであるが、音訳の際に漢字で一つの音節に訳したこともある。音節の対応関係から見れば、増加であろうと縮減であろうと、中国語の音節は大体漢字 2 字から 5 字までであり、音訳語の創製により中国語も多音節化の方向に進んでいた。

また、漢字は意味を表す機能を持つため、半音訳半意識語や「音訳＋範疇を表す形態素」語は中国語の言語習慣に相応しく、音訳語の創出過程によく使われていた。上述したように、純音訳語や音訳の部分は双音節以上であり、意識の部分や範疇を表す形態素に加えて、音節数は三つを超えていたため、この造語方式は中国語の三音節語の発展にも影響を与えた。要するに、純音訳語が双音節、三音節、半音訳半意識語が三音節、「音訳＋範疇を表す形態素」語が四音節で表記されたため、双音節を基本語彙単位とする現代中国語に変化をもたらした。かつ、音訳語の語形が一旦定着すると関連性がない漢字の組み合わせは分離にしにくく、また省略もしにくいため、そのまま現代中国語に残り、多音節語の数量を増やしてきた。このような三、四音節語により、新しい造語要素も形成したことについて本章の第三節で詳しく考察する。

続いて、音訳語の音声と方言の関係について考察を行った。近代において、外国より中国に伝えられる新概念は主に方言を話す地区より取り入れたため、当時の音訳語も方言と深く関わっている。従って、官話の発音で音訳語を読むと、おびただしい数の語彙が外国語原文との対応関係を示さないため、意識語と誤認したり、語彙の意味を誤って理解したりすること

が多い。この時期の音訳外来語と方言の関係を解明するため、筆者は『官話』(1916)の音訳語と『英華大辞典』(1908)の訳語や『字典集成』(1875)³⁸の「雑字」部分の「第四：国与附近中国之岛、第六：各国京都名、第七：各国人」三つの項目を比較してみた。三者の比較により、『官話』(1916)の音声は以前と違う特徴が表されることがわかった。

音声から見れば、南方音から北方音に、中古音から現代音に変わる傾向がある。例えば、「亜」が「阿」に転換される過程は以下の表の通りである。

英語	『英華大辞典』 (1908)	『官話』(1916)	現代中国語
Africa	亚非利加(洲名)	阿非利加(部定)、非洲	非洲
Arab	亚刺伯人	阿刺伯人	阿拉伯人
Arabia	亚刺伯国	阿刺伯国	阿拉伯
Arabian figures	X	阿刺伯码	阿拉伯数字
Arabian numerals	亚刺伯数号	阿刺伯码	阿拉伯数码
Argentine	(南美)亚真廷民 主国的	阿根廷	阿根廷

上の表により、『英華大辞典』(1908)と『官話』(1916)において「亜」と「阿」に体系的な変化が起こったことがわかった。『字典集成』(1875)においても Arabia を「亚刺伯国」に、Africans を「亚非利加洲人」に訳されているので、その出版年代である 1875 年早くには英語の「a」を漢字「亜」で訳するという伝統があり、この訳法は 20 世紀初頭にも使用され続けていた。しかし、現代中国語音声の変化とともに、『官話』(1916)に収録された音訳語も現代中国語の「標準」発音に近づいており、体系的に推移していた。「亜」は広東語で「a」と読み、英語の「a」と対応関係があ

³⁸鄭其照『字典集成』第二版 1875 年

るが、北京官話とは対応しなかった。また、『官話』(1916)においては「亜」の音声表記が「y a」であり、「阿」の表記は「a」であることから、当時の辞書に記載された音声表記は今の発音と一致している。

その他、Argand burner の訳語は「亜根(広東語: gan) 灯头」から「亚干(官話: gan) 灯」になり、chocolate の訳語は「初(広東語: co) 高辣」から「楂(官話: cha) 古律」になり、いずれも広東語の発音から官話の発音に移転した。

さらに、『英華大辞典』(1908)の音訳語と英語原文を比較してみると、「有気音」と「無気音」を意識せずに漢字を選ぶ傾向があった。しかし、『官話』(1916)には英語原文の「有気音」と「無気音」を対応できるように改訳していた。例えば、

watt hour (1908) 瓦德小时 (1916) 瓦特小时

centimeter (1908) 梅得之百分之一 (1916) 百分米特

krupp (1908) 哥罗伯 (1916) 克虏伯

lavender (1908) 啦芬特香草(唇形科植物用以熏衣者) (1916) 拉芬大

三十六字母³⁹により、中古中国語には声母体系の最も著しい特徴として、濁の破裂音と破擦音が存在しており、有気の破裂音と破擦音、また無気の破裂音と破擦音、三つの意味を弁別できる対立な発音として中国語の音声体系において重要な位置を占めしていた。例えば、幫[p]、滂[pʰ]、並[b]は重唇音の「有気音」、「無気音」、「有声音」である。しかし、現代中国語の音声は中古中国語より大きく変わっている。音声体系の最も重大な変化といえば、全濁音と入声の消滅であろう。それにもかかわらず、『英華大辞典』(1908)に載せた音訳語はなお「有気音」と「無気音」を区別せずに、

³⁹三十六字母は、中国音韻学上韻図などで頭子音である声母の類別(声類)を表すために使われた36個の代表字。唐宋時代中古音の子音を表しており、韻書『切韻』の体系と対応する。

中国語と外国語が対応できる音声を対応せずに訳した。つまり、当時の音訳語は当時の中国語の音声を基準として訳した語彙ではなかったのである。しかし、この現象はその後変化した。こうした音訳方式の変化は 20 世紀初頭になって次第に音訳語の全体に浸透してきた。

言語三要素とは言語の音声、語彙と文法である。そのうち、官話と方言の差異の大きさから順番をつけると、最も大きいのは音声であり、その次は語彙であり、文法の違いが一番少ない。音訳語は音声と語彙二つの要素と深く関連しているので、音声の大きな差異との連動があり、意訳語より変動が大きいと考えられる。従って、方言で訳した一つ一つの音訳語は現代中国語に入ることが可能であるが、方言の発音で外国語の音声を表す漢字を体系的に音訳語用字とするのは難しい。

第三節 翻訳用字と翻訳方法の変遷と音訳造語要素の形成

おびただしい数の音訳語の伝来とともに、中国語は新しい語彙を受容しただけではなく、新しい造語材料も増加し、中国語の語構造の基盤も広がっていった。本節において、二つの課題を検討したい。一つは翻訳用字の変遷と造語要素形成との関係、もう一つは翻訳方法によって造語法に与えられた異なる影響である。

まず、翻訳用字について論じる。中国語の漢字は音声形式上において音節と対応するが、漢字で表せるのは音節だけではなく、漢字の基本的な意味も含まれている。すなわち、音訳過程の本質はとある表意言語の語素表記を純粋な表音表記として使用することである。従って、中国社会は「音訳」の方法を用いて外来概念を受け入れる際、漢字がそれぞれ一つか二つの基本意味を持つという言語心理の支配により、音声が同じ、または類似する漢字の中に、外国語原文の意味に近い、あるいは関連性がある字を

選ぶ傾向がある。これは音訳語に使われる漢字が形声字の「形旁」⁴⁰で意味範疇を表す傾向と同じであることや、中国語が外来の概念を音訳する過程に「漢化」の方向に傾いていることを示している。この現象について論述した文章は少なくない。例えば、「从历史上的情况看，好些早期一词多形的音译外来词，在长期的历史发展中，往往是那些音译用字带有合理形旁的词形逐渐战胜其他词形而流传下来。」⁴¹（歴史上の状況から見れば、初期に一つの単語に対してさまざまな語形がある多数の音訳語が、長期の歴史発展を通じて、音訳用漢字には、分析できる形旁が付いている漢字が徐々に他の語形に打ち勝ち、現在に残った。）のような見解がある。これに対して、筆者はもう一つの現象も無視できないと考える。それは音訳の過程においては、基本意味が確実に変動がない漢字を意識的に避けることである。また、漢字と漢字の組み合わせについても二字を合わせて新しい意味が出てくることを避けている。これは中国社会で、この音訳語の意味が誤解されることを防ぐためである。これは趙元任がこの現象について指摘したように「单音节现象的压倒优势使得人们把没有意义的音节也看成有意义。例如把‘葡萄’写做‘蒲桃’。上海人管末班电车叫‘赖四卡’（last car），因而把倒数第二班车叫‘赖三卡’。」⁴²（単音節現象の圧倒的な優位によって、人々は意味がない音節にも意味があるようにみなしてしまう。例えば、‘葡萄’を‘蒲桃’に書き直ったり、上海の人は終電を赖四卡（last car）と名づけたため、最終から二番目の電車を‘赖三卡’と呼ぶ。）これらの音訳語は分析できる漢字を使ったため、本来の意味と字面の意味が混ざり、結局本質な意味を失ってしまったわけである。要するに、音訳語の漢字用字を考察する際には、単なる「意味との関連性」を考えるだけでなく、「意味との無関連性」も考えなければならない。本節では、以下のように

⁴⁰ 漢字の構成で大まかな意味を表す偏旁である。

⁴¹ 楊錫彭 漢語外来詞研究 上海人民出版社 2007年 p60.

⁴² 趙元任 漢語口語語法 商務印書館 1979年

三種類に分けて、音訳語用字になりやすい漢字や、「形旁」の役割、漢字間の組み合わせなどについて音訳語用漢字の特徴を述べる。

まずは漢字の意味と音訳語語形の関係を論じる。まず、以下の例を見てみよう。

英語原文	1908 英華大字典 1916 官話の非音訳	1916 官話 音訳語(新 /部定)	現代中国語
Bavaria	巴维也拉（德之一邦）	巴非列	巴伐利亚州
Bolivia	玻利非亚国（在南美洲）	坡利非亚	玻利维亚
chlorodyne	止痛药（内含鸦片，哥个罗方，大麻等物）	哥罗颠	哥罗丁，氯仿吗啡酊（止痛药）
whisky	谷蒸酒（新）英国烧酒（新）	灰（回）司（思）克	威士忌酒

上記の例はいずれも『英華大字典』（1908）から現代に至るまで、ずっと音訳語として使われるが、語形がそれぞれ違う。まとめて見ると、「非」は「伐」や「維」に、「颠」は「丁」に、「灰」は「威」に変換されている。現代漢語大詞典によれば、「非」の基本意味は「违背、不合；不对，错误（不相応；…ではない）」であり、「颠」は「坠落；颠倒（落ちる、逆さまにする）」であり、「灰」は「尘土，污垢（ほこり、灰）」である。これらのマイナスの意味は中国社会において新概念が命名される際の漢字意識に合わないので、他のプラスの漢字や無感情の漢字で入れ替えた。これは外国人の名前を音訳する過程において、性別感情を重視し、音訳の名前を見れば、男女を分別することができるようになることと同じであり、中国人の漢字意識と深く関連している。

次は「形旁」の役割について考察する。現代中国語の通用漢字の統計によれば、形声字は全漢字の80%以上を占めていて、漢字において欠くこと

のできない部分である。漢字の「形旁」は意味範疇を提示する機能をもつため、中国人は「形旁」を通じて漢字の大体の意味や所属分野などを推測する思惟方式がある。この方式は確かに中国語漢字の学習や使用に役に立つが、音訳語にとって、逆効果となりやすいケースも多い。例えば、「Sairanthus」を「淡巴菰」に訳したことと「coffein」を「咖啡因」に訳したことを比較して見ると、「菰」は「植物」を提示することができるが、「因」は何にも提示することができない。しかし、現代中国語において、この二つの音訳語の運命は大きな違いを示し、「淡巴菰」という語が消滅されてしまったのに対して、「咖啡因」は未だ存在しており、さらにその「因」という字は造語要素として高い生産力を持つようになっている。従って、音訳語を創造する際、「形旁」を避けることもある。以下の音訳語はこの現象が起こっている。

英語原文	1908 英華大字典 1916 官話の非音訳	1916 官話音訳 語 新、部定	現代中国語
gallon	咖（口伦）（量名）	咖（口伦）	加仑
joule		咀尔	焦耳
seraphim	高等天使、西啦冰，上等天神，上等天使，头等天使	晒啦冰	【圣经】撒拉弗，六翼天使
vaseline	软煤腊（新）石油质（新）	花士苓	【商标】凡士林；矿脂
Mariotte's law	吗利窝公例（部定）马利窝公例（部定）		马略特定律

上記の概念は『官話』（1916）でも現代中国語でも音訳の形で訳されているが、形声字をやめて「独体字」⁴³で訳し直した。例えば、「seraphim」は天使の名前で、口や氷と関係がないので、誤解を招かないように「口」

⁴³ 一個の部分で字をなしているものを指している。

旁と「二水」を使わずに翻訳しており、「Mariotte's law」も「口」と関係なく、「吗」から「马」に訳された。

最後に漢字と漢字の組み合わせについて考察を行う。音訳語のデータに以下の通り見る事ができる。

英語原文	1908 英華大字典 1916 官話の非音訳	1916 官話の音 訳語(新、部定)	現代中国語
Bosnia	波斯尼亚（奥之南部）	博士尼	波斯尼亚
cocoa	椰子饮品	哥哥	可可粉, 可可豆, 可可饮料

これらは漢字と漢字の関係から見ると、分析することができず、並列順番がない組み合わせで表現する傾向が見られる音訳語である。「Bosnia」を例として分析すると、『英華大字典』（1908）には「波斯尼亚」として訳されたが、『官話』（1916）には「博士尼」と訳されている。これは音節上の考えからであろうが、現代中国語は『英華大字典』の訳法を採用している。これは「博士尼」の「博」と「士」が組み合わせられると「学位の最高段階」という意味があるからであろう。「cocoa」も「哥哥」という「兄」の意味を持つ二つの漢字で表わされることは現在行われていない。

次は翻訳方式と造語法の関係について述べる。外来概念を受け入れた初期の段階においては、外国語の音声は「漢化」の過程を経たが、我々はこの一方的なプロセスだけへ注目するのではなく、次の段階も考察しなければならない。外国語の音声は中国の漢字で表記された後、その音訳語は現代中国語語彙の形成にも影響を与えた。この語彙交渉の過程において、音訳語の造語機能も表れつつある。音訳語に使われる漢字は元々音声表記の機能のみを持つだけであったが、徐々に語形を定着していくと共に、表音で使われる漢字が中国語の新しい造語要素に転化された。これは意味がない音節が「意味化」したものであり、類推性と生産性を持った語素になる

ことができたものである。この「意味化」は翻訳方法の影響を受けたが、翻訳方式が造語法にどのような影響を与えたかについては、本章の第二節の中外音節対応関係と深く関連している。中国社会は意味がない音節と意味がある漢字を混同しがちであり、意味がない音訳語を意味がある中国語の複合語として語構造の角度から分析する傾向がある。その上、中国語には修飾構造の複合語が圧倒的に多く、情報の焦点が第一音節に置かれるのが一般的である。すなわち、他の単語と区別できる特徴は初めの語素を通じて伝達する。従って、元々の情報を保持しながら省略する際には、他の部分を簡略して初めの音節を表す漢字を保留するのがよく使われる翻訳方法である。音訳語は修飾構造の複合語ではないが、その多音節属性により簡略する際は複合語の簡略方式を真似る傾向がある。この音節数量の減少により形成された新しい語素が語幹になり、さらに新しい中国語語彙を創出した。中国語語彙発展の歴史を遡ると、この音訳外来語の音節数量簡略によって造語成分になる現象がよく見られる。たとえば、東漢時期には仏經の翻訳により中国語に入った音訳語が省略され、仏教関係新語の創製に寄与した。例えば、「鉢多羅」を「鉢」に、「劫波」を「劫」に、「佛陀」を「佛」に、「禪那」を「禪」に、「塔婆」を「塔」に省略し、造語要素として使われている。

本節は現代中国語におけるこの種類の造語要素の発展過程に注目する。ここでは単音節語素だけではなく、語形が短い音訳外来語をも研究対象に収める。語形が短い音訳外来語（主に双音節）も生産力が高いからである。まず、『官話』（1916）に収録されたすべての音訳語のなかで、現代中国語においても単音節語素として使えるのは「澳」（オーストラリア）、「奥」（オーストリア）、「咖」（コーヒー）、「米」（メートル）と「義」（現代中国語は「意」で、イタリア）などであるが、『官話』（1916）に調べると、「澳」は「Australia（澳斯他利亚）」一例、「義」は「Young Italy（少年义大利）」

党)」一例、「奥」は「Austria（奥国）」と「war of Austrian succession（奥地利継統之役）」の二例しかなかった。以上のような「地名」を簡略して形成された造語要素はまだ発達していなかったことが分かる。また、「咖」は以下のような例が検索できるが、詳しく見ると、「咖」と「啡」を連続に使っていたり、「咖啡」と関係なく、他の概念の音訳語用字として使っただけである。

coffee berry	咖啡子儿
coffee berry	咖啡豆儿
caffein	咖啡质
curry	咖喇粉
gallon	咖(口伦)
coffeine	咖啡质
coffee excites	咖啡戟刺

これに対して、「米」は「米突」、「米特」の省略語として造語に参加した。以下の A、B、C、三つの表はいずれも「meter」の意味を表すために漢字「米」を使って創造された語であるが、それぞれ違う本質を持っている。

表 A

centimeter	百分米特
metre	米突
metric system of weights and measures	米突量法
metric system	米突法
metric system	米特量法

表 B

centimeter	百分米
cubic centimeter	立方百分米

decameter	十倍米
decimeter	十分米
dekametre	十倍米
hectometre, Hm.	百倍米
metric system of weights and measures	米法度量衡
micromillimeter	千千分米
millimeter	千分米
myriametre	万倍米

表 C

micron	兆分米
micron	千千分米

表 A は簡略されていない形で「meter」を訳しており、語形が「米特」と「米突」の二種類ある。表 B は簡略された単音節の「米」で「meter」を対訳する単語である。表 C は「米」で「meter」の意味を表すが、英語の原文とは対応していない。これは「米」の語素化過程という角度から見れば、三つの進展段階とも言える。まず、多音節（双音節も含まれている）の音訳語で一つの外来概念を表現した。次に一つの漢字に省略して同じ概念を表す。最後に意味がある造語要素として新語を創出し、この段階ではもうすでに外国語原文と対応関係がなくなっている。すなわち、「音訳」の特徴を完全に失っている。

表 D

carmine	呀兰米红
medusa	米度沙
millimeter	米里枚
conchoid of Nicomedes	尼柯米地斯曲线

micro-farad	米库罗华拉德
zamia	撒米阿

表 D に示したように、「米」を音訳語用字として「meter」と全く関係がなく、音声だけを表す音訳語も存在したので、「米」は当時「音訳用漢字」と造語要素二つの性格を持っていたことがわかる。周洪波⁴⁴によれば、簡略形式の音訳成分の語素化が可能になる条件であるが、語素化の深さは定着された語素に意味があるかどうかで判断する。特定の言語環境を離れても意味が明確かどうか、また、多くの語素と結合できるかどうか判断の基準である。要するに、音訳外来成分は生産性がある語素になるためには以上の二つの条件を満たさなければならない。「米」は古代からずっと単一の「お米」という中心的意味があり、実物を表現する名詞として使われている。それゆえ、度量衡として使うと、漢字自身の表意負担が軽く、意味間の混乱も発生しにくく、言語環境を離れても意味が明確である場合が多いと考えられる。

また、現代中国語の音訳語素に関する先行研究により、現代中国語の音訳語素は「啤、吧、秀、奥、的、波、咖、迪、巴、摩、模 s、酷 s、派 l、艾 l、唛 l、克隆 l、纳米 l、艾滋 l」⁴⁵などがすでに定着したが、『官話』（1916）には「咖」という訳語しか検索できなかった。⁴⁶すなわち、当時の音訳語素はまだ未発達で、現代中国語と大きな違いを示していた。

⁴⁴ 周洪波『外来詞訳音成分の語素化』 語言文字応用 1995 年第四期（総第 16 期）を参照。

⁴⁵ 蘇新春「当代漢語外来単音語素の形成と提取」（中国語文 2003 年 6 月）、孫道功「新詞語外來音訳詞帶來的新語素考察」（雲南師範大學學報：對外漢語教學與研究版 2007 年第 5 卷第 4 期）、劉曉梅「当代新詞語對漢語語素系統的影響」（暨南學報（人文科學與社會科學版），2005 年 1 月）を参照。蘇新春ははじめてこの問題を研究したが、その後の研究者は基本的に蘇氏の結論を踏まえて論述しているので、筆者はこれらの意見をまとめて現代中国語音訳語素を挙げた。後ろに表記がない語素は蘇の意見であり、s で表記するのは孫が補充した語素であり、l で表記するのは劉が補充した語素である。

⁴⁶ 「奥」は蘇文によれば「オリンピック」と対訳する音訳語素であり、地名の「奥」と異なる。

それでは、当時の音訳語には現代中国語における訳音「語素化」の動きがあったのだろうか。蘇新春は外来語素は「复音外来词—单音节式简化—独立运用—重复构词—单音语素的完成（多音節外来語—单音節形式へ簡略化—独立運用—語彙の創出に繰り返して使う—单音節語素の完成）」という過程を経て、単音語素になれると指摘したが⁴⁷、筆者は当時の一部分の双音節語が「単音節形式に簡略化」される段階を除いて同じ語素化進化過程を経験していた現象についても考察した。これらの双音節音訳語が英語原文の音声から脱出し、意味を表すことができる「語素」として新語を創出することに注目する。このような双音節訳語は「専門用語」に集中していたので、詳しく考察した内容は以下の第二章第二節に述べる。

次に、「音訳＋範疇を表す形態素」の翻訳方式に注目したい。音訳語の翻訳方式の変遷歴史から見れば、漢字で音訳する場合、最も新しい方式は「音訳＋範疇を表す形態素」である。『官話』（1916）によく見られる「国」や「族」など範疇を表す形態素は類別や範囲などを示す意味が含まれているので、類推性と生産力が強いと考える。現代中国語には範疇形態素で新語を創造するのが一般的であるが、「音訳＋範疇を表す形態素」はこの形態素の活発性が強くなり、語彙全体から分離できる一部分として造語過程に参加していたことが証明できる。しかし、調査により、当時の範疇形態素は「人、国、族、单位（单位の意味）、经と经典（経書の意味）、党、教（宗教の意味）、教徒」しかなかった。このすべての範疇形態素の意味はまだ「虚化」しなく、類推機能はまだ発達しなかったことがわかった。これは第二部で検討したい意識語と大きな違いを示していた。音訳語の後ろに付けていた範疇形態素の抽象化はまだ始まっていないことがわかった。

⁴⁷ 蘇新春「当代漢語外来单音語素的形成与提取」中国語文 2003年6月を参照。

第二章 音訳専門用語と造語法

第一節 音訳専門用語の分類

本節では音訳専門用語を研究対象として研究を行う。専門用語の音訳は複雑であり、訳語の定着も上記の固有名詞より難しい。まず、この複雑な状況については、胡以魯が「理学上之名最难移译。似专名而义含于其名者，则宜慎重称。“爱耐而几” energy 曰储能，称“伊太” ether 曰清气，漫加状词，殆未有不误谬者。」（理学に使われる名詞の翻訳が最も難しい。専門用語の形であるが、意味を含めている語彙の翻訳はもっと慎重にやらなければならない。例えば「爱耐而几」（energy）を「储能」に訳したり、「伊太」（ether）を「清气」に訳したり、といったように勝手に修飾語をつけるのは、今までに誤りがなかったことがない。）と指摘したように、「慎重」に音訳専門用語の訳法を考えなければならない。また、音訳専門用語が結局意識語に取って代わられるようなイメージもある。この理由について「語形が長い」と「語形が不統一」などの説があるが、本章が実例を分析しながら、この理由を述べたい。

まず、音訳専門用語を学術分野ごとに分類した。分類により同じ分野における音訳語語形が統一していたか、また、翻訳方式が同じかについて考察したい。

統計により、『官話』（1916）に収録された音訳専門用語は「化学」、「物理学」、「地理学」、「生物学」、「医学」、「機械学」に集中した。また、異なる分野には翻訳方法も大きな違いを示していた。以下のように音訳専門用語をまとめた。

1、化学類専門用語

A 純音訳語

亚西炭尼利（乙酰（替）苯胺） 亚摩尼亚（氨）安呢林（苯胺） 遍西尼（石油挥发油，轻质汽油） 哥罗芳（三氯甲烷，氯仿） 哥罗弟

恩（【化学】胶棉；火棉胶；珂罗酊） 衰阿尼尼（菁，花青） 伊打（醚） 伊打的（（乙）醚的） 弗新（品红） 干薄折（藤黄胶） 革他坡卡（【化学】古塔（波）胶，胶木胶，杜仲胶） 挨阿颠（【化学】碘） 伊恩（【物理化学】离子） 立底末司（【化学】石蕊） 阿纯（【化学】臭氧） 花士苓（【商标】凡士林；矿脂） 爱伯乃提（硬橡皮（经硫化处理的橡皮）；硬橡胶） 以步奈得（硬橡皮（经硫化处理的橡皮）；硬橡胶）

B 半音訳半意識語

咖啡质（咖啡因） 哥罗方水（氯仿） 加菲枸橼霜（X） 蔻弟茵磷酸（磷酸可待因） 格流沙酒精表（盖・吕萨克的酒精比重计） 格鲁萨酒精表（盖・吕萨克的酒精比重计） 魔菲醋酸（吗啡醋酸） 魔菲氢氯酸液剂（吗啡盐酸） 魔菲氢氯酸（吗啡盐酸） 魔菲酒石酸（吗啡酒石酸） 魔菲酒石酸液剂（X） 哥罗方（酉泽）（氯仿酒精） 弱氰酸伊打酒（X）

C 音訳＋範疇を表す形態素

迦路粉（甘汞，氯化亚汞） 后玛莨菪（【有机化学】后马托品） 硬巴拉粉（石蜡） 巴拉粉（石蜡） 吧嘛油（【化学】达马（树）脂）

化学類音訳語には「純音訳語」が 19 例、「半音訳半意識語」が 13 例、「音訳＋範疇を表す形態素類語」が 5 例がある。そのうち、語形が統一していたのは「*morphia*」を「魔菲」、「*ether*」を「伊打」に訳した例が見える。これに対して、「*chloroformi*」は「哥罗芳」や「哥罗方」、「*vulcanite*」を「爱伯乃提」や「以步奈得」に訳されており、同じ分野における音訳語語形はまだ統一されていない。また、「音訳＋範疇を表す形態素」類音訳語 5 例のうち、「粉」を用いて構成されたのは 3 例あり、「油」が 1 例、もう一例に使われた「莨菪」はめったに使わない語である。

2、物理学類専門用語

A 純音訳語

代拿木(发电机)

B 半音訳半意訳語

阿拉戈片(阿拉哥圆盘) 迭换代拿木(交流电机) 安培电流表([电] 电流计, 安培表) 安培法则(安培定律) 察理法则(【物理学】查理定律) 克拉特尼图(X) 双缠代拿木(发电机) 克伦法则(库仑定律) 克路克司管(克鲁克斯管) 丹尼埃尔电池(丹聂尔电池) 丹尼埃验湿表(X) 达尔逊电流表(达森瓦尔电流计) 爱狄孙灯(爱迪生) 伊宾法则(X) 法伦表(华氏温度表) 法伦海得表(【物理学】华氏温标) 法伦寒暑表(华氏温度计) 华氏温度表(华氏温度计) 华拉的法则(法拉第定律) 福丁气压表(福丁气压表) 福汀气压表(福丁气压表) 甫克电流(X) 弗兰克氏沸腾球(富兰克林沸腾球) 加氏温度表(X) 加利辽实验(X) 加氏温度表(X) 加尔巴尼电池(【电学】伽伐尼电池(组), 原电池(组)) 格鲁萨公例(【物理学】盖一吕萨克定律) 该司拉管(盖斯勒氏管) 葛罗弗电池(X) 葛罗弗电池(【电工学】格罗夫电池) 咀尔实验(焦耳) 焦卢法则(焦耳) 焦卢之实验(焦耳) 焦卢法则(【物理学】焦耳定律) 克尔常数(克尔常数) 克立货夫法则(基尔霍夫定律) 孔特常数(【光学】孔脱常数) 拉替马标准电池(X) 雷克兰斯电池(勒克朗谢电池) 林兹法则(【电学】楞次定律) 来顿瓶(【电工学】莱顿瓶) 雷顿电瓶(【电工学】莱顿瓶) 麦葛得堡半球(马德堡半球) 墨瓦腊尼云(【天文学】麦哲伦云) 吗利窝公例(马略特定律) 马利窝公例(马略特定律) 美森验湿表(X) 礼尔斯灯(【电工学】能斯脱灯) 奈端三大公录(牛顿三大定律) 翁漠法则(X) 啰木耳寒暑表(列氏温度计) 列氏温度表(列氏温度计) 鲁宾孙气流表(罗宾逊(男子名)) 卢梭密度表(X) 法伦

寒暑表(温度计, 体温表) 托莫逊电流表(X) 脱利西里原理(拖里拆利原理) 么匿几何(单位电荷) 维尔特常数(X) 和尔特电池(【电工学】伏打电池) 福尔达电(X) 和尔特电(X) 弗打电(【电工学】伏打电) 弗打电气堆(【电工学】伏打电堆) 福尔达化分表(【物理学】伏打表, 电量计) 福尔表(【电工学】伏特计, 电压表) 窝特表(电表) 韦脱司登电桥(【电工学】惠斯登电桥, 单臂电桥) 杨克斯率(【物理学】扬氏模量, 弹性模量) 山白尼电堆(赞博尼)

物理学音訳語の最も著しい特徴は翻訳方法である。上記に示したように物理学音訳語 73 例のうち、「代拿木」を除いて、残りの 72 例がすべて「半音訳半意識語」であり、「人名+その人が発明したもの、あるいは発見した定律など」の形がよく見られる。これは上述された化学類音訳語と比較して見ると、物理学音訳語は数量が多いが、翻訳方法が単一であることがわかった。また、語形から見れば、統一されていない場合が多い。例えば、「Daniel」を「丹尼挨」や「丹尼埃」に、「fahrenheit」を「法伦」や「法伦海得」、「华氏」に、「forti」を「福丁」や「福汀」に、「Joule」を「咀尔」や「焦卢」に、「Leyden」を「来顿」や「雷顿」に、「mariotte」を「吗利窝」や「马利窝」に、「reaumur」を「啰木耳」や「列氏」に訳して、さらに、「volt」を「和尔特」や「福尔达」、「弗打」、「福尔」など四つの訳語に対応させたケースもある。これに対して、語形が統一している例は「Dynamo」を「代拿木」に対応する一例しか検索できない。

3、地理学類専門用語

A 純音訳語

阿勒倍得(钠长石) 安古赛得(硫酸铅矿, 铅矾) 卡拉迷尼(异极矿, 菱亚铅矿) 格苟末倍得(针绿矾) 地夫尼安(泥盆纪(或系的)) 低

否年(泥盆纪(或系的)) 加里那(【矿物】方铅矿) 注拉司(【地质学】侏罗纪, 侏罗系) 老林低安((加拿大东部)劳伦系(岩石层)的) 老莲先((加拿大东部)劳伦系(岩石层)的) 来阿司(【地质学】利阿斯统(早侏罗系)) 玛拉开得(【矿物】孔雀石; 绿青) 阿德危先(奥陶系, 奥陶纪) 西里爱得(【矿物】白钨矿) 堆阿司(三叠系) 发仑弟内得(【矿物】锑华) 华得(【矿物】锰土, 沼锰矿) 布伦得(【矿物】闪锌矿)

B 半音訳半意識語

的星那石(圆盘贝) 胡柔年期(休伦纪) 土码琳钳(电气石铈) 上西路连(【地质学】晚志留世)

C 音訳+範疇を表す形態素

亥以西尼石(硼酸方解石)

地理学類音訳語には三つの翻訳方法によって音訳された語がすべて検索できるが、数量から見ると、純音訳が 19 例、半音訳半意識語が 4 例、「音訳+範疇を表す形態素」が 1 例であり、純音訳が圧倒的に多く使われ、最も大切な訳法と見すことができる。語形も統一されておらず、「devonian」を「地夫尼安」や「低否年」に、「laurentian」を「老林低安」や「老莲先」に訳している。また、範疇を表す形態素として「石」も使われた。

4、生物学類専門用語

A 純音訳語

拔尔撒摩(香脂) 加罗里(热, 热量; 热质) 蔻蔻(可可粉, 可可豆, 可可饮料) 哥哥(可可粉, 可可豆, 可可饮料) 枫香拔尔撒摩(香脂) 犹加列沓(桉树) 海蒺(【植物】散沫花) 衣必格(【植物】吐根) 更格卢(【动物】袋鼠) 茛脑(【植物】吉纳紫檀) 拉而撒(落

叶松属) 拉芬大(薰衣草) 龙眼(【植物】龙眼) 非利玛(【植物】
绵马) 芒姑生(【植物】山竹果树) 没药(【林业】粗腐殖质) 巴巴
印(木瓜蛋白酶) 发尼拉(【植物】香子兰(俗称香草)) 伟呢喇(【植
物】香子兰(俗称香草)) 撒米阿(【植物】泽米)

B 半音訳半意識語

亚匿加根(山金车) 秘鲁树脂(秘鲁香胶) 都鲁树脂(妥鲁香胶) 白
尔根底松脂(勃艮第) 喀拉把豆(毒扁豆) 坎拿大松脂(加拿大香
胶) 印度麻(印度大麻) 鸡那树皮(金鸡纳树皮) 考斯巴利皮(克
斯伯里亚树皮) 喀拉把豆膏(卡拉八豆 毒扁豆) 柯奇坎膏(秋水仙)
怪阿克木(愈疮木) 亚拉伯胶(阿拉伯树胶) 哀斯兰苔(冰岛苔) 哺
咕浸水(X) 摩西金(【化学】彩色金, 二硫化锡颜料) 柯拜把油(X)
伯格莫油(香柠檬油) 恶西酸(酢浆草酸) 沛离拉根(X) 白尔
根底松脂(X) 莎面(西谷椰子)

C 音訳+範疇を表す形態素

阿提兰巨鼯(载域龙) 布球叶(合香叶) 哺咕叶(合香叶) 卡高
树(可可树)

生物学類音訳語には純音訳語が 20 例、半音訳半意識語が 22 例、「音訳
+範疇を表す形態素」語が 4 例が見られる。語形も上記の物理学と同じく、
統一されない「一語多訳」現象が目立つ。例えば、「cocoa」を「蔻蔻」や
「哥哥」に、「buchu」を「哺咕」や「布球」に訳している。また、「音訳
+範疇を表す形態素」類訳語には「叶」、「树」のような植物を表す形態素
があり、また、「巨鼯」(「鼯」はヨウスコウワニである) というようなめ
ったに使わない語もある。

5、医学類専門用語

A 純音訳語

奄提牌认 (安替比林 (解热镇痛药)) 阿拉娄拔 (柯桎粉) 介利大 (印度当药) 哥罗颠 ((药物) 哥罗丁, 氯仿吗啡酊 (止痛药)) 蔻卡印 (卅那) (【药物】可卡因, 古柯碱 (麻醉品)) 高加印 (卅那) (【药物】可卡因, 古柯碱 (麻醉品)) 蔻弟茵 (【药物】可待因 (主要用作镇痛剂)) 哥罗弟恩 (【化学】胶棉; 火棉胶; 珂罗酊) 哥罗新 (干药西瓜瓢) 柯拜把 (苦配巴香脂) 考苏 (苦苏) 斐尼锡 (ヰ亭) (非那西丁) 三多年 (【药物】山道年素) 莘拿 (番泻叶) 韦拉替印 (X)

B 半音訳半意識語

一张蔻客因片 (【药物】可卡因, 古柯碱 (麻醉品)) 奎宁氨酒 (奎宁; 金鸡纳碱) 伯郎奈腺 (十二指肠腺) 伯尼得灭臭料 (波纳特氏消毒液) 蔻喀叶 (古柯叶 (草药名)) 柯奇坎根 (用秋水仙种子和球茎制的药物) 哥罗方魔菲复方酒 (复合酊的氯仿和吗啡) 莘那复方酒 (X) 甘弟灭臭料 (康迪研发的消毒液体) 东印度莘那 (东印度塞纳) 后玛莨若溴盐 (氢溴酸后马托品) 亚菲氯盐 (【药物】阿朴吗啡, 脱水吗啡) 蔻喀茵片 (【药物】可卡因, 古柯碱 (麻醉品)) 亚摩尼亚擦剂 (氨擦剂) 哥罗方擦剂 (氯仿擦剂) 儿葛流膏 (麦角流浸膏) 苦垅柏浓液剂 (X) 巴西尼体 (柏希尼氏体) 用巴司徒氏的法灭... 里的秒 (用巴氏法灭菌) 用巴司徒氏的法灭... 里的微生物 (用巴氏法灭菌) 裴液腺 (X) 裴叶腺 (X) 裴叶丛腺 (【组织学】派伊尔斑) 裴叶孤腺 (X) 非琐替玛 (毒扁豆碱 (一种眼科缩瞳药)) 非琐替玛硫酸 (毒扁豆碱 (一种眼科缩瞳药)) 哔罗喀颞 (硝酸毛果芸香碱) 都鲁树脂糖浆 (糖浆, 糖汁) 蔻弟茵糖浆 (【药物】可待因) 亚匿架酒 (山金车) 都鲁树脂酒 (X) 布球酒 (【药物】酊; 酊剂) 介利大酒 (X) 柯奇坎酒 (X) 芟脑酒 (X)

C 音訳+範疇を表す形態素

咖啡质（咖啡因） 加非那（咖啡因） 加啡精（咖啡因） 寇卡因病
（可卡因癮）

医学類音訳語には純音訳語が 16 例、半音訳半意識語が 34 例、「音訳＋
範疇を表す形態素」類語が 4 例ある。統一された語形と統一されなかった
語形が共に存在していた。統一されたのは「pasteurize」を「巴司徒氏」に、
「physostigmatis」を「非琐替玛」に訳した例があるが、統一されなかった
語のほうがより多く見られる。例えば、「Peyer」を「裴液」や「裴叶」に、
「cafein」を「咖啡」、「加非」、「加啡」、「加菲」に、「cocaine」を「蔻客因」
や「蔻卡印（廿那）」、「高加印（廿那）」、「蔻喀菌」に訳した例がある。医
学類音訳語の語形の違いが最も複雑で、上記の例のように「cafein」と
「cocaine」いずれも四つ以上の語形と対応していた。また、品詞の角度か
ら見れば、一般的には音訳語は必ず名詞というイメージがあるが、『官話』
（1916）に収録された音訳語は名詞以外にも動詞が一つあり、「pasteurize」
を「用巴司徒氏的方法灭... 里的秒」、「用巴司徒氏的方法灭... 里的微生物」の
ように訳している。

6、機械学類専門用語

A 純音訳

林克边死铁马（伸缩杆） 压风圆司浦林（[机] 调速器弹簧） 风磅
汽缸起行瓦路（换向阀） 压汽瓦路（安全阀门） 韦拉替印（游标，
游标尺）

B 半音訳半意識語

亚奇默德抽水机（阿基米德） 亚奴通气罨（阿诺特式阀门） 阿脱兀器
（阿特伍德） 压汽门司浦零（弹簧） 巴威汽锅（小组联箱式锅炉） 巴
加水磨（巴克水磨机） 巴尔娄轮（巴罗轮） 比安溪抽气机（X） 波

念白格气机(X) 裴克斐尔滤器(伯克菲尔德滤器) 放汽塞门(吹
熄开关) 风门瓦路(鼓风机阀) 邦生灯(本生灯) 本生灯(本生
灯) 邦生电池(本生) 邦生光力表(本生) 哈斯理灯(X) 张
伯伦滤器(钱柏兰滤器) 古柏通气机(X) 司浦零两头铁鞋(弹簧)
司浦零两头铁簸箕(弹簧) 可尼司汽锅(内燃卧式锅炉) 可尼司汽
机(X) 关风卡克(龙头, 活栓) 放水卡克(龙头, 活栓) 嘎东
通气炉(高尔顿的通风炉) 佐治发热炉(乔治) 辛伯通气窗(X) 兰
克舍汽锅【机械工程】兰开夏式火管锅炉, 兰开夏(水平双火筒)锅炉
路佛通气机(X) 美金奈通气机(X) 莫而司机(莫士机) 毛尔司
电报机(莫尔斯电报) 莫而司电报(莫尔斯电报) 纽奈门汽机(X)
帕拉非凝电器(石蜡电容器) 压汽瓦路铜柱(X) 压汽瓦路座(安
全阀门座) 炉面放污水卡克(锅炉排污旋塞) 赛林罕通气机(X)
盘香司浦零(螺旋弹簧) 司浦林中间铁箍([铁路] 弹簧吊架) 斯
他林汽锅(X) 进汽卡克(龙头, 活栓) 暖汽管压汽瓦路(X) 德
律风引线(电话线) 水门卡克(水龙头) 笛儿瓦路铜套(汽笛阀杆)

機械学類音訳語には「純音訳語」が5例、「半音訳半意訳語」が48例あり、物理学と同じく「半音訳半意訳語」が圧倒的に多い。また、語形の統一と不統一が分極化し、再現率が高い「定着した語形」で表す音訳語と再現率はさほど高くなく、「まだ定着していない語形」で表す音訳語が同時に存在していた。再現率が高い音訳語は以下の第二節に詳しく論述する「瓦路」、「林克」、「卡克」である。統一されていない音訳語は「bunsen」を「邦生」や「本生」に、「morse」を「毛尔司」や「莫而司」に、「spring」を「司浦零」や「司浦林」に訳した例がある。

統計すると、専門用語における音訳語は学術分野によって翻訳方法や発展程度(数量により)がそれぞれ異なっていた。この二つの視点より次の

表を作った。

学術分野	純音訳語	半音訳半意識語	音訳＋範疇を表す形態素	総数
化学	19	13	5	37
物理学	1	72	0	73
地理学	19	4	1	24
生物学	20	22	4	46
医学	16	34	4	54
機械学	5	48	0	53
合計	80	193	14	287

表をみると、地理学や化学には音訳語が少なく、物理学における音訳語が最も多いことがわかる。翻訳方式から見れば、純音訳の方式で音訳語を創出する傾向がある分野には化学、地理学、生物学、医学が含まれている。これと異なり、半音訳半意識の方式で音訳語を創製する傾向がある分野には物理学、生物学、医学、機械学が含まれている。また、この種類の音訳専門用語の数量は最も多く、当時専門用語の音訳によく使われていた手段であった。「音訳＋範疇を表す形態素」は類語数が少なく、当時においては未発達の翻訳手段であった。

当時の純音訳専門用語は現代中国語に保留されておらず、意識語に改訳された場合が多い。例えば、「亚西炭尼利 (Acetanilide)」を「乙酰(替)苯胺」に、「卡拉迷 (Calamine)」を「炉甘石」に、「地夫尼安 (Devonian)」を「泥盆纪」に改訳した例がある。専門用語において意識語が音訳に取って代わる傾向があり、それは中国社会の現代科学へ対する認識の深さと繋がっている。ある学科が中国に伝来し始めると、元々の中国社会においてはばらばらであった相関概念を一つ一つ音訳して即席に使うことができた。しかし、この学術分野の発展に伴い、同じ語基の語彙が体系的になり、

語彙の形をまとめなければならなくなった。これに従い、語形が統一されなかった純音訳語は徐々に消滅しまった。また、これは純音訳語の音節の長さにもつながっている。学術用語の英語原文は一般語よりも長く、現代中国語においては、音節が短い外国語が完全な純音訳語に訳されたことに対して、音節が長い単語の訳語は一種の「略訳」⁴⁸と言える音節簡単化の作業が行われる傾向がある。当時の「半音訳半意識語」や「音訳＋範疇を表す形態素」類語も「略訳」の翻訳手段が使われていたが、純音訳語にはあまり使われなかった。従って、当時も現代中国語も「音訳」で表していたとしても、双方の時代において「純音訳」で訳しているのは、「花士苓 (Vaseline)」を「凡士林」に、「哥罗颠 (Chlorodyne)」を「(药物) 哥罗丁」に、「奄提牌认 (Antipyrin)」を「安替比林」、「蔻客因・蔻卡印 (卅那)・高加印 (卅那)・蔻喀菌 (Cocaine)」を「可卡因、古柯碱」に、「蔻弟茵 (Codeine)」を「可待因」に訳した五例しかない。これらはすべて化学や医学に関連している。これに対して、語形には大きな違いを示す音訳語が大量に存在していた。例えば「哥罗弟恩 (collodion)」を「珂罗酊」に、「老林低安・老莲先 (Laurentian)」を「劳伦系(岩石层)的」に、「阿德危先 (Ordovician)」を「奥陶系、奥陶纪」に訳したように、これらはいずれも「略訳」の作業を行っている。また、「来阿司 (Lias)」を「利阿斯统」に、「蔻蔻・哥哥 (Cocoa)」を「可可粉、可可豆、可可饮料」に訳している。これらはいずれも「音訳＋範疇を表す形態素」の形に改訳された。

当時の半音訳半意識語が物理学と機械学に集中しており、「人名+その人物が発明したもの、あるいは発見した定律など」や「地名+このところに発生した事件」などの形がよく見られる。例えば「Ampere's law」を「安培法则 (安培定律)」に、「Wheatstone bridge」を「韦脱司登电桥 (惠斯登

⁴⁸ 外国語原文の音節をすべて音訳するわけではなく、前の部分や後ろの部分だけを漢字で音声を表すことを指す。

电桥、单臂电桥)」に、「witch of Agnesi」を「阿烈细曲线（阿涅西箕舌线）」に訳した例がある。この形式が 20 世紀初頭の英華字典にも見られる。例えば、『英華大辞典』（1908）にも類似した形式があり、その後ろに詳しい解釈も付いている。例えば、「argand burner」を「亚根灯头（即发明家之名）」に、「Bessemer steel」を「由生铁径练之钢 别西墨钢（别西墨所发明也）」に、「Fahrenheit scale」を「法伦寒暑表（冰毒在三十二度沸度在二百二十度之寒暑表，法伦所创制，故名）」に訳した例が見える。これは第一節に論述した「人名」、「地名」類音訳語と関連性があるが、現代中国語においても同じ翻訳方法を用いており、「人名」と「地名」の意識できない本質と関連し、音訳専門用語の研究範囲ではない。

これに対して、もう一種類のよく見られる翻訳形式は機械類に集中し、音訳部分の前にその音訳部分の機能や使用方法などについて説明を行う意識部分がある。この種類の音訳語が「意識＋音訳」の形であり、意識の部分は大体「動賓構造」であった。ここでは「cock」を例として、以下のような機械類半音訳半意識語を挙げる。

cut out cock 关风卡克

drain cock 放水卡克

scum cock 炉面放污水卡克

steam cock 进汽卡克

water cock 水门卡克

しかし、上記のような「半音訳半意識語」はすでに消滅したが、現代中国語においても使われている音訳語を見れば、医学類に「蔻弟茵糖浆（【药物】可待因）」や「蔻弟茵磷酸（磷酸可待因）」など「蔻弟茵」を用いて、「魔菲醋酸（吗啡醋酸）」や「魔菲氢氯酸液剂（吗啡盐酸）」、「魔菲氢氯酸（吗啡盐酸）」、「魔菲酒石酸（吗啡酒石酸）」、「哥罗方魔菲复方酒（复合酞的氯仿和吗啡）」など「魔菲」を用いて構成された「半音訳半意識語」があり、

化学類にも「一张蔻客因片（【药物】可卡因，古柯碱(麻醉品)）」や「蔻喀菌片（【药物】可卡因，古柯碱(麻醉品)）」、「蔻喀叶（古柯叶（草药名)）」などの例がある。これらはいずれもある成分を用いて生産された「液体」や「成分」であった。

「音訳＋範疇を表す形態素」類語の数量は少なく、現存語はさらに少ない。調べて見ると、「后玛菟蓉（【有机化学】后马托品）、吧嘛油（【化学】达马(树)脂）、卡高树（可可树）、寇卡因病(可卡因癮)」の四例と「咖啡质（咖啡因）、加啡精（咖啡因）」の二例しか見られなかった。ここで二つのグループに分ける理由は、前のグループは現代中国語においても「音訳＋範疇を表す形態素」の方法で表されており、後ろのグループは現代中国語に「純音訳語」で表されている。後者は筆者の知る限り、めったにない現象である。また、「Ether（以太）以脱、（醚）伊打」のように学術分野によって訳語が全く違う語形で表される現象もあるが、「咖啡质（咖啡因）、加啡精（咖啡因）」と同じく、数が少ないため、偶然な現象と見なす。

第二節 音訳専門用語語形の定着と類推機能の発達

中国語の漢字は同じ発音の語素を区別する機能を持っているため、中国社会は音訳用の漢字を純粋な音声表記記号と見なすことができない。そのため、もし音訳語の語形が一旦確定したら、これが既定の音訳語になり、書く時も必ず既定の語形で書かなければいけない。さもないと、「表記」と「意味」の関連性がないという感覚を与えてしまうからだ。そこで本節では音訳語語形の統一性と造語要素の類推機能の発達について述べる。

まず、『官話』（1916）に記載された音訳専門用語において、語形が例外なく完全に統一していた語は以下の通りである。

	化学	物理学	生物学	医学類	機械学	地理学
数量	2	1	0	1	3	0

例語	魔菲 伊打	代拿木		非 琐 替 玛	瓦路 林克 卡克	
----	----------	-----	--	------------	----------------	--

上記に示したように、当時の音訳語語形はまだ定着しておらず、学術分野によって発展状況も均衡しなかった。機械学の語形の定着率が最も多く、定着された語形で表記された音訳語の数も多かった。そこで、ここでは、「林克(link)」、「卡克 (cock)」、「瓦路 (valve)」を例として、語形が統一された双音節音訳語の特徴を検討する。まず、これらの音訳語が『英華大辞典』(1908)でどのように訳されたを確認したい。調査によると、「link」の訳語は「链节、链环、链圈、键环、键圈、锁子、连环扣」であり、「Cock」の訳語は「龙头活嘴、塞门」、「Valve」の訳語は「舌门、汽门、瓣扇、汽罨、合页」であった。これらの訳語から見ると、『官話』(1916)の音訳は新しい方式であるとわかる。次に、以下の例を見てみよう。

A 「林克」と「link」が対応する訳語

expansion link	吊死鬼林克
expansion link	林克边死铁马

「林克」と「link」が対応しない語

combination lever	林克直拉条
reach rod	拉林克进退拉条

B 「卡克」と「cock」が対応する訳語

cut out cock	关风卡克
drain cock	放水卡克
steam cock	进汽卡克
water cock	水门卡克

isolating cock	风闸卡克
isolating cock	车闸总风管卡克
scum cock	炉面放污水卡克

「卡克」と「cock」が対応しない語

set bolt	卡克顶螺蛳
----------	-------

C「瓦路」と「valve」が対応する訳語

valve casing	瓦路生铁壳
check valve	出风瓦路
check valve	停风瓦路
emergency valve	浮风瓦路
steam heater reducing valve	暖汽管压汽瓦路
reversing valve	风磅汽缸起行瓦路
safety valve	压汽瓦路
safety valve column	压汽瓦路铜柱
safety valve seat	压汽瓦路座
whistle valve spindle	笛儿瓦路铜套
blower valve	风门瓦路

「瓦路」と「valve」が対応しない語

catch	总瓦路牙关闸
clack box	锅皮瓦路箱
diaphragm	压风瓦路红铜皮垫
graduating stem	平瓦路泄路

「林克(link)」、「卡克 (cock)」、「瓦路 (valve)」は英語原文の音声を表す機能を持っていたと同時に、ある概念を表す「語素」として新語も創

製していた。『官話』(1916)に幾つかの例が見えるので、当時のこのような現象は偶然ではないと推測できる。

以上のことから、次の結論が得られる。まず、上記の機能を持つ音訳語の語形は必ず定着されており、一つの外国語が一つだけの音訳語と対応する。すなわち、語形の統一と音訳語の生産力、類推力と関連している。上述した三つの語以外の音訳専門用語にはこのような現象は起こっていなかった。また、本辞書において、この三つの音訳語は再現率が高く、一時的な音声表記ではなかった。すなわち、再現率と類推機能も関連している。さらに、中国社会によってすでにこのような音訳語を中国語の一部として認められており、広く使われていた。従って、これらの音訳語は英語原文に依存する状況から離れ、自ら造語過程に参加していた。ここで最も強調したいのは、上記のような語はすでに完全な「音訳語」とは言えないということである。「借語」(ここでは音声の借用を指す)から「訳語」(外国語から翻訳された中国語)に転換していた。

しかし、現代中国語においては上記の音訳語はすでに消滅しており、それぞれ「链节」、「龙头」、「阀门」に訳される。このことから双音節語素が造語要素になるのは単音節語素より難しいということを証明している。この現象にから、現代中国語における音訳語語素化の条件を推測したい。語形の定着はその音訳語の類推機能を発達させ、さらに造語要素になることができる必要かつ不十分な条件である。すなわち、一部分の音節を用いて音訳語全体の意味を表すことは音訳語語素化の最も大切な一環と言えよう。

第三節 専門用語と多数訳語の対応関係と音訳専門用語の成立

第三節は一つの原語とさまざまな翻訳語の対応関係を中心に、それぞれの翻訳語に潜んだ造語法を究明したい。現代中国語が外来概念を受け入れ

た最初の時期には「一語多訳」（一つの外国語原語が多数訳語と対応する）現象がよく見られる。上記の音訳専門用語を見れば、『官話』（1916）においてもこの現象が依然として存在していた。しかし、20 世紀初頭に比べてみると、同じ原文における訳語の数量が減りつつあった。第二節で書いたように、完全に統一された語も現れた。ここで、二つや二つ以上の訳語を用いて新概念を翻訳した「新語」と「部定語」を、これらの対応関係について分類する。まず、多数訳語のうち、すべてが同じ音訳形式であるが、異なる漢字を使っているもの。この場合にも「同じ発音」と「異なる発音」に分けることができる。

例えば、発音が同じで、異なる漢字で表す音訳語は以下の通りである。

Chloroformi 哥罗芳 哥罗方

Daniel 丹尼挨 丹尼埃

Mariotte 吗利窝 马利窝

Peyer 裴液 裴叶

上記のように、同じ外国語原文に対して、それぞれ二つ以上の「同義同音」訳語に対応する場合、主に「形旁」で区別する。これによって、固有概念への理解も左右していた。例えば、「哥罗芳」は「いい香り」が発散するのか、「Peyer（裴液、裴叶）」は「液体」なのか、「木の葉」なのかといったことである。

また、音訳語の漢字表記を現代中国語の角度から見ると、発音が異なる場合がよく見られる。これも漢字数が同じで、外国語原文音節の切り分けが同じ訳語と切り分けが異なる訳語がある。以下の「同義近音」訳語は同じ漢字数で表される。

Bunsen burner 邦生灯 本生灯

Caffein 咖啡 加非 加啡 加菲

Fortin's barometer 福丁气压表 福汀气压表

Vulcanite 爱伯乃提 以步奈得

Joule 咀尔 焦卢

Leyden 来顿 雷顿

Cocoa 蔻蔻 哥哥

Buchu 哺咕 布球

これは音訳語が伝来するルートと関連し、方言を使用していた地域によって、誕生した音訳語の発音も異なっている。また、このグループも「形旁」と関係がある。例えば「Fortin's barometer（福丁气压表、福汀气压表）」が「水を測る気圧表」なのか、「Buchu（哺咕、布球）」が「食べれる植物」なのか、「球体の植物」なのかについて、「形旁」によって区別される。

さらに、もう一種の「同義近音」音訳語は語形の長さも異なっており、音訳の過程において音節の切り分け点の移動や切り分け意識の違いにより、語形も異なっていた。例えば、以下の例が見られる。

Devonian 地夫尼安 低否年

Laurentian 老林低安 老莲先

これらにより、音訳語の音節切り分けは「零声母」⁴⁹と関連している。前の音節と「零声母」音節の連音により、音訳語の長さを短くすることができ、漢字で表す音訳語を縮めることによって非常に有効な手段である。

最後に、「音訳語」の「音節の省略」により現れた「同義近音」音訳語をまとめた。以下の例がある。

Volt 和尔特 福尔达 弗打 福尔

Cocaine 蔻客因 蔻喀菌 蔻卡印（廿那） 高加印（廿那）

前の例は「子音」の省略であり、後の例は「母音」の省略である。

以上の例は語形に多少の違いがあるが、全体的に見れば、翻訳方法が同

⁴⁹母音で始まる音節の声母を零声母（ゼロ声母）という。音韻学では韻母のみで存在する漢字音は無いものと考え、ゼロ声母を設定する。

じであり、語形にも類似している。しかし、以下のような多数訳語のうち、すべてが音訳であっても、翻訳方法が異なる音訳語もある。

A **expansion link** 吊死鬼林克 林克边死铁马

B **fahrenheit** 法伦 法伦海得 华氏

Reaumur 啰木耳 列氏

A は「純音訳語」と「半音訳半意識語」が共存する例であり、B は「純音訳語」と「音訳+範疇を表す形態素」音訳語が共存する例である。

この複雑な「一語多訳」現象は、当時の音訳語用字や翻訳ルールなどがまだ形成されていなかったことを証明することができる。また、この現象は音訳語の通用と発展を妨げていた。それではどのような音訳専門用語を残しやすいのであろうか。まず、「同義同音」や漢字数が同じ「同義近音」語は他のグループより残しやすい。これらは語形が異なるが、同じ訳語と認められやすく、中国社会に広がっていた。これに対して、語形に大きな違いがあれば、それぞれ無関係の訳語に見なされた。「音訳+範疇を表す形態素」など「漢化」程度高い訳語が存在すれば、それらは消滅せずに残る傾向にあるが、そのほかの大部分は意識語に取って代わられ、結局残らなかった。

第三章 音訳詞と意識詞の交替関係

本章では意識語が必ず音訳語に取って代わるかどうかについて、取って代わる傾向と代らない部分について論述したい。現代中国語の形成過程から見れば、多くの音訳詞は歴史の舞台から退き、意識語に取って代わられた。

中国国内の言語学学界では音訳語が遅かれ早かれ意識語、或いは現存語に取って代われると広く信じられている。曹炜は「我们说音译词是外来词中层次最低的，其依据有两条：一是音译词在借用过程中是借用最便捷，技

术含量最低的一种外来词，它无须考虑构词成分的选择、也无须考虑结构形式的安排，只要找几个同外语原词语语音形式最接近的语素去临摹就成了。……二是音译词常常成为外来词定型过程中的初级形式、过渡形式，而不是最终形式。由音译词转化为其他类型的外来词或本族词是外来词定型过程中所遵循的一般规律。（我々が音訳語は外来語の中で最もレベルが低い語彙だと考える理由は以下の二つである：一つは音訳語は借用する過程において最も便利且つ簡単な翻訳語であること。造語成分の選択や構造形式の配置を考える必要もなく、ただ外国語原文の発音と一番似ている漢字を探せばいい。……もう一つの理由は音訳語は外来語の語形を定着する過程に於いてはただの初級形式、臨時形式であり、最終形式ではないからだ。音訳語を他の種類の外来語や固有語に転化されることが外来語の定着するプロセスに従わなければならない規則である。）⁵⁰しかし、海外の中国語学者はこの意見に対して質疑している。マシーニは以下のように指摘した。「中国学者对音译词提出这一问题，言下之意是在说，外来词在吸收过程中，有着一种很富逻辑性的次序：外语词语先是作为音译词被汉语吸收，但到了后来，则被意译词取代了。然而，对这些音译词和意译词的词源以及首见例证进行仔细地考证以后，发现情况并不总是这样。（中国人学者が音訳語に対してこういう問題を提出際に言わんとすることは外来語は外来概念を受け入れる過程にとある論理的な順番がある。外国語の語彙はまず音訳語として受け入れ、その後、意訳語に取って代わられる。しかし、これらの音訳語と意訳語の語源や最も古い用例などを考証したところ、このような順番ではなかったと発見した。）」しかし、この問題を実証する研究は少なく、この見解には再考の余地が残ると筆者は考えている。本章では、当時の中国語音訳語の考察を通じて、このような「順番」が存在しないこ

⁵⁰曹煒 《再論現代漢語外來詞》 江蘇大學學報(社會科學版) 2004年1月 第六卷第一期

とを証明したい。

それでは、まず、『官話』（1916）に収録された音訳新語、部定語の「前身」を確認したい。翻訳の角度から見れば、「音訳語」で表す前に「訳語が存在しなかった」、「多数の訳語が存在していた」という場合であれば、「音訳語」が登場する傾向がある。しかし、登場した「音訳語」自身も「一語多訳」の現象が存在している。以下のように『英華大辞典』（1908）と『官話』（1916）の訳語を比較してみると、二つの状況があることがわかった。

まず、もともと訳語が存在しなかった例を見てみよう。例えば、

Calif

『英華大辞典』（1908）继回回教王者，回回教主

『官話』（1916）嘎利发

（現代中国語）哈里发（伊斯兰教的国王）

calabar bean

『英華大辞典』（1908）一种豆

『官話』（1916）喀拉把豆

（現代中国語）毒扁豆

corset

『英華大辞典』（1908）妇人之胸衣紧身褙（以鲸骨制之，西妇束之胸际使腰纤细也）

『官話』（1916）哥赛脱

（現代中国語）紧身胸衣

Dyne

『英華大辞典』（1908）（格致）势力准个 势力单位

『官話』（1916）代尼 达因

（現代中国語）达因（力的单位）

以上の英語原文で表現される概念は、元々の中国社会に存在せず、中国語には対訳できる語彙が見つけられなかった。従って、『英華大辞典』(1908)においては句やあいまいな描写で説明したが、『官話』(1916)に音訳の方法で訳された。ある本土に存在しなかった概念が一時的な需要ではなく、ある形式で長く中国語に存在する場合には、あいまいな描写では足りないため、この概念を音訳で表現する傾向があり、このような音訳形式もより現代中国語に残されやすい。

また、『英華大辞典』(1908)に同じ英語原文について大量の中国語対訳語を羅列した場合、『官話』(1916)では音訳に改訳した傾向が見られる。例えば、以下の通りである。

paraffin

『英華大辞典』(1908) 无味无香之蜡状物质，炭木之元质，地蜡，矿蜡，煤蜡，矫质，石脑药

『官話』(1916) 巴拉粉、硬煤蜡、石脑腊

さらに、文法の面から見れば、もともと中国語文法体系に相応しくなかった訳語も『官話』(1916)では新しい訳語に取って代わられる傾向がある。例えば、『英華大辞典』(1908)には「量弗打电表 (voltmeter)」があったが、これが中国語ではあまり使わない「【V+(adj.+ N)】+N」構造であることから、『官話』(1916)では「福尔达化分表」に改訳された。

以上『官話』(1916)における音訳語で表す必要性を説明した。では、意識語は必ず音訳語に取って代わるものであろうか。この問題を解決する前に、まず中国語が外来概念を受け入れる際に表される「性格」を見てみよう。

中国語は表意文字であるので、外来概念を取り入れる際に、この言語内部に含まれている「もの」(意味、感情、文化など)を漢字を通じてできるだけ表現する傾向がある。これが上述した「漢化」現象である。この漢

化は音訳語だけではなく、意識語にも存在している。従って、音訳語創製の最も重要な段階は外国語原文の音声が一番近い語素を見つけることではなく、文字を通じて一番相応しい「意味感覚」を与える努力をすることである。これには前述の漢字基本意味の利用や、形声字「形旁」の意味範疇提示機能、漢字と漢字の組み合わせが含まれている。しかし、必ず以上の手段が用いられるわけではない。中国社会の言語意識から、「使う」と「避ける」ことの両方からアプローチしなければならない。もし音訳語が中国社会の漢語表意意識とうまく融合できるならば、最終形式として中国語に保留する可能性が高いと筆者は推測する。逆に、「漢化」の程度が足りないと、意識語が音訳語に取って代わる可能性が高い。

この「漢化」程度も以下の角度から考えられる。まず、音節数量の漢化である。音訳語の音節間には意味の関連性がないため、音節数量が多い音訳語は中国社会の中国語認知に相応しくなく、意味関連がない音節の組合を覚えるのも難しいため、中国語に残されるのは難しい。また、この「漢化」も静態的なものではなく、一時的に「漢化」のレベルを満たして残されても、その後は不十分になってしまったこともある。

では、どのような音訳語が残りやすいのだろうか。20 世初頭より、音訳と意識はしばらくの間並存していたが、その後、音訳語が残され、意識語が消滅されてしまった例証はあるだろうか。以下の例は『官話』においては音訳語と意識語が並存しており、現代中国語には音訳語が選択された例である。

babbit metal

『官話』(1916) 巴皮得金(新) 耐磨金(新)

(現代中国語) 巴比(特)合金、巴氏合金

Calif

『官話』(1916) 嘎利发(新) 回教王

(現代中国語) 哈里发 (伊斯兰教的国王)

Latin

『官話』(1916) 拉丁 (部定) 罗马国的

(現代中国語) 拉丁语、拉丁人

Manicheist

『官話』(1916) 摩尼西教徒 (新) 光暗教徒 (新)

(現代中国語) 摩尼教徒

Mass

『官話』(1916) 弥撒 (新) 献圣体 (新) 圣体 (新)

(現代中国語) 弥撒

Monroe doctrine

『官話』(1916) 孟禄主义 (部定) 护美洲之说

(現代中国語) 门罗主义

全体的に見れば、残された音訳語は半意識半音訳語や「音訳+範疇を表す形態素」語のほか、純音訳語も含まれている。沈国威氏はかつて以下のように述べている。「借词形成时并没有被赋予意义，只是一个“空”的容器，因此没有旧有词汇体系的附着物。借词的词义由语言社会使用者共同充填。从理论上来说，可以最大限度地接近原词的意义。主张借词（音译词）的人并不都是懒汉，他们往往是看中了借词在传达源语言意义上的这种特点。」⁵¹この音訳語の本質より、元々中国語には同じ概念が存在しない場合、無理に意識すると、元々の中国語語彙に付着された意味を新概念に注入してしまい、両方が入り混じることとなり、意味の理解に混乱を与え、結局淘汰されてしまった例も少なくない。

全体的に見れば、音訳語が意識語に取って代わられる趨勢は否定できな

⁵¹沈國威 “譯詞” 與 “借詞” 一重讀胡以魯《論譯名》(1914) 或問 第九號 2005 年

い。それは中国語の特徴に相応しいからである。しかし、すべての音訳語が意識語に取って代わられるわけではない。意識も音訳も「漢化」の程度により、生命力が定められる。音訳の方式で外来概念を受け入れるのが、中国語語彙発展の一般的な現象である。

終わりに

第一部では現代中国語における音訳語とその造語法を中心に研究を行った。まず、はじめにの部分で「音訳」と「意識」の関係、「音訳」と「中国語造語法」の関係、二つの視点から「音訳語」が現代中国語における重要な位置を占めていることを論じた。また、先行研究を踏まえて、本文の「音訳語」の定義を確定し、音訳語が誕生してから統一される過程を遡った。それにより、本論文の研究対象を定め、研究意義も述べた。

第一章では『官話』(1916)に収録された音訳固有名詞を研究対象とし、第一節ではそれを翻訳方法により「純音訳語」、「半音訳半意識語」、「音訳＋範疇を表す形態素」の三つの種類に分類した。「純音訳語」は「人名や団体類」、「地名国家名類」、「度量衡類」に分け、それぞれの翻訳特徴を述べ、現代中国語における訳語との比較も行った。「半音訳半意識語」は「歴史事件や王朝類」、「度量衡」に分け、この二種類の固有名詞が「半音訳半意識」語で訳された理由とこの種類の音訳語が造語要素になりにくい理由を述べた。これは音訳の部分は具体的な概念や特定な事物を表すため、意味の表現に限界性があるからである。また、意識の部分はほぼ基本概念を表したり、基本修飾語素として使われ、新しい語彙の創造については生産力が弱い。「音訳＋範疇を表す形態素」語にはこの種類の音訳語は数量が少なく、「範疇」も具体的な概念で、日常生活に関わる語素であることを例を挙げながら説明した。第二節は音訳語の音節数と造語法の関係について考察した。統計により、固有名詞音訳語の音節数量は基本的に 2-4 音

節にまとまり、純音訳語が双音節、三音節、半音訳半意識語が三音節、「音訳＋範疇を表す形態素」語が四音節にまとまったことがわかった。また、中国語と外国語における音節の対応関係から考察を行い、音節を縮減することと音節を増加することに分けて説明し、音節の対応関係から見れば、増加であろうと縮減であろうと、音訳語の音節は大体漢字2文字から漢字5文字までであり、双音節を基本語彙単位とする現代中国語に変化をもたらした。さらに音訳語の語形は一旦定着すれば、関連性がない漢字の組合は分離しにくく省略もしにくいため、そのまま現代中国語に残り、多音節語の数量を増やしてきた。

続いて、音訳語の音声と方言の関係について考察を行い、音訳語の音声から見れば、南方音から北方音に、中古音から現代音に変わる傾向があることを証明した。さらに、『英華大辞典』(1908)の音訳語と英語原文を比較してみると、「有気音」と「無気音」を意識せずに漢字を選ぶ傾向があった。しかし、『官話』(1916)には英語原文の「有気音」と「無気音」に対応できるように改訳していた。

第三節では翻訳用字と翻訳方法の変遷と音訳造語要素の形成について述べた。まず、音訳過程の本質は、ある表意言語の語素表記を純粋な表音表記として使用することであり、音訳の過程においては、基本的な意味が確実に変動がない漢字を意識的に避けることや、漢字と漢字の組み合わせにも二字を合わせて新しい意味が出てくることを避けた傾向を指摘した。さらにその上で、音訳語用字になりやすい漢字や、「形旁」の役割、漢字間の組み合わせなどについて音訳語用漢字の特徴を述べた。次に翻訳方式と造語法の関係について述べた。「米」を例として、多音節(双音節も含まれている)音訳語で一つの外来概念を表現し、その後、一つの漢字に省略して同じ概念を表し、最後に意味がある造語要素として新語を創出した後、外国語原文と対応関係がなくなる段階に入る過程を説明した。

第二章では音訳専門用語と造語法について研究を行った。まず、専門用語を学術分野ごとに「化学」、「物理学」、「地理学」、「生物学」、「医学」、「機械学」に分けた。同じ分野における音訳語語形が統一していたかどうかについて、そして翻訳方式が同じかどうかについて考察した。翻訳方式から見れば、純音訳の方式で音訳語を創出する傾向がある分野には化学、地理学、生物学、医学が含まれている。半音訳半意識の方式で音訳語を創製する傾向がある分野には物理学、生物学、医学、機械学が含まれている。

第二節は「林克(link)」、「カク(cock)」、「瓦路(valve)」を例として音訳語語形の統一性と造語要素の類推機能の発達について述べた。これらの音訳語が英語原文に依存する状況から離れ、自ら造語過程に参加し、類推機能が持っていたことがわかった。しかし、語形の定着はその音訳語の類推機能を発達させ、さらに造語要素になれる必要かつ不十分な条件であるという結論を得られた。

第三節は一つの原因とさまざまな翻訳語の対応関係を中心に、それぞれの翻訳語に潜む造語法を究明した。

第三章では、意識語が必ず音訳語に取って代わるかどうかについて、取って代わる傾向と代らない部分について論述した

この部分では以上のような内容を述べたが、本論文はただ『官話』(1916)に記載された音訳語だけを中心に研究を進めたので、あくまでも一時期の静態的な分析である。今後の課題としては、他の時代に出版された辞書を研究対象として、動態的な分析を行い、中国語造語法の近代化における研究の深化をすることが求められる。

第二部 現代中国語における意識語とその造語法

はじめに

とある新しい概念が中国に導入する際には、「意識」が最も常用される方式である。意識とは「外国語のおおよその意味を訳す」ことであるが、この概念については、広義と狭義の区別がある。広義の意識とは外国語の中に新しい意味を受け入れ、自らの民族には本来存在しなかった語彙を作ること、そしてすでに存在した語彙に新しい意味を与えるという両方が含まれる。狭義の意識とは自民族の造語材料により新語を構成し、外国語のある単語の意味を移植することであり、すでに存在した語彙の再利用は含まれない。本文の意識語とは、広義概念の意識語を指す。

これまでの言語接触による中国語語彙研究は、意識を中心に行う傾向があった。しかし意識と音訳の対照研究が少ないため、中国語が外国語を借用する主な手段が意識という説はあるが、具体的な実例分析はない。例えば、中国語にはどのくらいの意識語があるか、意識語と音訳語の割合がそれぞれどのぐらいを占めているのか。どの研究でも答えはでなかった。

つまり、中国語は意識を行う傾向があるという判断は学問上の理論だけであり、中国語の漢字認知習慣の性質を分析した上で出された結論である。楊錫彭⁵² は「没有实际的统计数据的支持，谁也拿不出具体的统计数字来说明汉语中的意译词比音译词多乃至多了多少，因此也无法根据一个确切的比例说明汉语在借用外来词时有意译的倾向。（実際のデーターによる支持がないため、誰も中国語において意識語が音訳語より多い、乃至どのぐらい多いかということを具体的な数字で説明できない。従って、確実な比例から中国語の外来語に意識の傾向があると説明することもできない。）」と指摘したように、現在の言語学界にもこの問題はまだ解決されていないこと

⁵²楊錫彭 『汉语外来词研究』（上海人民出版社 2007 年 9 月）を参照。

を意識している。

そこで、本文は意識語と中国語造語法を討論する前に、まず、『官話』(1916)に載せた意識外来語のデーターを統計した。統計により、本辞書に載せた「新語」と「部定語」のうち、意識語は合わせて 27777 例あり、それは「新語」と「部定語」の語彙数 28257 (うち新語が 12155 例、部定語が 16102 例である) に比べて、98.3%を占めることがわかった。筆者はこのデーターにより、20 世紀初頭において中国語が外国語を借用するには意識の傾向があるということを証明することができた。この 98%あまりを占める意識は、必ず中国語語彙内部の形式や構造、意味に影響を与える。どのような影響があるかについて、第二部では現存語と廃語の造語要素、理系専門用語と文系専門用語の造語法、文法的な機能と造語法など三つの角度より分析を行う。

第一章 意識語の造語要素について

第一節 本章の研究対象

本章では、『官話』(1916)における近代中国語の新語と部定語の発展状況に焦点を当てている。そこで、まず初めに『官話』(1916)の「新」と「部定」に分類されているあらゆる語句に対して選別・統計を行った。筆者の統計によると、『官話』(1916)中に収録されている「新語」は合計 12155 語あり、「部定語」は合計 16102 語ある (これには語句やフレーズも含まれている)。英語と中国語翻訳を照らし合わせて見た結果、だいたい「新」と「部定」については下記の 4 種類に分けることができる。

1、英語の語句が中国語の語句に翻訳される。具体例：

英語：abbreviate 中国語翻訳：约分

英語：abbreviation 中国語翻訳：略号

2、英語の語句が中国語のフレーズに翻訳される。具体例：

英語：accentuation 中国語翻訳：心声过大

英語：aeronaut 中国語翻訳：航行飞船的人 驾驶飞船的人

英語のフレーズが中国語の語句に翻訳される。具体例：

英語：to reckon on the abacus 中国語翻訳：珠算

英語：written arithmetic 中国語翻訳：笔算

英語のフレーズが中国語のフレーズに翻訳される。具体例：

英語：abide the consequences 中国語翻訳：顺受后果

英語：to decide by vote 中国語翻訳：以表决决定

これ以外に単語でもフレーズでもなく、文章になっているものも少しある。例えば：the action of oil on the skin is softening を「油有柔和皮肤的效能（油には皮膚を柔らかくする効果がある）」と訳した例がある。

上述した翻訳状況のまとめを通して、我々は英語と中国語の「語句」と「フレーズ」は必ずしも対応していないということが見て分かる。しかも英語と中国語は時間の流れと共にお互い変化している最中である。『官話』（1916）に現れる同じ英語の語句で、新語と新語ではないものを対比していくと、明白にこの動向の変化を見ることができる。例えば以下の通りである。

英語	新語	新語ではないもの
to keep account-books	记簿	书写账簿
electrical accumulator	电仓	积聚电垒
ague	间过热	发冷发热
alcoholism	中醇	酒毒成患

この中から我々は新語が誕生する時しばしば「語彙化⁵³」特徴があることに気付くことができる。すなわち、ある新概念または新しい学問が絶えず中国社会に影響を与え続ける中で、さらに多くの新語が「フレーズ」で

⁵³語彙化（lexicalisation）複数の形態素を合わせて一つの意義をもつようになること。

はなく「語句」として中国語の中に溶け込んだということ。それ故、辞書に載せられた英語の言語単位からは、それと対応する中国語訳の言語単位を判断することができない。従って、本文の研究対象は「新」と「部定」に表記されているすべての「ターム」(term)である。本研究は、これらの語句の古い訳、新しい訳そして現在の訳から中国語の新語がどのように発展してきたのかという問題を説こうとするものである。

第二節 漢字使用頻度の統計から見る造語要素の形成

この辞書を研究することを通して、筆者は近代における新語の形成過程とこの過程の中で中国語の造語方法がどのように変化していったのかについてを明白にしたいと考える。そこで、当辞書の新語と部定語の英語原文や中国語対訳、ページ数、英語の説明文、同義の非新語非部定語、現在訳語など七つの内容についてデータを統計した。

本節ではまず総体的に『官話』(1916)に用いられている漢字の使用頻度の調査結果について述べる。データによると、新語は合わせて12155個あり、総字数は39975字であり、新語の長さは平均して3.288であった。その中で、重複しない漢字が2669個使われていた。また、部定語は合わせて16102個あり、総字数は50271字であり、部定語の長さは平均して3.122であった。その中で、重複しない漢字が3096個使われていた。このデータにより、『官話』(1916)が出版された1916年には辞書に収録された新概念を表す言語単位は、平均して三つの漢字であるとわかる。この理由を考えると、当時の「語彙化」がまだ十分に発達しておらず、フレーズで英語原文と対訳しなければならなかったという原因がある。しかしながら、中国語が多音節になっている動向があり、特に三音節語彙が大量に生産していたこともその理由であろう。また、重複しない漢字と総漢字数とを比べて見れば、中国語の造語成分がすでに類推機能を持ち、多くの漢字

に一定的な創出力があったということが分かった。これらの漢字は自身の実地的な意味がなく、ただ音訳用字の役割を演じる場合があるが、一定的な意味範疇を提示できる漢字もかなりの割合で存在していた。どの漢字がどのような役割を演じたのかについては、語彙内部の固定的な位置から観察しないとはいけない。

従って、本節ではもう一種の統計方法により、新語と部定語の漢字使用頻度を調べた。それが一つの言語単位における「最初の漢字」と「最後の漢字」である。これにより、当時の「接頭辞」や「接尾辞」の形成状況をおおまかに把握できるであろう。統計の正確度に悪い影響を与えないように、『官話』（1916）において、現在ではコンピューターが認識できない漢字、すなわちすでに通用していない漢字は全て省略する。⁵⁴その統計によれば、新語には「最初の漢字」が12039個あり、重複しない漢字が1825個ある。また、新語には「最後の漢字」が11915個あり、重複しない漢字が1354個ある。さらに、最初の漢字と最後の漢字について使用頻度を統計し、頻度が最も高い漢字30字をまとめて、次の表一と表二を作った。

表一 新語の最初の漢字

漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度
1 电	123	7 有	62	13 动	56	19 正	48	25 小	45
2 无	99	8 地	61	14 体	55	20 三	48	26 出	45
3 公	75	9 水	60	15 中	53	21 放	47	27 法	44
4 汽	70	10 分	58	16 磁	51	22 不	46	28 实	44
5 自	68	11 平	57	17 车	50	23 大	45	29 反	44
6 圣	65	12 主	56	18 发	50	24 生	45	30 化	44

⁵⁴ 具体的な実現方法とは、コンピュータープログラミングを設計するときに命令したキャラクターが括弧やスペースの場合は、次行のキャラクターに飛ぶ。

表二 新語の最後の漢字

漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度
1 学	291	7 会	144	13 权	118	19 队	96	25 质	83
2 的	250	8 体	130	14 症	117	20 所	94	26 号	83
3 力	180	9 物	125	15 数	117	21 科	91	27 性	79
4 点	166	10 器	123	16 子	108	22 术	89	28 义	74
5 法	163	11 表	119	17 度	107	23 家	89	29 人	73
6 线	156	12 机	118	18 论	103	24 类	86	30 书	70

統計により、以下の結論が出られる。まず、現代中国語の言語意識では「新興造語要素」と思われるいくつかの「漢字」が当時すでに一定的な造語力を持っていた。例えば、「磁」、「反」、「法」、「学」、「症」などである。また、頻度から見れば、「接頭辞」より「接尾辞」のほうが発達していた。頻度が最も高い接尾辞「学」の頻度 291 に対して、頻度が最も高い接頭辞「電」の頻度は 123 しかない。

次には、部定語についても同じ漢字頻度調査を行った。結果としては、部定語において、「最初の漢字」は 16092 個あり、重複しない漢字は 2244 個ある。また、部定語に「最後の漢字」は 15915 個あり、重複しない漢字は 1755 個ある。これを全部の部定語語数の 16102 個と比べて見ると、部定語の「最後の漢字」が「難しい漢字」を使用している場合が多いことがわかった。また、部定語の最初の漢字と最後の漢字について使用頻度を統計し、頻度が最も高い漢字 30 字をまとめて、次の表三と表四を作った。

表三 部定語の最初の漢字

漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度
1 亚	214	7 大	99	13 内	87	19 外	83	25 直	64

2 正	212	8 不	96	14 平	86	20 公	79	26 有	64
3 国	133	9 石	94	15 地	86	21 钾	76	27 山	64
4 水	119	10 无	91	16 黄	84	22 自	68	28 复	59
5 海	114	11 三	89	17 白	84	23 银	67	29 分	57
6 电	102	12 纳	87	18 金	83	24 中	66	30 紫	56

表四 部定語の最後の漢字

漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度
1 酸	552	7 子	195	13 草	145	19 溴	113	25 碘	101
2 氧	277	8 数	188	14 率	137	20 花	112	26 形	100
3 法	238	9 氯	175	15 硫	137	21 学	109	27 香	96
4 力	209	10 机	155	16 石	124	22 鱼	105	28 点	94
5 线	199	11 质	146	17 剂	116	23 根	105	29 辞	94
6 角	196	12 骨	145	18 表	116	24 叶	102	30 约	89

部定語の統計結果を新語の統計結果と比較すると、大体同じ結論が出される。まず、「新興造語要素」と思われる「漢字」には「亜」、「机」、「法」、「率」、「质」などがある。また、頻度から見れば、「接頭辞」より「接尾辞」のほうが発達していた。頻度が最も高い接尾辞「酸」の頻度 552 に対して、頻度が最も高い接頭辞「亜」の頻度は 214 しかない。

次に、両方を合わせて統計してみると、次のような結果が得られた。まず、「最初の漢字」は 28131 個あり、重複しない漢字が 2790 個ある。また、「最後の漢字」は 27830 個あり、重複しない漢字は 2264 個ある。この数字から見れば、新語と部定語の最初と最後に使われる漢字が重なっている部分がかかなり多くあった。新語といっても、学術に関わる語彙が多く、部定語といっても、新しく作られたものが多いことが証明できる。

また、最初の漢字と最後の漢字について使用頻度を統計し、頻度が最も

高い漢字 30 字をまとめて、次の表五と表六を作った。

表五 「新語+部定語」の最初の漢字

漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度
1 正	260	7 公	154	13 三	137	19 分	115	25 主	100
2 亜	234	8 地	147	14 自	136	20 白	108	26 小	100
3 電	225	9 大	144	15 有	126	21 磁	107	27 復	99
4 无	190	10 海	143	16 外	123	22 黄	107	28 生	97
5 水	179	11 平	143	17 石	121	23 金	105	29 納	95
6 国	168	12 不	142	18 中	119	24 内	100	30 化	92

表六 「新語+部定語」の最後の漢字

漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度	漢字	頻度
1 酸	586	7 子	303	13 表	235	19 石	179	25 形	149
2 法	401	8 氧	279	14 質	229	20 氯	176	26 草	148
3 学	400	9 的	278	15 权	206	21 物	173	27 类	142
4 力	389	10 机	273	16 会	206	22 度	167	28 管	141
5 线	355	11 点	260	17 体	186	23 器	165	29 硫	138
6 数	305	12 角	251	18 率	182	24 骨	157	30 程	135

以上の漢字使用頻度調査により、当時の一部の漢字は語彙の内部位置が固定していることがわかる。すなわち、今の言語観から見れば、「接頭辞」と「接尾辞」として見なされる可能性が高い。次はこの使用頻度を踏まえて、具体的な例を挙げながら「造語要素」を検討する。

第三節 現代中国語における「語根」と「接辞」の討論と『官話』（1916）の有効性

周知の通り、中国語は形態変化が少ない言語であり、しかも意義のある単音節の語素はほとんどと言って良いほど語幹語素⁵⁵になり得る。したがって現代中国語の語彙の中には、複合法で語基語素を組み合わせて合成語を構成する現象がよく見られる。しかしここ数年で出現した新語を一括して見ると、我々は中国語の構造方法に大きな変化があり、多くの「接辞」を付ける方法により構成された新語が生産されていることに用意に気が付く。中国国家言語工作委员会が2005年に公布した『中国語言生活狀況報告』の「年度新語調査」によると、2009年度の新語の中で接頭辞や接尾辞を付加する方式で構成されている新語はそれぞれ22個と106個あり、あらゆる新語の中での比率はそれぞれ5.56%と26.77%で、合計32.33%を占めている。このことから分かるように、中国語の構造法の中では複合式構造語がやはり主導権を握っているが、接頭辞や接尾辞をつけることで新語を構成するのも重要な方法の一つとなった。

20世紀の学者たちは早い段階から中国語の接辞造語法に注目している。胡以魯は『国語学草創』(1913) 56の第三篇『説国語後天発展』の「形式部」で「如对于体词之习用者添‘儿’添‘子’，此在音由长音而为卷舌，在义遂傳会‘儿’或更转而为‘子’，以示昵近乎。(中略)一为形式斯有随处应用之倾向。其范围遂扩张，而且本意不可究诘矣（よく使われている体言に「児」や「子」をつける方法は、ここで音声が長音から巻き舌音に変わり、親しみを示す。(中略)この形式はどこでも見られる傾向があり、その使用範囲は広がっており、本来の意味も失われてしまった。)」と提示している。しかし中国語において「儿」や「子」の類の接辞は、近代以降ではすでに造語能力が無くなってしまったため、新語を創出される「原材料」にはなり得ない。まさに王力が『中国現代語法』(1945)で「数千年

⁵⁵ 語幹語素とは意味が確実で、合成語の中に位置が固定していない自由語素と粘着語素を指す。

⁵⁶ 参見胡以魯《国語学草創》，商务印书馆，1923，P57。

来、中国語虽颇有复音的倾向，然而复音词毕竟不多，近代有了后附号‘儿、子、头’等，复音词是比古代多了许多，但如果比之欧化后的复音词，仍然望尘莫及（数千年来、中国語には双音化の傾向があるが、複音語はさほど多くなかった。近代以降接尾辞の「儿、子、头」の出現により、複音語は古代より増加したが、その後の欧化以後の複音語の足元にも及ばない）」と言っている通りである。では、中国語の欧化以降の複合語はどの語素をどのような方法を用いて構成したのであろうか。欧化、すなわち外来語の影響を受けたとして、外来語はいかに中国語の造語法に影響を与えたのか。本文は日中英の言語接触の角度からこの問題を解決しようと試みるものである。

まず初めに中国語の欧化以降に複音語がいかにして生まれたのかについて述べる。20 世紀以降、中国語の新語が作られる過程では、ある語素の意味に変化が生じ、この語素を通して一連の類推可能な同じ範疇における新語が創製される。なぜならこのような語素の生産力は意味が完全に虚化した接辞より遥かに高い。学界では、ある人がそれを「类词缀」または「准词缀」と名付けたが、本文では呼び方を「造語語素」と呼ぶことにする。

早くは 1930 年代において、言語学者はすでに中国語のこの特徴に注目していた。瞿秋白はかつて「口头说话的字眼，就是真正白话的字眼，大概的说起来，有底下的几种规律：（中略）（五）采取一些汉字，把它们变成新式的字尾，例如“资本家”的“家”，“民权主义”的“主义”。再则，还有新式的字头，例如“非资本主义的”的“非”（口頭で話している字句が本来の意味での白話字句である。大体、以下のいくつかの規則がある：（中略）（五）一部の漢字を用い、これらの漢字を新興「字尾」に変えたもの。例えば「資本家」の「家」、「民権主義」の「主義」など。また、新しい字

もある。例えば、「非資本主義」の「非」)⁵⁷と言及している。方光焘も文章の中で「‘性’有词尾化的倾向, ‘非’、‘反’有词头化的倾向(‘性’は語尾化傾向があり、「非」や「反」が語頭化傾向がある。)」⁵⁸と述べている。1978年には呂叔湘がさらに『中国語語法分析問題』にて明確に「汉语里地道的语缀不多, ……有不少语素差不多可以算是前缀或后缀(中国語には中国語自らの語尾は多くない、…接頭語や接尾語とほぼ同じ性質を持つ語素は相当数ある。))」、「存在这种类前缀和类后缀可以说是汉语语缀的第一个特点(このような類接頭辞や類接尾辞が存在することが中国語接辞の第一の特徴と言えよう。)」⁵⁹だと指摘している。

中国語は孤立語であり、あまり形態には変化がないため、「词缀」という概念に対してこれまで多くの論議がなされてきた。そしてさらに「类词缀」に関しての定義には、語義、語法機能、生産性など様々な異なる基準がある。本文は20世紀以降の現代中国語の新語の創造方法に焦点を当て研究を進めていく中で、「語幹」や「词缀」の境界や分岐点などの問題にメスを入れ討論していく必要はないと考えるが、言語接触の視点からこの問題を解決することを試みる。「語幹」や「接辞」、「類接辞」を上記の三つの基準より区別することはできないが、言語接触と外国語からの影響から見れば、より簡単に区別できると考える。言語接触により、多くの付加成分と中心成分を組み合わせで創製された語彙が多く創出された。それと同時に、中国語の複合語と派生語の境界もさらにあいまいになった。なぜかという、英語接辞を訳すために使った中国語の成分が実の意味を持っている語素であるからだ。このような語素が造語過程に参加すると、どのような性質を持っているかについて判断するのが難しくなるのである。こ

⁵⁷ 瞿秋白遺著『亂彈及其他』上海霞社校、1938.05, P202を参照。

⁵⁸ 『方光焘語言学論文集』P267を参照。

⁵⁹ 『呂叔湘文集第二卷』P517を参照。

れを中国語の複合語と比較すると、語彙内部の形式が異なると、同じ種類の語彙を認めにくい。対して、もしこれを「接辞」と比較するならば、このような成分の意味は完全に虚化される付加造語成分と異なり、一定的な実の意味を持っているであろう。この状況から、語基と接辞の間に「類接辞」が誕生し、複合語と派生語の境界に混乱がもたらされた。これが言語接触の過程において、中国語が外国語を柔軟に対応できるように変容した結果である。なお、文章の流れをスムーズにする為、本文では 20 世紀以降造語の過程に参加し、一定的な生産力を持つ語素を、まとめて「造語語素」と呼ぶことにする。

新語の創造には 2 つの要素がいる。一つは使用することができる言語材料、もう一つは人々に受け入れられるような造語方法である。では一体どのような語素が新語を作る上で使用されるのか。まず初めに語義上から言うと、ある一定の類推性を持つ語素は造語語素になりやすく、さらに言うと多くの造語語素には類別あるいは範囲を限定する作用がある。例えば「界」は一般に領域や同じ職業の社会人をまとめて表す。また「化」はある性質や状態に変化することを表す。

次に文法上から言うと、語彙化能力を持つ語素は容易に造語語素になり得る。これらの語素は造語の過程で異なる言語と組み合わせることができ、さらに元々の言語の所属の品詞を変えてしまい、その上新語の語法機能によって新しい表現の需要に答えることができる。例えば、「一式」で構成された語彙の大部分が区別詞であり、「一化」で構成された語彙の大部分が名詞あるいは動詞である。これらの造語語素は早期に翻訳の専門用語として使用され、多くの英語の語句に対訳することができた。

中国語の造語要素の形成については、多くの学者は 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて日本の書籍を大量に輸入したに関係していると考えている。当時、日中両国は西洋を見習い、国の将来を変えていた、そして

大量の西洋の書籍が東洋に入り、両国はその翻訳と西洋の書籍を紹介する作業に取り掛かった。この過程の中で、両国は多くの新語を作り出した。両国が新語を創造する際に「漢字」を用いたこと、さらに両国は近代においても頻繁に文化交流を行なっていたので、我々が近代中国語の造語語素の形成について研究する際には、日本語の影響を見落とすわけにはいかなないのである。まさに刁晏斌が『現代中国史』で「此期值得关注和讨论的，是部分语素开始表现出明显的词缀化倾向，这些语素主要有“非、反、超、泛”和“手、师、者、员、家、主义、性、化”等，（中略）它们大都先是在日语中用来对译印欧语的词缀，然后作为“回归词”而重回汉语（ここで注目すべき、また討論すべきなのは一部分の語素が接辞化の傾向を表していることである。このような語素は主に「非、反、超、泛」や「手、師、者、員、家、主义、性、化」など（中略）これらは初めて日本語に西洋諸言語の接辞を翻訳するときに使われ、その後、「回帰語」として中国語に戻った。）」⁶⁰と言っている通りである。しかし多くの学者は皆ただあいまいにこれらの中国語の造語語素の起源について記述しているだけで、完全な論証は未だない。

次に『官話』（1916）を用いて中国語造語法を研究する有効性について、「学」を例として述べたい。まず、先行研究として馬西尼は『現代漢語詞彙的形成——十九世紀漢語外來詞研究』に「在黄遵宪的《日本杂事诗》中，我们发现了三个由后缀“学”字构成的词，它们是来自日语的原语借词：“法学”（日语读 *hogaku*，即 *Law*），“动物学”（日语读 *dobutsugaku*，即 *zoology*）以及“地理学”（日语读 *chirigaku*，即 *geography*）。我们已经看到，17 世纪到 19 世纪后半叶，后缀“学”在汉语中用来创造表示某些西方学科的名称，例如，“力学”（*mechanics*），“化学”（*chemistry*），“光学”（*optics*），“植物学”（*botany*）。在汉语中由后缀“学”所构成的词，几乎总是双音节词；而

⁶⁰ 刁晏斌『現代漢語史』，P116 を参照

三音节词大部分是从日本传入中国的，这些词对于其他三音节新词（两个音节加一个后缀）的传播曾起过很大作用。这些三音节新词，为现代汉语创造无数新词，大开方便之门。」⁶¹と述べている。これは理論上の論述であるが、日本語の影響を受けて以降、中国語において三音節語が発達したことが、『官話』（1916）における「一学」類語彙の統計から証明できる。

統計により、「一学」類意識語においては、二字語50例、三字語192例、四字語61例、四字以上語97例あることがわかる。三字語の「一学」が著しく多いことがわかる。また、以下の通り『官話』（1916）に収録された三字新語と部定語を挙げて見ると、日本語と同形の三字語が相当数存在していた。

三字新語

艳丽学(新) 美术学(新) 症体学(新) 人类学(新) 人种学(新) 霉菌学(新) 微生物学(新) 书籍学(新) 活物学(新) 生物学(新) 草木学(新) 微分学(新) 积分学(新) 体操学(新) 返光学(新) 纪年学(新) 推理学(新) 论理学(新) 饮食学(新) 透光学(新) 神道学(新) 动力学(新) 经济学(新) 理财学(新) 电化学(新) 静电学(新) 电疗学(新) 昆虫学(新) 是非学(新) 人种学(新) 字原学(新) 器械学(新) 森林学(新) 筑垒学(新) 电流学(新) 美食学(新) 量地学(新) 地理学(新) 地輿学(新) 地势学(新) 地石学(新) 几何学(新) 笔迹学(新) 体操学(新) 体育学(新) 妇科学(新) 纹章学(新) 注释学(新) 组织学(新) 博物学(新) 动水学(新) 静水学(新) 保身学(新) 健全学(新) 观念学(新) 积分学(新) 运动学(新) 植物学(新) 法律学(新) 土石学(新) 思理学(新) 药科学(新) 药料学(新) 药剂学(新) 几何学(新) 量法学(新)

⁶¹ 馬西尼『現代漢語詞彙の形成——十九世紀漢語外來詞研究』漢語大詞典出版社 1997年09月 P110を参照。

心理学(新) 气象学(新) 气候学(新) 衡量学(新) 度量学(新) 产科学
(新) 军工学(新) 体形学(新) 体变学(新) 鬼神学(新) 古神学(新)
神话学(新) 格物学(新) 格致学(新) 格物学(新) 博物学(新) 航海学
(新) 行船学(新) 神经学(新) 规范学(新) 钱币学(新) 绝智学(新)
产科学(新) 生态学(新) 名字学(新) 物性学(新) 万有学(新) 生命学
(新) 原有学(新) 口才学(新) 病体学(新) 症体学(新) 病理学(新)
教父学(新) 教育学(新) 测视学(新) 天视学(新) 制药学(新) 药效学
(新) 制药学(新) 形像学(新) 现像学(新) 博言学(新) 言语学(新)
音声学(新) 发音学(新) 光化学(新) 相脑学(新) 骨相学(新) 地势学
(新) 体功学(新) 经济学(新) 理财学(新) 概率学(新) 心灵学(新)
烟火学(新) 美词学(新) 卫生学(新) 心灵学(新) 天生学(新) 格物学
(新) 格致学(新) 博物学(新) 地震学(新) 物体学(新) 静重学(新)
静电学(新) 外科学(新) 测量学(新) 信条学(新) 诸艺学(新) 电信学
(新) 结局学(新) 神道学(新) 热力学(新) 体势学(新) 地形学(新)
三角学(新) 八线学(新) 三线学(新) 动物学(新) 审美学(新) 发射学
(新) 讲典学(新) 热化学(新) 宇宙学(新) 头骨学(新) 头颅学(新)
犯罪学(新) 细胞学(新) 音力学(新) 动电学(新)

三字部定語

航空学(部定) 代数学(部定) 解剖学(部定) 博古学(部定) 植物学(部
定) 电质学(部定) 外交学(部定) 地力学(部定) 电质学(部定) 伦理
学(部定) 理财学(部定) 地质学(部定) 地力学(部定) 地历学(部定)
地历学(部定) 水机学(部定) 流质学(部定) 卫生学(部定) 动力学(部
定) 磁气学(部定) 机械学(部定) 心病学(部定) 冶金学(部定) 心病
学(部定) 物理学(部定) 生理学(部定) 政治学(部定) 心理学(部定)
理财学(部定) 理财学(部定) 政治学(部定) 社会学(部定) 静力学(部
定) 热化学(部定)

今までの中国語造語法の研究は経験的なもの、或いは理論上の論述が多いが、『官話』（1916）を利用することで、言語接触による中国語意識語造語要素を実証することが可能になる。

第四節「一性」について

1、『官話』（1916）の「一性」類語の特徴について

次に、「一性」を例として現存意識語の造語要素について述べる。現代中国語における「一性」を造語要素として新語を構成した大体の時期及び「一性」と英語接尾辞「-ty」、「-ism」の対訳状況を考察したい。また、「一性」という造語語素が近代日本語の中で形成された過程とその発展状況、そして造語語素となったおおまかな時期と造語語素になり得た原因を調査し明らかにしたい。

調査によって、『官話』（1916）に収録される「一性」には以下のような特徴があることが明らかになった。

まず、音節から見ると、双音節語が 29 例、三音節が語 63 例、四音節語が 9 例、5 音節語 5 例、6 音節語が 1 例ある。すなわち、当時「一性」の意識語においては三音節が主流であった。第三節にも触れたが、「三音節語の大部分が日本から伝来した訳語」という説があるが、この数字から見れば、「一性」も日本語の影響をうけた可能性が高いことがわかる。詳しく考察した内容は次の「3、」に述べる。

また、その他の特徴としては、当時英語接尾辞「-ty」、「-ism」との対訳状況から、以下のような状況が見られた。

音節数	「-ty」と対 応する語数	「-ism」と対 応する語数	その他	合計
双音節	16	0	13	29
三音節	35	11	17	63

四音節	4	0	5	9
五音節以上	1	0	5	6
合計	56	11	40	107

上記の表により、『官話』（1916）に収録される「一性」の半分以上が英語の「-ty」と対訳関係を持ち、そのうち、三音節語が最も多かった。三音節「一性」と英語「-ty」対応する語は以下のようにまとめることができる。

英語	官話の「一性」訳語	現代中国語の訳語
certainty	确实性	必然(性)；
compatibility	相合性	互换性；兼容性；相容性
compressibility	压缩性	压缩性；压缩系数；
compressibility	可挤性	压缩性；压缩系数；压缩率
divisibility	可分性	可分(性)，可分割性
docility	可型性	温顺；顺从
ductility	可拉性	延(展)性；可延展性；可锻性；
elasticity	自复性	弹性
expansibility	膨涨性	扩展性；发展性；膨胀力
fluidity	流动性	流性，流动性；流度；流状
fusibility	融解性	可溶性
homosexuality	同属性	同性恋，同性性欲
idiosyncrasy	偏僻性	特质；气质；风格
indestructibility	不灭性	不灭性；不能破坏；不可毁性
inflammability	可燃性	[物] 易燃性，[热] 可燃性；
irritability	易激性	应激性；兴奋性；刺激感受性
malleability	可捶性	顺从；可锻性；展延性
negotiability	输通性	流通性；可转让性；可磋商性

personality	人格性	品格；人格；对性格总的印象
plasticity	受塑性	可塑性
polarity	两极性	(二)极性，极
polarity	正负性	(二)极性，极
porosity	微隙性	反向性；极性
porosity	函孔性	多孔性；有孔性
possibility	可能性	可能性
probability	概然性	盖然性
receptivity	受容性	接受能力；[生理] 感受性
regularity	整齐性	规律性；规则性
rigidity	僵固性	刚性；刚度
sensibility	感受性	感受性；敏感性
sociability	社交性	交际活动，社交活动
sociality	社会性	社会性
spatiality	充填性	空间性
susceptibility	感受性	敏感性
tenacity	伸长性	坚韧，韧性

上記の統計により、当時「一性」に訳された語彙の大部分が現代中国語においても「一性」で訳すことがわかった。

また、さらに興味深い現象として、英語の「-ism」と対応できるのが三音節語しかないことがあげられる。以下の例を見てみよう。

aerotropism	屈气性	向氧性；向气性
chemotropism	屈化性	向化性，向药性
dimorphism	二形性	二形性，二态性；二形现象，二态现象
geotropism	屈地性	向地性，屈地性
heliotropism	屈日性	向日性；向光性

negative aerotropism	背気性	X (向気性)
negative chemotropism	背化性	负向化性
phototropism	屈光性	向光性
phototropism	背光性	向光性
positive aerotropism	向気性	向気性
tropism	屈动性	向性, 趋向性

以上の例を詳しく調べてみると、このような「一性」類語彙は植物学と生物学に集中していた。当時の造語要素の英語との対訳状況は所属の分野に関係があることがわかった。従って、造語要素その部分を見ただけでは、その形成過程を説明できない部分があるので、第二部の第二章で学術分野と造語要素について述べることにする。

2、「一性」の語形統一状況について

次に「一性」の語形統一状況について述べる。全体から見れば、「一性」の語形は大体統一されていたが、一つの英語原語に多数の訳語と対応する場合、以下のような対応関係があった。

まず、意識と解釈の対立である。前の訳語では「一性」が使われていることに対して、後ろの訳語では英語原語の意味を描写あるいは説明している。すなわち、後ろは「語彙」ではなく、「フレーズ」や句の断片で英語原語を訳している。以下、具体的な例を見てみよう。

enterprise	冒险性	敢做 敢为
forgetfulness	忘却性	善忘
negotiability	输通性	流通之事
possibility	可能性	能有 可以有 或者有
sensibility	感受性	知觉敏
sensibility	弱性	易受感动的性子

この種類の訳語が同時に存在することから、当時「一性」類訳語の語彙化は進行中であると分かる。

次は、前の訳語においては「一性」が使われるということに対して、後ろの訳語では「一力」、「一能」、「一質」、「一度」など他の「造語要素」が使われる状況が見られる。例えば以下の通り。

「一力」類

ductility	可拉性	可扯力(新)
elasticity	自复性	跃回力(新)弹力(新)缩力(新)
expansibility	膨涨性	涨力(新)
tenacity	伸长性	物之扯力(新)黏韧(新)韧力(新)

「一能」類

intelligence	知性	智能
irritability	易激性	被惹能(新)

「一質」類

idiosyncrasy	偏僻性	特异质(新)
individuality	个性	特质 性分

「一度」類

Sensibility	感性	觉度
sensibility	觉性	觉度
viscosity	胶性	粘度(部定)

この種類の英語原文には、接尾辞「-ty」を用いて構成された語彙が多い。すなわち、上記の英語接辞を「一力」、「一能」などの漢字で訳ているのである。また、翻訳に使われた漢字の意味の虚化程度も異なっている。

「力」と「能」はより確実な意味を持ち、「力量」や「能力」の意味を示している。これに対して、「質」や「度」は確実な意味を持っていなかった。要するに、当時の英語接辞と対応できる新興造語要素は唯一ではなか

った。すなわち、異なる造語要素が違うルートから翻訳され、中国語に入る可能性があるということである。

さらに、以下の例は、前後共に「一性」を組み合わせた語であるが、内部構造から見れば、違うところがある。

choleric temperament	热性	火性
melancholic temperament	郁性	金性
porosity	函孔性	微隙性（新）
sanguine temperament	浮性	木性

この種類の訳語は前のほうが「形容詞＋性」で構成され、後ろのほうは「名詞＋性」で構成されたている。もし後ろのグループの名詞の後ろに「之」を入れると、「名詞＋之＋性質」のような構造になり、これは全て実の意味を持つ語素の組み合わせであり、英語の接辞とは異なる内部構造である。即ち、「一性」が造語要素として使われる際、「…のような性質」の意味を表し、前の部分が形容詞であることがよく見られるのである。外見からは同じように見えるが、内部構造をみると外来造語法や固有造語法が判断できると考えられる。

3、日本語における「一性」について

『英華大辞典』（1908）における「一性」の用例を調べると、「一性」を使わずに構成された語があることがわかった。以下の例を見てみよう。

番号	英語	英華大辞典	官話	現在訳 ⁶²	日本語
1	Probability	1 可能，可有，可然 2 似然，似真，或是，或有	约有性，概然性（新）	可能性	蓋然性
2	Possibility	1 能有，尚未有，有可有	可能性（新）	可能性	可能性

⁶² 現在訳が主に『COBUILD 英漢双解詞典』（訳文出版社）を参考した。

		之道 2 能然，能成，能为， 或然，或有 3 可有物，可 有事。	能有，可以 有，或者有。		
3	Susceptibility	1 易感纳，易感受，易感 触 2 易感动 3 易感觉，感 受性，感染性	感受性(新)	感受性	感受性
4	Accident	偶有性，物质	偶有性	意外事故	偶有性
5	Property	撰德，普通性质，类别共 有之德而不可以为类德 别德者。	化性；独 性；体性	特性	固有性

二つの辞書の出版年代には八年間の差があるが、この間に「一性」が英語以外の影響を受けたかどうかについて解明したい。上記の『官話』(1916)の訳語は日本語と一致しているところが多いので、日本語の影響を受けた可能性が高い。そこで日本語における「一性」の発展状況を調べた。

筆者の統計により、『日本国語大辞典』に「一性」類語は 844 例あり、「性」の発音と語素義により、以下のように分類できる。

性（発音：しょう）：

(1) 仏教用語

例えば、有性（うしょう）、縁因仏性（えんいんぶっしょう）、依他起性（えたきしょう）などがある。

(2) 陰陽道及び本性と関連する

例えば、相性（あいしょう）、雨性（あめしょう）、生性（うまれじょう）などがある。

(3) ……しやすい性質

例えば、哀性（あわれしょう）、浮気性（うわきしょう）、脂性（あぶらしょう）などがある。

性（発音：せい）

（1）性質

例えば、迂性（うせい）、アルカリ性（アルカリせい）、遺伝性（いでんせい）などがある。

（2）状態

例えば、運性（うんせい）、一貫性（いっかんせい）、安定性（あんていせい）などがある。

（3）訳語に使う

例えば、永続性（えいぞくせい）、蓋然性（がいぜんせい）、可能性（かのうせい）などがある。

日本語の語素「一性」の分析を通じて、現代中国語において造語要素として使われる「一性」の語素意味は、日本語では「せい」と発音される「一性」と一致していることが分かる。その中で、訳語として使われている「性」は日本において19世紀に西洋書籍を翻訳する過程で創造された新しい造語要素であることがわかった。この使用状況の考察によって、この造語要素が日中英三か国語の言語接触過程に形成された対応関係を見出すことができる。本文では、『日本国語大辞典』に記載されている全ての訳語用「性」を全てもらさず調査した。以下はその結果である。

『日本国語大辞典』に記載された訳語用「一性」一覧表

No	語彙	辞典に載せている引用例
1	えいぞくせい【永続性】	哲学字彙〔1881〕「Perdurability 永続性」
2	がいぜんせい【蓋然性】	哲学字彙〔1881〕「Probability 蓋然性」
3	かのうせい【可能性】	哲学字彙〔1881〕「Possibility 可能性」
4	かんじゅせい【感受性】	哲学字彙〔1881〕「Susceptibility 感受性」
5	ぐうゆうせい【偶有性】	哲学字彙〔1881〕「Accident 奇遇、機運、変故、

		偶有性（論）」
6	こゆうせい【固有性】	哲学字彙〔1881〕「Property 偶性、固有性（論）、所有物（法）」
7	つうゆうせい【通有性】	哲学字彙〔1881〕「Universals 通有性」
8	とくいせい【特異性】	哲学字彙〔1881〕「Dierence 差違、支吾、逕庭、齟齬、異点、特異性」
9	かそせい【可塑性】	工学字彙〔1886〕「Plasticity 粘性。可塑性」
10	たいきゅうせい【耐久性】	工学字彙〔1886〕「Durability 耐久性」
11	くっせつせい【屈折性】	物理学術語和英仏独対訳字書〔1888〕 「Kussetsusei (no) Refracting 屈折性（の）」
12	とうじせい【等時性】	物理学術語和英仏独対訳字書〔1888〕「Tojisei. Isochronism 〈略〉等時性」
13	たしよくせい【多色性】	鉱物字彙〔1890〕「Pleochroismus. Tashokusei. Pleochroism 多色性」
14	うせんせい【右旋性】	稿本化学語彙〔1900〕「Right handed Rechts 右 旋性の」
15	えんきせい【塩基性】	稿本化学語彙〔1900〕「Basic Basisch 塩基性 の」
16	きはつせい【揮発性】	稿本化学語彙〔1900〕「Volatile. Flüchtig. 揮 発性の」
17	きゅうしつせい【吸湿性】	稿本化学語彙〔1900〕「Hygroscopic. Hygroscopish 吸湿性の」
18	こうがくいせい【光学異 性】	稿本化学語彙〔1900〕「Optical isomerism. Optische Isométrie, f 光学異性」
19	させんせい【左旋性】	稿本化学語彙〔1900〕「Left handed. Links. 左

		旋性の」
20	たいかせい【耐火性】	稿本化学語彙〔1900〕「Refractory. Feuerbeständig 耐火性の」
21	とうほうせい【等方性】	稿本化学語彙〔1900〕「Isotropic. Isotropisch 等方性の」
22	ふようせい【不溶性】	稿本化学語彙〔1900〕「Insoluble. Unlöslich 不溶性の」
23	りったいいせい【立体異性】	稿本化学語彙〔1900〕「Geometrical isomerism (stereoisomerism). Stereoisomerie, f 立体異性」

調べによると、訳語用語素「性」の発音は全て「せい」であり、造語要素として使われているものは41例、そのうち、三音節以上の語彙が23例ある。『日本国語大辞典』の凡例の部分では用例を選定する基準が詳しく説明されている。その中では、語彙のそれぞれの解釈の下に付いた用例は、当該解釈の最も古い例証であることが明記されている。上記の表の右の部分に記載されている用例を見ると、23例の三音節訳語が合計五つの書籍から引用されていることがわかる。それは、『哲学字彙』、『工学字彙』、『物理学術語和英仏独対訳字書』、『鉱物字彙』及び『稿本化学語彙』である。これらの書籍の出版年代は1881年から1900までの20年の間である。また、訳語のうち、英語接辞「-ty」と対応する語が最も多く、7例ある。次点は英語接辞の「-ism」であり、4例が見られる。

全体的に見れば、以下のような結果が得られる。まず、日本語の訳語用造語要素である「-性」の形成時期はおおむね1880年代から20世紀の初頭である。これは主に英語の学術用語を翻訳するために使用され、哲学、工学、物理学、鉱物学及び化学などの分野に使われている。

また、本節に挙げられた23例の英語原文のうち、『英華大辞典』（1908）

に収録されたものが15例あり、そのうち「性」で対訳されるものは4例ある。これらが全て収録されている語数の26.7%を占めている。これに対して、『官話』（1916）に収録されたものは11例あり、その中、「性」で対訳されるものが6例ある。これらは全て収録されている語数の54.5%を占めている。特に、英語原文において接辞「-ty」で終わらせる語彙については、「固有性」以外は『官話』（1916）では「一性」と訳されている。さらに、「概然性」や「可能性」、「感受性」、「受塑性」などはいずれも当時の新語であることがわかった。また、全15例のうち、現代中国語において「一性」に訳されているものは8例、「一的」に訳されているものが5例ある。そのうち、接辞「-ty」で終わる6例の英語原文は、現代中国語では全て「一性」に訳されている。

以上の分析により、『英華大辞典』（1908）が出版された1908年は、中国語において、英語接辞「-ty」と対応できる造語要素がまだ定着されておらず、その訳語の翻訳方法はより自由で、まとまりのない状態であったことがわかる。これに対して、『官話』（1916）が出版された1916年には、日本語の借用語が中国語に受け入れている。それらの借用語のうちには、英語と対訳できる日本語も含まれている。また、中国で出版された英漢辞書は、この一連の日本語を記載したことから、中国語に「一性」と英語の接辞「-ty」との対応関係が徐々に形成されて、最終的には造語要素として中国語に残され、生産力が高い中国語造語要素になった。

4、結語

日本語にはよく使われている漢字（語素）を用いて訳語を創出する傾向があり、また、その造語方法も中国社会に受け入れられやすかった。20世紀の初めから起こった日本語書籍の流入は、日本語が漢字による語形を有していたために、これらの訳語が国の枠を越えて、中国語に入り、当時の中

国語の「新語」になっていった。これらの新語はまとまりのない状態から体系的になり、最後に中国語の一部として定着し、現在まで使われている。

多くの新語が輸入したことは、中国語自身の造語法まで影響を与えた可能性が高い。本節の「一性」の日中対照により、日本語が伝来した後、「一性」類接辞が現代中国語に定着し、中国語の造語法と深く関連して、中国語自身の複合語を構成する接辞的な要素が形成され始め、造語要素として接辞化されたことがわかった。この造語要素は英語書籍の翻訳を通じて形成されたものであったとしても、この過程において日本語が直接使える訳語や造語語素を提供したことは明らかである。これらのことから、中国語の造語要素は日中言語接触のもと、両国の語彙交流や受容のプロセスにおいて形成されたと考えられる。

第五節 廃語の造語要素について

1、はじめに

現代中国語の変遷過程から見れば、19 世紀末から 20 世紀初頭までの期間は、新たな中国語の形成期の結末に当たる。この時期、音声、語彙および文法はいずれも産生、衝突、淘汰、定着の過程を経て、落ち着いた状態になっていた。本文はこの落ち着いた状態になっていた時代に創造された「新語」と「術語」を研究対象として、構造、音節、翻訳方法などについて分析し、現代中国語形成過程における造語法や造語要素がどのような特徴を持っていたかを検討したい。さらに、現代中国語の「近代化」の特徴は文法の面だけではなく、造語法の面においても見出すことができることを証明したい。

また、先行研究においては、当時創出された新語が消滅した原因についての検討が少ない。しかし、当時創出された新語すべてが現代中国語の語

彙の一部として定着したわけではない。現代中国語の廃語についての研究は全く開拓されていない分野である。今回は現代中国語語彙の「分析性」は現存の語彙だけではなく、すでに消滅した「新制漢語」にも含まれていることも証明したい。

2、『官話』(1916)における廃語の造語要素について

第四節では現存語を中心として造語の面から考察したが、考察により、それらが言語接触により形成され、さらに生産力が高い造語要素として中国語に残されていることがわかった。また、これらが日本から伝来した借用語の影響を受けたことも解明した。しかし、多くの造語要素は中国語語彙の形成過程に強い生産力を持っていたが、最終的に中国語に残され、造語要素として新語の創製に参加することはできなかった。しかし、これらの廃語における造語要素は、中国語造語法研究の「化石」といっても過言ではないほど重要な研究価値を持っている。本節では廃語に使われた造語要素を中心に、中国語造語法形成初期の造語要素の特徴を解明したい。

現代中国語の廃語についての研究は全く開拓されていない分野であるが、「他山の石以て玉を攻むべし」である。日本語における廃語の研究を踏まえて、現代中国語の廃語に潜められている規則や内包するものを探し出して見よう。日本語における和製漢語の廃語について、森岡健二⁶³は以下のように指摘している。「明治の初期、旧時代の日本語と新たに輸入された中国語が総点検され、新時代にふさわしい語か否かが選別されたであろう。また、日本人によって意欲的に新語が作られたであろう。その選別と造語に際して最も強力な拠り所として働いたのが、a、b類およびc類の漢字であったと思われる。d、e類の漢字も、選別に際して多数紛れ込んだことも確かであるが、これらは時代とともに整理され、現在はd類を残し

⁶³ 森岡健二 近代語彙の形成 上智大学国文学論集 4, 3-15, 1970-11-20

てほとんどが淘汰されたといつてよい。(中略)日本人の造語は a、b 類にするものが圧倒的に多いと思われるが、専門用語の作製に関する限りは、d、e 類が無批判に採用された形跡がうかがえる。」⁶⁴この結論は現代中国語にも適用するだろうか。また、一般用語と学術用語の用字が違っているかどうかを確認したい。

また、『19 世紀末の漢語の廃語化現象に関する研究——『時事新報』を中心に』⁶⁵では、日本語を対象として廃語化の要因を「事物・概念の消滅による廃語化」、「新語の生成による廃語化」、「類似漢語への統合による廃語化」、「文字転倒による廃語化」、「同音の文字による置き換え」、「漢語体の崩壊による廃語化」などに分類している。本節では中国語本体を研究するため、「事物・概念の消滅による廃語化」や「漢語体の崩壊による廃語化」などの要因については論じないが、他の廃語化原因について中国語にもあるかどうかを確認したい。

また、宣教師によって創製された新語や嚴複が作った新術語は古代中国語の難解字や中国社会で受容しにくい語構造を用いたため、ほぼ消滅してしまったと言う説があるが、しかし、この時期の強い生産力を持った廃語に使われている造語要素は一般的な漢字であり、中国語と外国語の言語対訳の面において現存している語彙より分析しやすい。この現象についてもさらに説得力できる理由を考えたい。

造語要素とは、造語能力を持っている語素のことを指している。本文は『官話』(1916)の新語と部定語の「質」、「精」、「素」式語彙をすべてもらさず調査した。辞書に収録された語彙を研究対象にする理由は、辞書に収録されたということはその語彙はすでに一定の社会範囲で使用され、社

⁶⁴ a 類は音読流通の漢字、B 類は字音専用の漢字で自立するもの、c 類は字音専用の漢字で派生語として用いられるもの、d 類は字音専用の漢字で熟語の要素としてのみ用いられるもの、e 類は字音専用の漢字で特殊な熟語の要素としてしか用いられないもの。

⁶⁵ 19 世紀末の漢語の廃語化現象に関する研究——『時事新報』を中心に ト保境
2004 年 3 月 東北大学国際文化研究科 博士論文

会からの認可を得たという証拠であるからだ。新語と部定語を研究対象にする理由は、この二種類の語彙は近代中外言語接触により創出され、近代化特徴を持っていると見なされるためである。これにより、どのような造語要素が当時の新語や術語の翻訳と創出に参与したか、また、外来影響を受けて、現代中国語造語法はどのような変化をもたらしたかについても解明できる。

辞書に用いられている漢字の使用頻度調査により、多くの造語要素は現代中国語の形成過程に強い生産力を持ったが、結局現代中国語に残されなかったことが分かった。本稿はその中で使用頻度がより高い「質」、「精」、「素」を例として、すでに消滅した新語と部定語が一度に大量創出されたにもかかわらず、消えてしまった原因を究明したい。

本辞書のデーター統計により、造語要素「一質」で作られた単語は 178 例、「一精」で作られた単語は 59 例、「一素」で作られた単語は 35 例である。また、当辞典に収録された「質」、「精」、「素」類新語、部定語を英語原文や当辞書における他の訳語、『英華大辞典』（1908）の訳語、現代中国語の訳語などと対照した。調査により、「化学」類学術用語が最も多く、その他、「生物学」、「医学」、「物理学」の分野に集中した。ここで使われていた造語用語は当時きわめて高い生産力を持っていたが、現代中国語においてその大部分はすでに消滅してしまった。造語要素だけの角度から見れば、現存語はあわせて 13 例しかない。総語彙数の 272 例と比べても、現存率は 4.8% しかない。また、学術分野から見れば、「生物学」と「医学」が最も多く、造語要素の角度から見れば、「一質」類が最も多く、9 つあった。「一精」と「一素」はそれぞれ 1 例と 3 例のみであった。具体的な例は以下の表を参照されたい。

英語原文	『官話』	新/部定	学科分	『官話』	現代中国語
------	------	------	-----	------	-------

	(1916) の 訳語		類	(1916) の 他の訳語	
bioplasm	原形質	新	生物		原生質
cement	白垩質	部定	医学		牙骨质
cortical substance	皮质	部定	生物		皮质
dentine	象牙質	部定	医学		牙本质，牙质
diamagnetic substance	反磁質	部定	医学		抗磁質 反磁物 質 抗磁物質
electrolyte	電解質	部定	物理化 学	電化料（新）	電解（溶液） 電 解質
enamel	珐琅質	部定	医学	釉薬（部定）	（牙齒的）釉質， 珐琅質
phlegm	黏液質	新	医学	痰 痰涎	冷凝質；粘液質
vegetable matter	植物質	新	生物		植物質 植物性 物質
cafein	茶精	部定	化学		茶精
cellulose	荳絲素	新	生物化 学	植絲質（新） 纖維（部定） 細胞膜質 （部定）	纖維素
chlorophy chlorophyll	葉綠素	新	生物化 学	葉綠（部定） 葉綠精（部 定）	葉綠素
skatol	糞臭素	新	生物		糞臭素

次に、この三つの造語要素の特徴について述べたい。

2.1 造語要素「一質」について

本辞書に記載された「一質」で構成された新語と部定語の最も著しい特徴とは、「一質」類新語と部定語の英語原文はその前の訳語が語彙 (word) ではなくフレーズ (phrase) で表されていることである。また、このフレーズは Substance、Compounds、Matter、Tissue、Element など終わる。substance (s) で構成されたフレーズだけで 12 例見られる。例えば、蛋白質 (albuminous substances), 胆汁質 (biliary substances), 反磁質 (diamagnetic substance) などである。「一質」は「物、体、精、素、組」など多くの意味を持ち、互いに交換して使用することができるので、生産力が強い。ここで、「質」と対応する英語を『英華大辞典』(1908) と『官話』(1916) の解釈を用いて比較した。

Substance	质 本质 要領(1908)	质 实体 (1916)
Compounds	合质 杂质(1908)	化合质 (1916)
Matter	质 体 有形有体之物(1908)	物质 质料 体 质 (1916)
Tissue	(月罔), 肉(月罔), 织质, 组织物(1908)	(月罔) 组 (1916)
Element	物之原质, 元素, 要素, 分子(1908)	原质 元素 质素 一分子 (1916)

この比較から次のことが分かる。「質」は 1908 年の段階で多数の概念を対訳することができ、1916 年においてもこの状況はかわらない。Tissue は『官話』(1916) で「织质」という訳語を消したとしているが、cellular tissue は変わらずに「腔形织质 (新)」と訳されている。

2.2 造語要素「一精」について

「質」と異なり、「精」の英語原文は「carboniferous gas 炭精、extract of meat 肉精、thio ethers 磺酐精」という三つのフレーズしかなかった。その

他は全て語句であった。その上、非新語、部定語や「英華大辞典」(1908)の翻訳状況と比較したところ、訳語の交替現象が「質」より目立つことが分かった。例えば、もとの音訳語を「精」に改訳している例が多く見られる。

Aconitine (化) 阿古尼低尼 (1908) 草乌头精 (1916)

Picrotoxin (化) 比割路毒西尼, 白色毒晶物 (1908) 鱼毒果精 (1916)

また、英語原文の対訳語がない場合、「英華大辞典」(1908)はフレーズや句で訳されているが、「官話」では「精」でやくされている。例えば、次の通り。

aesculin/esculin 由山栗所得之碱 (1908) 马栗精 (1916)

atropine 龙葵及曼陀罗华中抽出之白色有毒能结晶之有机盐基 (1908) 莨菪精 (1916)

さらに、1908年においては「一質」の形で訳された単語が『官話』では「一精」に変わっている。このような単語が15例ある。例えば次の通り。

Cantharidin (化) 斑蝥质 起泡质 (1908) 芫菁精 (1916)

Daphnin 瑞香木之苦质 (1908) 芫花精 (1916)

造語能力の発展状況から見れば、「一精」は「一質」より遅く、59例の「一精」の中に『英華大辞典』(1908)において「一精」で訳されたものは8例しかなかった。

2. 3 造語要素「一素」について

「素」で構成された語彙の中では、9例が「英華大辞典」(1908)において「質」で構成されている。例えば、次の通り。

Bilin (化) 胆汁中树脂质 (1908) 胆汁素 (1916)

Silica 砂养洽, 火石石英之原质 (1908) 硅素 (1916)

また、「素」類のうち、『英華大辞典』(1908)でも同じく「一素」の形

で訳された単語も9例ある。もう一つの特徴は、それが『英華大辞典』(1908)で「一素」類訳語は「xylo1 (水化炭素)」以外が二つ以上の訳語を用いて英語原文と対応されていることである。例えば、

stearine 脂素 肪素 (膏油之本质)

ptyalin 涎酶 唾液素

pepsin 助消化素 卑白辛 胃汁素 胃液素 (牛羊胃汁之要素 用作药物, 以助消化者)

olein 油水 油质 油素

つまり「一素」は生産力が強いが、対訳状況が不安定であり、「一質」「一酶」「一水」などと重なっている部分があるのである。

『英華大辞典』(1908)の訳語は当辞典に収録された「質」、「精」、「素」類新語、及び部定語の他の訳語と比較すると、訳語は語彙ではなくフレーズで表しており、音訳の場合、「質」、「精」、「素」を利用して新語を作る傾向がある。また、「質」は「物、体、精、素、組」など多くの意味を持つため、当初は生産力が高かったが、徐々に「精」や「素」に分化していく傾向にあった。

3、「質」、「精」、「素」の語構成特徴について

これらの現代中国語においてすでに消滅された造語要素で構成された「新語」や「部定語」は中古中国語及び現在使われる現代中国語と比べ、語構成の面において、以下のような特徴がある。

1. まず、語構造の面から見れば、修飾構造が最も多い。

語構造の面から見れば、「質」、「精」、「素」を利用して構成された新語と部定語は全て修飾構造である。⁶⁶

⁶⁶ ここでは一つの特例がある。*antitoxin*を「攻毒素之质」に訳した例がそれである。語彙内部構造の角度から見れば、「攻毒素」と「质」は確かに修飾と被修飾の関係にあ

現代中国語において、生産力が最も高い構造は修飾構造である。なぜなら、修飾構造が各種の物事を分類することができ、この構造を用いて造語を行うと、同類事物より区別特徴を抽出することができる。これがまさに事物を命名する基本要素である。接辞や類接辞も一種の修飾構造と言えるだろう。中国語における修飾構造の生産性について、言語学者は上古中国語と中古中国語を詳しく調査し、データまで作られた。そのうち、沈懷興は『漢語偏正式構詞探微』（1998）に『周易』や『詩経』、『論語』、『辞源』、『現代漢語補編』の統計データにより「在汉语词汇史上，从先秦到现代的双音节复合词中始终以偏正式构词法最能产。（中国語語彙史上において、先秦から現代に至りまで双音節複合語において修飾構造法が一貫して最も生産力が高い構造である。）」という結論を出している。さらに、沈氏の『現代漢語補編』の複合語の統計結果をみると、修飾構造が 47.78%を占め、並列構造が 27.19%を占めている。しかし、この結論に対して異論を唱える学者もいる。李仕春は『偏正式構詞法並非一直最能產』（2006）で、「从已有专书复音词研究得出的大量数据证明联合式构词法在中古时期是最能产的。影响联合式构词法能产的原因既有语言内在的因素，也有语言外在的因素，而文体因素则是造成中古时期联合式构词法最能产的主要原因。」と指摘している。この論文は東漢魏晉南北朝時代の九つの作品に統計を行ったので、結論の信頼度は高いと考えられる。

上記の二篇の論文をあわせてみると、中国語において最も生産力が高い語彙構造は「修飾構造」（上古時期）——「並列構造」（中古時期）——「修飾構造」（近現代）という複雑な過程を経歴している。これは単に言語内部の変遷結果ではなく、中国語と外国語の言語接触が主な要因であり、外来の影響を受けた結果と推測される。

り、修飾関係と見なしても良いが、その間を「之」で連結するため、両者にはより強い独立性があり、現代中国語における修飾構造と異なる部分もある。

また、本文の統計結果により、20 世紀初頭に作られた学術用語は修飾構造が絶対的な主流をしめしており、また次で討論する音節数量の変化も修飾構造新語が作られる重要な原因であろう。

2. 音節の面から見れば、三音節以上の語が主流である。

音節の面から見れば、三音節以上の語が主流である。統計データによれば、「精」類単語に双音節語は 11 例、三音節 35 例、四音節 11 例、五音節は 2 例ある。また、「質」類単語に双音節語は 49 例、三音節 57 例、四音節 33 例、五音節以上は 39 例ある。「素」類単語に双音節語は 16 例、三音節 18 例、四音節 1 例ある。

合わせると、以下の表のように記すことができる。

	双音節	三音節	四音節	五音節以上
合計	76	110	45	41
比率	27.9%	40.4%	16.5%	15.1%

表から、三音節語が半分以上を占め、三音節以上の語彙は 72.1%を占めていることが分かる。『西遊記』や『紅樓夢』に三音節は 1 %しかなかった。1949 年以降、中国語文学作品における語彙に三音節は 6.2%に増えている。しかし、学術用語のうち、特に理系術語において、三音節の比率は遥かに高い。双音節が主流である現代中国語において、どのような語彙が多音節化の方向に発展しやすいか。これは学術用語を翻訳する際形成された「造語要素」にあると考えられる。派生を主な構成方法とする語彙を中国語に翻訳する過程において、原文は切り離され、類推機能が働いた。類推とは複合語の全体的な意味を表すための「要素の組み合わせの型」がすでに出来上がっている場合に、その一部に新たな要素を当てはめる形で、新たな複合語を作るという方法である。双音節の場合、二つの漢字は緊密な関係を持ち、分離するのが難しい。しかし三音節以上なら、一つの語が

造語要素として定着するため、類推機能を持っているというわけである。統計により、このような造語法は現存の語彙だけではなく、廃語にもよく使われたとわかる。

3. 英中対訳の角度から見れば、「精」、「素」類語は英語原文よりも体系的な対訳関係を持っていた。

さらに、統計により、次のことが明らかとなった。「—精」は英語の接尾辞「—in」や「—ine」と対訳関係を持つ語数が 43 例あり、これは 73% を占めている。また、「—ene」（不飽和化合物を表す接辞）と対応するものも 4 例ある。「—素」は英語の接尾辞「—in」や「—ine」と対訳関係を持っていた語数が 20 例、57%を占めている。その内、「—in」は英語接辞として、「…の中」や「…に属する」の意義があり、主に化合物や医薬類物質を表す。また、「—ine」も化学元素や化合物名称を表す接辞である。しかし、現代中国語において、「—in」や「—ine」と対訳する語素は「素」、「碱」、「烯」、「貳」、「酶」、さらに音訳の「因」などがあり、現存語においても英語と対訳関係は持っていない。蘭学時代から日本語には原語である英語を語基に分解し、それに語基である漢字をあてる方法が基本であった。この方式により創製された語彙が今の日本語における医学や理系学術用語に存在している。当時の中国語における「精」や「素」類語の翻訳状況を見れば、当時も大体同じ対訳方法を使っていたと分かる。しかし、当時の英語の語基に当てはまる中国語の語基は果たして既存していたものなのか、新たに作られたものなのか、日本語から借用したものなのか。これは根本的な問題であろう。当時、対訳関係を持っていた造語要素「—精」を使わずに、新たな造語要素を使うようになったのは英語以外の言語の影響を受けている可能性が高いと考えられる。

4、結語

調査により、すでに消滅した「新語」も現代中国語語彙形成過程において多大な役割を演じたと分かった。新概念を翻訳する初期に中国語自身が速やかに調整できなかったため、英語原文の意味解釈や完全な音訳法、難解字を使用したり、または、多数訳語の同時乱用などの現象が現れた。その後、この問題を解決するために、生産力が高い造語要素が中国語に入り、元々の訳語に置き換えられた。その後、各学科の発展状況により、一部分の概念が深く理解され、語彙の意味が再分化され、当時の新語はまた歴史の舞台を退くこととなったのである。

また、語彙消滅の原因は語彙本体と関係があるが、単なる言語学の視点からは十分に解釈できない。中国語語彙、特に造語要素の消滅を非言語要因から考察を行うことがこれからの課題であろう。

第二章 意識による学術用語について

はじめに

王力が「从鸦片战争到戊戌政变（1898），新词的产生是有限的。从戊戌政变（1898）到“五四”运动（1919），新词产生得比较快。“五四”运动以后，一方面把已经通行的新词巩固下来，另一方面还不断地创造新词，以应不断增长的文化需要。」（阿片戦争から戊戌の変法（1898）まで新語の創出は限りがあるが、戊戌の変法（1898）から五四運動（1919）までの期間においては新語の創出は速かった。五四以降、広く通用する新語が定着し、新しい語彙も文化的な需要に応じて創造されていた。）と指摘したように、現代中国語語彙は外国語の影響を受けて、大きな変化を遂げた。その中で、外来からの影響を最も大きく受けて発展したのが近代学術用語である。当時の辞書を編纂する人々もこれらの点に気づき、自らの辞書に意識的に相關用語を載せた。

『官話』（1916）の書名下方に一行文字で **including scientific, technical, modern, and documentary terms**（科学、技術、現代及び書面語が含まれている。）という注があり、辞典に収録されている語句のおおよその範囲を提示している。そしてこの辞書は具体的にどのような語句が収録されているのか、また収録する過程の中である学問の分野に偏っているかいないかなどの問題については、辞書に特別に記載されている注から回答を見つけることができる。

この辞書の中で、著者は2つの角度から収録されている語句に対して特別な注をつけており、この注のつけ方はこの辞書を編纂するうえでの最大の特徴であるといえることができる。

1つ目の特徴としては収録されている語句を「俗」、「文」、「新」、「部定」の4種類に分けていることである。「俗」はことわざや方言を指し、「文」は書籍や新聞などに用いられている口語では使用しない書面語

を指し、「新」は現代の新語を指し、「部定」は 1912 年に嚴復が主宰する中国教育部委員会が選定した基礎科学の専門用語で、大学や学校で用いられるものを指す。

2 つ目は一部の専門用語を科目別に 51 種類の注に分けたものである。具体的には下の表を通りである。

Algebra 代数学	Anatomy 解剖学	Architecture 建築学	Arithmetic 算数	Astrology 占星術学
Astronomy 天文学	Botany 植物学	Chemistry 化学	Commerce 商業	Ecclesiastical History 教会史
Economics 経済学	Electricity 電気学	Ethics 論理学	Ethnology 民俗学	Genealogy 系譜学
Geography 地理学	Geology 地質学	Geometry 幾何学	Grammar 文法学	Heraldry 紋章学
History 史学	Hygiene 衛生学	Logic 論理学	Magnetism 磁気学	Mathematics 数学
Mechanics 力学	Medicine 医学	Meteorology 気象学	Military 軍事	Mineralogy 鉱物学
Music 音楽学	Mythology 神話学	Natural History 自然史	Nautical 航海	Optics 光学
Painting 絵画	Paleontology 古生物学	Pathology 病理学	Philosophy 哲学	Photography 撮影
Physics 物理学	Physiology 生理学	Poetry 詩歌	Printing 印刷	Psychology 心理学
Rhetoric	Sculpture	Surgery	Theology	Trigonometry

修辞学	彫刻	外科医学	神学	三角法
Zoology 動物学				

上記の 2 つの分類から、辞書の編纂者は辞書を編纂する過程において、近代から中国語の中に出現した新語や科学の専門用語の全てに対して非常に注目していることがわかる。

第一節 『官話』（1916）の学科分類と学科内術語漢字使用頻度サンプリング

上記した通り、『官話』（1916）は語句を 51 種類の学問分野に分けているが、このような表記をつけるタームは辞書に載せている全ての語彙のほんの少しを占めるだけで、多くの専門用語はまだ分けられていない。したがって筆者は『官話』（1916）に記載されている新語を新たに分類することを試みた。分類する際に基準となったのは以下の数点。

1 元々分類されている分野とある程度の一致性を保つ

元々分類されている分野は現代の視点から見ると十分に科学的であるということとはできないが、多くの分類されたものには上位と下位の関係がある。例えば代数学（Algebra）、算数（Arithmetic）、幾何学（Geometry）、数学（Mathematics）は同じラインにある。しかしこの分類も同時に編集者の当時新興学科や新語への意識を表現できる。これには異なる学科における新語への区分意識と同学科における新語への統一意識などが含まれている。

2 できるだけ分類した学問を同じ概念上に置く。

分類基準は合理性と権威性を追及するため、本文では『中華人民共和國

『学科分類與代碼國家標準』⁶⁷の部類と一級学科分類を参考にし、あらゆる学科の区分について、本来の分類法の特徴を可能な限り維持しながら改めて分類した。

3 具体的に収録されている新語の特徴を表す。

各辞書が新語を収録する過程において、学科によって必ず異なる偏りが生じる。本文も分類をする際この点を考慮したので、理系関係の語彙をより詳しく分けることができた。これに対して、文系関係の語彙をおおまかにまとめた。

以上を踏まえて、本文は「新語」を以下の通り大きく 15 種類に分けた。詳しくは下の表に記した。

番号	学科名称	下位分類
1	哲学類	倫理学 論理学 宗教学 中外哲学など
2	政治法律学類	法学 政治学 社会学 民族学など
3	経済学類	金融学 貿易学など
4	文学類	言語学 芸術学 歴史学など
5	数学類	基礎数学 代数学 幾何学など
6	物理学類	音声学 光学 力学 電子学など
7	化学類	有機化学 無機化学など
8	機械学、工学類	機械 製造 車両、工事など
9	医学類	基礎医学 臨床医学 医薬学など
10	軍事学類	戦略学 戦術学など
11	地理学類	地質学 鉱産学 海洋学 気象学など

67 『中華人民共和國学科分類與代碼國家標準』。『学科分類與代碼』と略称する。これが中華人民共和國の学科分類の國家標準である。この標準には学科の分類やコードを規定している。これは中国国家技術監督局の許可を得、国家科学委員会と技術監督局が共同に提出した基準である。国家技術監督局が 1992 年 11 月 1 日に正式に公表し、1993 年 7 月 1 日に正式に実施した。

12	生物学類	生態学 植物学 動物学など
13	農学類	農作物学 牧畜学 林学など
14	天文学類	天体物理 天体測量など
15	教育学類	基礎教育 高等教育など

以上のような分類に基づき、筆者は語のデーターを統計した。では、さまざまな学科において、どのような造語要素の創出力が大きいのか。これらについて、どのような新語を形成したか。この問題を解決するため、新語の漢字使用頻度を統計した。統計対象は前から 5000 個の新語で、そのうち、農学類の語彙数は 7 語、教育学類の語彙数は 9 語、天文学類語彙数は 34 語である。それ以外の学科の検索量はすべて 100 語以上に至った。具体的な統計結果は以下のとおりである。

番号	学科名称	語彙数	漢字数	重複しない漢字数	字頻 1	字頻 2	字頻 3
1	哲学類	182	639	224	圣 32	教 21	主 18
2	政治法律類	253	943	328	权 33	法 29	议 28
3	経済類	123	448	215	金 14	业 8	单 7
4	文学類	110	392	164	音 29	字 24	号 12
5	数学類	117	331	130	数 22	体 14	十 13
6	物理学類	247	738	271	电 54	光 18	路 16
7	化学類	111	357	188	化 23	酸 11	气 9
8	機械類	275	952	316	轮 36	机 36	汽 33
9	医学類	423	1404	491	药 44	症 31	炎 28
10	軍事学類	274	898	329	队 54	军 31	炮 26
11	地理学類	108	369	187	石 29	金 17	度 9
12	生物学類	270	915	360	科 75	类 51	虫 25

13	天文学類	34	114	62	年 7	日 7	星 5
----	------	----	-----	----	-----	-----	-----

この表ので、「語彙数」は当該分類に検索した語彙の総数であり、「漢字数」は全ての漢字の数量である。これには重複した漢字も含める。「重複しない漢字数」は重複しない漢字数だけを統計した。また、「字頻 1」は当該分類の使用頻度が最も高い漢字であり、「字頻 2」と「字頻 3」は頻度が上から二番目と三番目の漢字である。漢字の後ろの数字がこの漢字の使用回数である。

統計データによると、医学類の語彙が最も多く、423 語に達した。そのほか、検索量が 200 語を超えた学科は以下のとおりである。政治法律類、物理学類、機械類、軍事類、生物類。つまり、この辞書では、自然学科の新語が人文学科の新語より数が多い。頻度順に並べる表を分析すると、新語の構造が変わったことが分かった。例えば、「法、金、路、化、症、炎、科、類」などの現代中国語の造語要素が出現している。政治法律類の「法」は「民法、商法、刑法、诸等法、法院编制法、随时宪法、国际公法、文官惩戒法、选举法、亲族法、司法」などの新語があり、この大部分は現代中国語でも使われていて、「法」も造語要素として新語を作っている。これに対して、機械類の「仓」では「电仓、力仓、机械仓」などの新語が作られたが、その後現代中国語から姿を消してしまった。では、次にこのような造語要素が 20 世紀の初めからどのように造語機能を発揮したのを詳しく見てみよう。

第二節 生物学専門用語と造語法

1、『官話』（1916）における生物学専門用語について

第一節には学問分野により新語における漢字の使用頻度を調べた。調査により、『官話』（1916）が出版される際に造語要素はすでに新語の創製過程に役割を果たしたことが分かった。当時の頻度が高い漢字は強い造語

力と生命力を持ち今でも現代中国語の造語要素として使われている。これに対して、当時の一部分の造語要素は一時的にその役割を演じたが、結局新旧語彙交代の過程に消滅されてしまった。第一章ではこのような造語要素を現存語と廃語に分けて討論したが、本節ではこれらを学術分野の角度で分析する。この持続や消滅には分析できる理由があるだろうか。また、その理由は学術分野と関係があるのだろうか。筆者は本節で生物学新語を例として、中国語における造語要素の特徴と発展状況を考察する。

二つや二つ以上の音節を組み合わせた語彙を創出する際、必ず類推機能が働き、その機能には生産力がある造語要素と造語法が含まれている。本文は造語要素を研究対象とし、生産力がある語素の形成や発展状況に注目し、『官話』が出版された1916年以前においてすでに出版されていた *an English and Chinese standard Dictionary* (英華大辞典)

(1908) や現代英漢辞典を参照することで、当時の新語の発展状況を解明したい。

生物類新語においては「科」で組み合わせた新語が最も多く、75語ある。これは生物類においてのみならず、新語データにおいても頻度が一番高い「字」である。では、「科」で組み合わせた新語は『官話』(1916) が出版される以前ではどのように訳されていたのか、現代中国語ではどのように訳しているのか。この問題を解決するため、筆者は「一科」の翻訳状況を調べ、その統計結果を付録の表四で表した。考察内容は英語原文や『官話』(1916) の中国語訳語、『英華大辞典』(1908) の訳語、現代中国語訳語などである。『官話』(1916) にはめったに使わない英語原文が大量に収録されたため、現代の中国語訳については、収録されていない場合が多々ある。その場合、「X」で表記する。

統計データによる生物類新語の発展状況は以下のようなものである。

英語原文	1916	1908	現代中国語
acanthopterygii	棘鰭科	棘鰭属	新鰭亚纲
bignoniaceae	紫葳科	紫葳花族	紫葳科
bimana	人亚科	双手兽类 人类	二手目
perching bird	栖树鸟科	栖树之鸟	栖木鸟类

統計結果により、『官話』が出版された 1916 年以前は、生物学分類学の専門用語は「属」、「类」、「族」である。そのほか、分類範疇を提示しない状況もある。例えば、「栖树之鸟」や「圆鳞鱼」などの用例である。一方、現代中国語に比べると、『官話』は「科」の使用範囲が大きく、現代中国語の「科」や「纲」、「目」、「类」などと重なっている。

現代中国語の生物専門用語においては、「界、門、綱、目、科、属、種」の順番で英語の新語を対訳するのが一般的である。『生薬学』68)では「中文：科 英文：**family** 拉丁文：**familia** 学名词尾形式：**-aceae**（中国語：科 英語：**family** ラテン語：**familia** 接尾辞形式：**-aceae**）」というような対応関係を示している。つまり、現代中国語の生物分類用語の翻訳や創出過程においては、統一的な造語要素を使っているのである。例えば、上述の調査データにより、現代中国語の造語要素「科」と英語原文の接尾辞「**-aceae**」は完全な対応関係を持っているということがわかる。現代中国語の生物分類造語要素と英語の生物分類接尾辞は互いに安定かつ唯一の対訳関係があるのである。

もし、『官話』における造語要素「科」が 19 世紀末、20 世紀初頭に英語の生物学書籍を翻訳する過程において形成されたと推測するなら

⁶⁸⁾ 崔征 『生薬学』（北京市：中国医药科技出版社、1996 年）の P57 を参照。

ば、その新語と英語は何か対応関係があるはずである。しかし、『官話』の造語要素「科」と英語の接尾辞とは関係がなく、状況は錯綜していた。当時の「科」は英語の大部分の生物新語を翻訳できたのである。つまり、『官話』が出版した1916年、「科」は造語要素として新語を創出したが、英語の接尾辞とは体系的な対応関係のない汎用状態になっていたと考えられる。中国語の新語が受けた外来からの影響はすべて英語によって与えられた、あるいは、英語によって直接与えられたものであるということとはできないであろう。

2、日本語における「一科」類生物学用語について

19世紀末から20世紀初頭にわたって、大量の西洋書籍が東方に伝わり、日中両国で西洋書籍を翻訳、紹介し始める。これに従い、いろいろな西洋学問に関する新語が創出された。日中両国ともに「漢字」を使って新語を作る上で、近代においてお互い頻繁に語彙交流の史実を持っていることから、新興造語要素の形成過程を研究する際には、日本語の影響を軽視することはできない。そこで本章は日本語の造語要素「科」について考察したい。

『日本国語大辞典』では「科」について、次のような解説がある。

生物の分類学上の用語。上級分類階級の最も下位のもので目（もく）と属（ぞく）の間にある。マメ科やネコ科のように、同じ科に含まれる生物相互間に多くの共通性がある。上級分類群の単位の中では最も広く用いられる。

つまり、現代日本語の「科」は中国語と同じく、生物分類学の専門用語として用いられている。『日本国語大辞典』の「凡例」部分には「用

例を採用する文献は、上代から現代まで各時代にわたるが、選択の基準は、(イ) その語、または語釈をわけた場合は、その意味、用法について、最も古いと思われるもの。」と説明されている。「科」の早期用例として、本辞典は「植物小学〔1881〕〈松村任三訳〉九「芥、薺、蘿蔔等は花果の機構之と同一ならざれども大に相似たるを以て同目〈一に科と謂ふ〉とし而して外長幹の草木を合括して一綱とし」」を挙げている。

そして、1875年出版の田中芳男役纂の『動物学初篇哺乳類』では動物学分類階級の訳語が提出され、「科」が class の訳語として初めて用いられた。田中芳男は序言に「訳字の如きは漢訳素より少なく且つ遇アリト言えども穩当ならざるは取るなし故に今新に訳字を製せざるを得ず杜撰臆想の罪遁れ難しと言えども、新字を埋めざれば解を為し難くやむを得ざるに出ればなり。」と記しているため、本書は新しい訳字を使用しているということが分かる。

『植物小学』と『動物学初篇哺乳類』の出版年は『官話』(1916)の出版年より早く、その中の用例も現代日本語や中国語と一致する。つまり、1880年代までには、日本語においてすでに生物学訳語用新興造語要素が形成されていたとすることができる。両言語における「一科」訳語の形成時期により、現代中国語の生物学用語が「西洋」と「日本」二つの影響を受けて成立したということが考えられる。これらが英語書籍の翻訳を通じて形成されたものであったとしても、その過程で日本語の訳語や造語語素をそのままの形で使用したと考えられる。そして、20世紀から日本書籍が多く中国に伝たわり、この新興造語要素も中国語に取り込まれ、中国語の生物学用語の創出に影響を与えた。以上のことから、中国語の生物学新語は日中言語接触のもと、両国の語彙交流や受容のプロセスにおいて形成されたものだと考えられる。この

受容の結果として学術の制度化も進んだ。

3、結語

本文は『官話』に収録されている生物学新語についての造語要素の形成状況を考察した。英中両言語間の接尾辞には対応関係がないことが分かった。その上で、日本の生物学訳語の変遷を参照して、日本語の早期用例が中国語の用例より早いことがわかった。これにより、現代中国語の生物学用語の成立が「欧化」現象ではなく、「西洋」と「日本」二つの影響を受けて成立したということが分かった。また、当時の言語接触により発生した現象は単なる語彙の借用、文法の受容だけでなく、語彙構造の面においても多かれ少なかれ影響があったと考えられる。

今後は『官話』における生物学以外の自然学科の新語についても考察し、生物学新語と同じ形成状況があるかどうかを解明したい。

第三節 言語学専門用語と造語法

生物学などの自然科学と異なり、人文科学専門用語を受け入れる過程では、もっと複雑な状況に直面していた。人文科学には中国伝統学問と関連性がある概念がすでに存在していたため、翻訳の際に完全な新語を創出するか、既存用語に新しい意味を与えるかによって、学術分野によって、異なる傾向が表されている。本章では言語学を中心に人文科学専門用語の創出とそれにより与えられた現代中国語造語法への影響を検討する。

西洋言語学概念が伝来する以前、中国にはすでに「小学」⁶⁹という伝統的な言語学問があり、文字学、音韻学、訓詁学などを含んでいた。その後、

⁶⁹ 字学とも称する。

新しい言語理論と方法が入る時に、どのような表現で新理論を反映するかに関して、学者たちはそれぞれ異なる方法を選択した。

馬建忠『馬氏文通』(1898)は古い「容器」に新しい「もの」を入れる方法を用い、「虚字」、「実字」などのような伝統的な用語を使った。これに対して、章士釗『中等国文典』(1907)は殆どの言語専門用語を新しく翻訳し、伝統の言語学用語とはっきり区別していた。例えば、「詞」という用語で現代言語学の「parts of speech」の概念を表していた。『馬氏文通』が出版してから18年、『中等国文典』が出版してから9年を経て出版された『官話』には一体どのような用語を選び、現代中国語に比べて、どのような特徴が示されたか。ここに『官話』に収録された言語学専門用語をピックアップし、付録の表五のようにまとめた。考察内容は英語原文、新語や部定語の訳語、非新語非部定語の訳語、ページ数、現代中国語の訳語である。

どのような「語素」がよく使われ、当時の「造語要素」として活発化したか。また、どの「造語要素」が既存の語素であり、どれが新しい語素であるか。当時の中外辞書にはどの種類の語素を使う傾向があるか。そしてそれらを利用する理由については何があるかについて考察したい。

1、新概念に対する新造語要素「格」、「式」、「類」の形成について

まず、完全な新しい概念に対しては、新しい造語要素を使って新語を作る傾向がある。以下はこの種類の語を「格」、「式」、「類」例としてまとめた。

格

ablative 夺格（离格）

accusative 第四变格（宾格）

dative 与格（与格）

nominalive 主格（主格）
objective case 目的格（宾格）
possessive case 物主格（所有格）
imperfect figure 不完全格（变格）
式
future 将来式（将来时）
future perfect 将来即事时（将来完成时）
participle 两用式（分词）
past 过去式（过去时）
perfect 既事式（完成时）
pluperfect 过去既事式（过去完成时）
present 现在式（现在时）
类
classifier 分类言（量词）
masculine 公生类（阳性词）
future 后时类（将来时）
past 先时类（过去时）
present 今时类（现在时）

上記の概念は中国伝統言語学では存在しなかった。これらは時制⁷⁰と言う概念が中国語には存在しないからである。西洋諸言語によく見られる形態変化についての語法範疇には「性、數、格、時、體、態（語態）」などがあるが、これは中国語に入ったときに新しい造語要素を使って表現する傾向があることがわかった。また、括弧内の現代中国語訳と比較してみると、当時の新しい造語要素が現存語でなくても、そのほかの造語要素への変化も体系的であることがわかった。

⁷⁰発話の中で規定される言語学的な時間を示す文法範疇である

2. 伝統と現代の衝突——「字」、「詞」、「語」の形成について

「字」、「詞」、「語」は現代中国語において異なる語彙単位として使われているが、この形成過程にも意味の衝突と併用が存在する。海曉芳の博士論文に「汉语的语法分析经历了一个“字（character/word）词（parts of speech/grammatical categories）到“字”（character），词（word/parts of speech）语（grammatical categories）的转变」⁷¹という結論が出されている。しかし、『官話』が出版された 1916 年において、このような転換はすでに辞書に反映されたか、あるいは、立ち後れていたかどうかを解明するため、以下「字」、「詞」、「語」類語彙を整理した。

字

adjective 势字（形容词）

adjective 形容字（形容词）

adjective 静字（形容词）

adjective 指实字（形容词）

adverb 疏状字（副词）

adverb 状字（副词）

adverb 随从字（副词）

adverb 势字（副词）

article 指件字（冠词）

definite article 有定指件字（定冠词）

indefinite article 不定指件字（不定冠词）

⁷¹海曉芳 文法草創期中国人的汉语研究 关西大学文学研究科博士論文（2012 年 3 月）を参照。また、この論文ではこの転換過程が 20 世紀初頭にすでに完成したと指摘されている。

auxiliar verb 助动字（助动词）
classifier 分品字（量词）
classifier 指件字（量词）
conjunction 契合字（连词）
conjunction 连合字（连词）
definitive 限定字（限定词）
demonstrative 指示代名字（指示词）
homonym 同音异义字（同音异义词）
interjection 间投字（感叹词）
possessive pronoun 作主代字（物主代词）
preposition 介绍字（前置词）
preposition 先名字（前置词）
pronoun 称代字（代名词）
substantive 名物字（名词性实词）
verb 活字（动词）
verb 动字（动词）
active verb 灵活动字（主动动词）
active verb 力行动字（主动动词）
attribute 区别字（定语）
passive verb or voice（受活动字）被动语态动词形式
prefix 前置字（前缀）
suffix 结尾字（后缀）

词

A

definitive 定限词（限定词）
demonstrative 指示代名词（指示词）

intransitive 自动词（不及物动词）

Intransitive 不贯动词（不及物动词）

abstract noun 虚总名词（抽象名词）

participle 中语词（分词）

pronoun 代名词（代名词）

proper noun 定名词（专有名词）

substantive 实名词（名词性誓词）

technical terms 专门名词（术语；专门名词，技术名词）

terminology 名词（辞）（术语，专有名词）

finite verb 有限动词（限定动词）

impersonal verb 无位动词（非人称动词）

intransitive verb 内动词（不及物动词）

B

accusative 止词（宾格）

conventional term 互认名词（常见术语）

indefinite term 不定名词（不定术语）

term 名词（辞）（术语，专用名词）

modern terms 新名词（现代术语）

universal term 一义名词（通用术语）

abstract term 抽象名词（抽象术语）

terminology of physiological botany 植物生理名词（植物生理学术语）

语

esperanto 万国统一语（世界语）

esperanto 世界语（世界语）

incorporating language 抱合语（复综语）

technical terms 术语（术语；专门名词，技术名词）

descriptive terminology 叙写学語（描述性術語）

agglutinating language 添着語（黏着語）

syncategorematic term 帶用語（助範疇詞短語）

categorematic term 獨用語（範疇性術語）

military term 軍語（軍語，軍事術語）

cross-reference 對注語（交叉引用）

cross-reference 互指語（交叉引用）

以上の例語をまとめて見ると、「字」が「品詞分類の意味」の「詞」として用いられ、「詞」は二つの意味を持っている。一つは句の一部分を占める単位、もう一つが品詞分類の詞である。「詞」と「語」、すなわち英語の「term」との区別ははっきりしてない。「語」は「term」と「language」二つの意味を持ち、現在の「語」とほぼ同じ意味である。

つまり、術語は術語で表現する概念より定着が遅れ、古い意味と新しい意味が同時に存在し、その後、分裂や合併によって、より安定した状態になっていったのである。

3、伝統を守る——「音」と「読」の形成について

次は伝統的な術語で新しい概念を表した状況について述べる。まず、「音」と「読」を以下のようにまとめた。

音

aspirate 出気音（送気音）

aspirate 有口气的音（送気音）

aspirate 帶口气的音（送気音）

stress 重音（重音）

syllable 并音（音节）

syllable 綴音（音节）

读

independent clause 余读（独立分句）

infinitive clause 扣目读（不定时从句）

subject clause 纲读（主语从句）

predicate clause 目读（短语）

subjunctive clause 枢读（虚拟语气）

instrumental clause 用目读

上記の「音」は「音声」の意味として使っていたものは現在でも「音」で訳している。しかし、中国語伝統の音声概念と一致してない「音節」単位について、当時これを「音声」とはっきり区別しておらず、同じく訳する傾向があったが、現在はこれらは分けて使用される。完全に一致する場合のみ用途が保留され、言語認識が深化することによって、徐々に淘汰されてしまったのである。

4、結語

現代中国語の「欧化」問題については、近年研究のホットスポットとなっている。これが現代中国語が英語文献を翻訳する過程に成立されたという観点を持っている学者も少なくない。

しかし、筆者の統計により、多くの造語成分の英語と中国語の間には対応関係がなかったことがわかった。第二節にはこれと日本語の関係についても述べたが、本節では中国語自身の原因を追究した。言語学専門用語から見れば、伝統語学術語の再利用がその新しい造語要素の成立にも影響を与えた。また、文系分野の学科意識は理系より強いため、訳語の体系性、

即ち英語との対訳性も理系よりも備えられていた。

第三章 品詞の文法的な機能と造語法

第一節 区別詞の位置付け

本章では区別詞を例として、造語法と品詞の文法的な機能について述べる。

区別詞⁷²とは、物事の属性を表し、分類の機能を持つ品詞である。1961年、朱德熙はすでに「区別詞」という概念を提示し⁷³、区別詞は名詞や助動詞「的」の前にしか置けない膠着詞であると説明した。この特別な品詞に注目していた中国語学者はこれまで何人もいるが、区別詞の文法的性質については完全に一致する見解を持っていない。しかし、学者の意見をまとめて見ると、区別詞は大体以下のような文法的性質を有する。①直接名詞を修飾する：大半は助詞「的」と組み合わせて「的字短語」になることができる。②述語や主語、賓語にならない。組み合わせた「的字短語」は主語、賓語になれる。③否定副詞「不」の修飾を受けず、「非」の修飾を受ける。④膠着詞で、単独で一つの文になれない。

区別詞の品詞分類については、大体二つの意見がある。一つは区別詞を形容詞の下位品詞に置く意見。呂叔湘は『試論非謂形容詞』においてこの意見を主張し、「非謂形容詞」と名付けた。もう一つは区別詞を形容詞から分離し、単独の品詞として見る意見。朱德熙はこの品詞を「区別詞」と呼び⁷⁴、繆小放は呂叔湘が1965年に提出した「属性詞」の言い方を踏襲し、加えて自分の考えも述べた。⁷⁵

⁷² 属性詞、非謂形容詞とも言える。以後の論述の便宜のために、本稿は区別詞と呼ぶ。

⁷³ 朱德熙の『語法講義』は1982年に出版された。しかし、この書の序言の部分では「この本の底本は筆者が1961年から1962年まで北京大学で行った現代中国語文法（二）の講義のプリントである。」としている。

⁷⁴ 『語法講義』、朱德熙、1982、商務印書館、P52を参照。

⁷⁵ 『說屬性詞兼說與其他詞類的區別』、繆小放、1988を参照

区別詞の品詞分類は時代と共に変化した。呂叔湘が述べたように「这样的词不仅是大量存在，而且是不断产生的，其增值率仅次于名词，让它们单独成为一个类也还是值得的。」（このような品詞——区別詞を指す——は大量に存在しているだけでなく、次々と創出されていており、その増加率は名詞に次いでいる。従って、区別詞は一つの品詞とするに値する。——筆者訳）⁷⁶。つまり、本来区別詞の量は多くなく、一時的に既存品詞のどれかに入れても良かったが、ある時期に急に大量の区別詞が創造され、増加率も高くなったので、新しい品詞を作らなければならなくなったのである。

区別詞が大量に創出された時期について、呂叔湘は 1920 年代前後と指摘した。⁷⁷元々、区別詞は数量が少なく、主に単音節語であった。しかし、この時期急に数量が増え、これらの新語は主に双音節語であった。また、増加率も著しく高かった。この現象が表す原因についての研究は今まで極めて少ない。筆者の知る限り、『現代漢語欧化語法現象研究』ではこの問題について短い論述があり、以下のように記している。中国語の区別詞が五四運動以降速やかに発展したことは印欧語の影響、特に英語の影響を受けた結果であり、英語の比較級や最上級の形式がない形容詞の翻訳を通じて、中国に伝わった。⁷⁸

「中国語の欧化」という角度から見れば、中国語に於いて区別詞は確かに外来からの影響を大きく受けて発展した品詞である。しかし、この外来からの影響はすべて英語より与えられた、あるいは、英語が直接に与えたものであると言うことはできないであろう。19 世紀末から 20 世紀初頭にわたって、大量の西洋書籍が東方に伝わり、日中両国では西洋書籍が翻訳、

⁷⁶ 『試論非謂形容詞』、呂叔湘、1965 を参照。

⁷⁷ 呂叔湘は 1965 年に書いた『試論非謂形容詞』で区別詞の創出年代にはついて「十之八九都是最近三五十年里才出現的」（殆どここ 30—50 年のうちに作られたものである。）と主張した。従って、上の結論を下した。

⁷⁸ 『現代漢語欧化語法現象研究』、賀陽、2008、商務印書館、P91 を参照。

紹介され始める。これに従い、いろいろな西洋学問に関わる新語が創出され始めた。日中両国ともに「漢字」を使って新語を作る上、近代において互いに頻繁な語彙交流の史実を持っていることから、我々は新興区別詞の形成過程を研究する際、日本語の影響を軽視することはできない。

筆者は日中言語接触の視点から、『試論非謂形容詞』（1965）に提示された区別詞を研究対象にした。中国語の区別詞をまず静態で安定したグループとしてとり、造語法の立場で区別詞を分類した上で、20世紀初頭において日中両国における創出や発展状況を分析し、日本語が中国語の区別詞へ与えた影響を述べたい。

第二節 区別詞の分類

呂叔湘の『試論非謂形容詞』では476個の区別詞が挙げられている。構造により名詞性成分を基礎としたもの、動詞性成分を基礎としたもの、形容詞成分を基礎としたもの、二つの成分を組み合わせたもの、その他の五種類に分けた。

前述のように、区別詞は五四運動以降急速に発展し、高い増加率を持っていた。この時期に大量に創造された原因を見つけるためには、造語法の視点から新しく分類しなければならない。従って、今回はこの476個の区別詞を造語方式にさらに分類した。

2.1 単純語

「単純語」とは一つの語素で構成された語であり、大半は単音節語である。例えば、男、女、金、銀などである。呂叔湘の文章では、37個の単純性区別詞を挙げ、これは全体の7.77%を占めている。この種類の区別詞は数が少なく、そのうえ、古代から伝わった語であるので、今回の研究対象ではない。

2.2 合成語

「合成語」とは二つや二つ以上の語素により構成された語である。一般的には、合成語はさらに三つの種類に分けることができる。すなわち、複合式、付加式と重複式である。しかし、造語法から見ると、20 世紀初頭に於いて創製された新語の大半が造語要素を使って作られたものである。従って、新興区別詞の創造状況を把握するために、今回は合成語を接辞式と複合式に分ける。

筆者の統計によると、『試論非謂形容詞』において接辞区別詞は 174 個あり、全体の 36.55%を占めている。複合区別詞は 256 個あり、全体の 55.67%を占めている。接辞区別詞を造語要素によって分け、統計すると、以下の表一の通り示すことができる。

表 1：『試論非謂形容詞』の接辞区別詞

造語要素	数量	造語要素	数量	造語要素	数量
——式	16	——型	10	——性	20
——色	17	——等	16	——級	13
——号	6	单——	5	双——	3
多——	4	——生	6	後——	3
特——	4	半——	2	有——	11
無——	17	不——	9	非——	12

ここで説明しておきたいのは、接辞や類接辞の定義について、未だ学術界の一致している意見がないということである。「類接辞」とは、一定の意味を持っており、殆ど意味を失っている接辞である。しかし、どのくらいの意味を持っているのかを判断基準とすると曖昧すぎる。従って、上に挙げた接辞はすべて大半の学者が接辞や類接辞と認識したものである。広い意味で言えば、接辞式区別詞は上の数より遥かに多いようである。

第三節 中国語の接辞式区別詞の創製と日本語

本章では中国語の接辞式区別詞の創製を中心として研究したい。研究方法としては、日中同形の区別詞の初期用例を対照し、19世紀末から20世紀初頭までの英華辞典の区別詞に対訳された英語の解釈も考察した。紙幅が限られているので、今回は「一性」、「一等」を例として論述したい。

本章の中国語用例はすべて『漢語大詞典』から出典し、『漢語大詞典』に収録されていない場合、あるいは用例がない場合、『近現代辞源』を参照した。日本語の用例はすべて『日本国語大辞典』から選んだ。英華辞典は中国で出版された『English and Chinese Dictionary』（1847）（以下「メドハースト」と略称）、『英華大辞典』（1908）と『官話』（1916）を用いた。

続いて、上述された辞書を選ぶ理由を述べたい。まず、採用された用例が信頼できることを確保するために、中国語部分は『漢語大詞典』を選んだ。この辞典は「大規模で歴史的な中国語辞典」であり、収録された語彙は37万語である。『近現代辞源』は語源考査を目的として、多くの早期用例や最も古い用例を収録している。日本語部分は『日本国語大辞典』を参考した。この辞書の「凡例」部分には「用例を採用する文献は、上代から現代まで各時代にわたるが、選択の基準は、（イ）その語、または語釈をわけた場合は、その意味、用法について、最も古いと思われるもの。」と説明している。英華辞典の場合、まず、来華宣教師において最も名高く、多くの書物を著したメドハーストが編集した『English and Chinese Dictionary』（1847）を選んだ。この中には大量の宣教師によって創造された新語があった。『英華大辞典』（1908）が出版された20世紀最初の十年は各種の言語が接触し、相互影響していた時期であり、宣教師訳語と日本からの借用語が互いに競う時期であったと言える。『官話』（1916）には日本語からの借用語が大量に採用されており、この辞典を通じて、同時期の中国語が日本語からどのような新語を受容したのか明らかにすることができた。

1、「一性」区別詞

『試論非謂形容詞』において接尾辞「性」で作られた区別詞は 20 個あり、そのうち、日中同形語は 13 個がある。表 2 にはそれに関わる用例や訳語を表した。

表 2：

1 真性	近：1936 年《医学百科大全》 第一編：以芥子泥涂其咽喉前方之皮肤，至试验真性、假性及白喉。	日：1899 年風俗画報 - 二〇一号衛生門：大阪、横浜、岡山、和歌山等の各地に伝播し、真性又は疑似の患者続発せしに因り
	未収録	
2 假性	未収録	用例なし
	官话：pseudo-cataplexy 假性强硬症（新）	
3 良性	未収録	日：1969 年雪の涯の風葬：〈高井有一〉医師は良性のポリープだから手術の必要はなく、内科的処置だけで完治すると告げたが
	官话：benign (med) 順	
4 恶性	近：1918 年覚迷《西药指南》 上卷：其症候先为恶性肿瘤，次发全身之恶液质。	日：1849 年病学通論三：各性の病、善性、頑性、悪性
	英华：（医）恶毒的，险毒的，致死的 a malignant disease 毒病 官话：（of disease），凶险，凶，癘	
5 急性	近：1918 年覚迷《西药指南》 上卷：慢性胃炎症状与急性胃炎相类，惟精神较急性症尤为衰弱。	日：1862 年七新薬三：又急性の腹水腫・及び胸膜間漿液滲出の症に用ひて効あり
	英华：（医）危急； an acute disease 暴病 官话：（med）急； an acute disease 急病	
6 慢性	近：1918 年《王国维致罗振玉	日：1862 年七新薬一：風湿毒性間接衝及び

	手札》：此次却又不甚灵，殆成慢性肠胃病，间时须一发矣。	其慢性の者に人多く称用す
	メドハースト：a chronic disease 久病，疾 英华：a chronic disease 老病，旧病，痼疾 官话：a chronic disease 久病，疾病，老病，痼疾，沉痾	
7 阴性	近：1919 年汤尔和译<日>下平用彩著《诊断学》下卷：而其试验每为阴性。	日：1777 年多賀墨郷君にこたふる書：虚の体よく天を成し、実の体よく地を成し、然ふして其陰性、無際涯より内に収めて地を結び
	英华：negative（化）阴的，类金属的 官话：negative aerotropism 背气性（新） negative chemotropism 背化性（新） negative hehotaxis 逃日性（新） negative phototaxis 逃光性（新）	
8 阳性	近：1919 年汤尔和译<日>下平用彩著《诊断学》下卷：但乳汁混入吐物时，常为阳性	日：稿本化学語彙〔1900〕〈桜井錠二・高松豊吉〉「Electropositive. Elektropositiv. 陽性の」
	英华：positive（化）正的，阴的，积极的 官话：positive aerotaxis 趋气性（新） positive aerotropism 向气性（新）	
9 中性	1902 年《化学实用分析术》：使水酸化钠成为中性而止。	日：舍密開宗〔1837～47〕内・四・七六「又云剥篤亜斯の酸液に飽くは五十五を中度とす蓋し亜斯。百分は酸液五十五分に飽て中性を得るの謂なり」
	英华：neutral（植）无雄蕊亦无雌蕊的，中性的 neutral salt 中性盐 官话：neutral（chem）中立性，中性（新） neutral reaction 中性反应	
10 感性	毛泽东《实践论》：这叫做认识的感性阶段……	日：哲学字彙〔1881〕「Sensibility 感性」
	英华：Sensibility 感性，感觉性 官话：Sensibility 觉度，感性（新），感觉性（新）	
11 一般性	未収録	日：善の研究〔1911〕〈西田幾多郎〉二・一「或人は思惟の一般性、必然性を以て真

		実在を知る標準とすれど
	未収録	
12 硬性	1922 年胡适《这一周》三四： 学制从硬性的变成有弹性的， 固是一大解放。	日：1898 年如是放語（内田魯庵）：硬性の 者は墜落して陰詐となり暴戾となり薄志の 者は喪魂して厭世となり淫蕩となり
	未収録	

日中両言語における区別詞「一性」の早期用例を調査したところ、次のことが明らかになった。日本語においては、用例は 19 世紀半ばに集中し、医学関係の専門用語が多いことがわかった。例えば、「悪性」の出典は『病学通論』であり、『病学通論』はオランダの医学書籍から翻訳されたものであった。そして、『日本国語大辞典』には「悪性」の語源について次のように述べられている「当初は、アクショウの従来の意味が強すぎたためか、既に「良性」という語も見られる「遠西医方名物考」でも「内臓の壅塞を疏解し血液の悪質を浄除し」のように、「悪性」ではなく「悪質」が使われている。しかし、「…性（せい）」が訳語の造語要素としてよく使われていたことによる影響などから、挙例のように「病学通論」には「善性」「頑性」などとともに「悪性」の語が見え、その後一般に用いられるようになり今日に及ぶ。」

このことから、『病学通論』が出版された 1849 年には、「性」がすでに日本語の訳語用造語要素になっていたとわかる。それに対して、中国語の早期用例を見ると、時間的には日本語より遅く、そして、医学用語として用いられた例も多い。特に、「陽性」「陰性」の早期用例は直接日本の医学書籍の訳書から出典されている。英華辞典を見ると、まず、19 世紀半ばの英華辞典は医学に関わる新興区別詞が殆ど収録されていない。「malignant」が初めて中国語の「毒」に訳された。例えば、『英華』では「a malignant disease」が「毒病」に訳された。また、この三つの英華辞典に於いて「陰性」「陽性」や「中性」の訳語は徐々に変化し、「一性」の形に定着していたこと

が分かった。特に、「官話」では、上述の区別詞「一性」が「新」であるとの標記があった。つまり、19世紀の初めから、これらの日本語が中国語に入り、さらには、中国語の日常口語になっていたのである。

2、「等」区別詞

『試論非謂形容詞』において接尾辞「等」で作られた区別詞は16個あり、そのうち、日中同形語は9個ある。表3にはそれに関わる用例や訳語を表した。

表3

1 上等	《古今小说》：本行侯家，上等馒头点心。	日：読本・英草紙〔1749〕四・六「人に物を惜まざれども、我上等（〈注〉ナカデヨキ）の衣服首飾、常に債（おひめ）の家に当て遣りて」
	メドハースト：superior 在上 居上 英华：superior 较高的，上部的 superior goods 上等货 官话：superior 优级的，优等的	
2 中等	区別詞としての意味が未収録	民法（明治二九年）〔1896〕四〇一条「債務者は中等の品質を有する物を給付することを要す」
	メドハースト：Secondary 殿 英华：secondary 劣的，二等的 官话：secondary 第二，次，从，续，副，次等	
3 下等	《二十年目睹之怪现状》第一回：那下等的，也有那些逐臭之夫……	物小学〔1881〕（松村任三訳）九「植物界分れて二段となる。而して其高等なるものは諸種の有花植物にして、下等なるものは無花植物とす

	<p>メドハースト：Inferior 亚 次 下</p> <p>英华：inferior 下等的，次等的，劣的</p> <p>官话：inferior 下等，下品，劣</p>	
4 一等	茅盾《子夜》：苏伦也算是半个“理论家”，口才是一等。	日：西洋道中膝栗毛〔1870～76〕〈仮名垣魯文〉九・序〈倭屋琴語〉「今此道の一等（イットウ）と称せらる。
	<p>メドハースト：the first rank 第一品 正一品</p> <p>英华：the first rank or class 一品，超等</p> <p>官话：first class 头等，上等</p>	
5 特等	未収録	日：東京大正博覧会出品之精華〔1914〕〈古林亀治郎〉五・薩摩珊瑚「特等若くは一等品を直ちに、加工原料として使用するを以て、其品質の優秀なる言はずして知るべきなり」
	未収録	
6 优等	近：1899 年姚锡光《东瀛学校举概》：优等之人特自中央幼年学校入者……	新聞雑誌 - 二七号・明治五年〔1872〕正月「学力優等（イウトウ）の者并に是訳書にても右科目を学び」
	未収録	
7 劣等	梁启超《论民族竞争之大势》：其甚者以为……优等人斥逐劣等人而夺其利……	日：真善美日本人〔1891〕〈三宅雪嶺〉人種大勢論〈鈴木券太郎〉「抑々不平均なる人種間の混合に付ては、父方は必らず優等人種に属し、母方は必ず劣等人種に属するものなり」
	未収録	
8 高等	瞿秋白《文艺杂著续集》：他现	日：西国立志編〔1870～71〕〈中村

	在已经不是洋奴了，而是高等 华人了。	正直訳〉一一・一七「この者は、読書より 高等なる学習に由ざれば、その境地に達す ることを得べからず」
	メドハースト：High 高，尚，崇 英华：high 高的，崇的 官话：high 高 高等 higher primary school 高等小学校	
9 初等	鲁迅《热风·随感录二十五》： 却不知中国现在，正须父范学 堂，这位先生便须编入初等第 一年级。	日本教育策〔1874～75頃〕（森有礼 編）合衆国教育概略「初等普通小学及び次 等学校の教員となる者、官府の掌記となる もの」
	メドハースト：Primary 头里的，头等的 英华：primary school 初等学校，小学校 官话：primary school 初等小学校	

日中両言語における区別詞「一等」の早期用例を調査したところ、次のことが明らかになった。日本語においては、「一等」の用例は1870年代に集中し、ものの品質や教育の段階に関わる語彙が多い。中国語の「等」は新興造語要素ではなく、古代中国語では「等級、世代」の意味であった。しかし、現代中国語では、新しい意味を与えられ、「階段、程度」と関わる接尾辞になった。英華辞典の訳語を通じ、この「階段、程度」の意味を表す英語を訳した際、当初は古代中国語の「殿」や「品」などを用いたが、後に「等」に同一された。

上の二つの例がすべて同じというわけではないが、全体的に見れば、日本語の早期用例が中国語の用例より早いことがわかった。その他、英華辞典における英語訳語の発展過程を通じ、日本語の新興造語要素が中国語に入り、定着し、最終的に中国語の新興造語要素になったことが分かった。

第四節 おわりに

1850年代までに、日本語にはすでに訳語用新興造語要素が形成されていた。20世紀から日本書籍が多く中国に伝えられたことから、この新興造語要素も中国語に入り始め、中国語の新興区別詞の創出に影響を与えた。この区別詞が英語書籍の翻訳を通じて形成されたものであったとしても、この過程に日本語がそのままの形で使える訳語や造語語素を提供した。これらのことから、中国語の新興区別詞は日中言語接触のもと、両国の語彙交流や受容のプロセスにおいて形成されたと考えられる。

結び

序章の第一節では中国語と他の民族や国との言語接触の歴史を遡り、近代における直接言語接触と間接言語接触が中国語に大きな影響を与えたことを論じた。また、「日本語の影響」に基づいて、近代言語接触を三つの段階に分けた。すなわち、英中言語接触期、日中言語接触期、多元的言語接触による現代中国語形成期である。その後、中国語の近代化を定義し、中国語の造語法がその中に含まれていることを説明した。第二節では現在までの中国語造語法の研究現状を整理した。第三節では本論文の研究対象である『官話』（1916）の特徴や研究価値について説明した。ここでは、この辞書の参考資料の書物になるプロセスや、原本の所蔵状況、学者の評価などを述べた上で、新語の特徴や部定語審定過程についても考察した。この辞書が研究対象になる理由を時代背景と辞書特徴などから説明した。最後に、前述の通り、当該研究分野における先行研究及びその問題点を踏まえつつ、本論文の特徴と構成について述べた。

第一部では現代中国語における音訳語とその造語法を中心に研究を行った。まず、「はじめに」の部分において、「音訳」と「意識」の関係、「音訳」と「中国語造語法」の関係、二つの視点から「音訳語」が現代中国語

における重要な位置を占めていることを論じた。また、先行研究を踏まえて、本文の「音訳語」の定義を確定し、音訳語が誕生から統一になる過程を遡った。それにより、本論文の研究対象を定め、研究意義も述べた。

第一章では『官話』(1916)に収録された音訳固有名詞を研究対象とした。第一節ではこれを翻訳方法により「純音訳語」、「半音訳半意訳語」、「音訳＋範疇を表す形態素」という三つの種類に分類した。第二節は音訳語の音節数と造語法の関係について考察した。統計により、固有名詞音訳語の音節数量は基本的に2-4音節にまとまり、純音訳語が双音節、三音節、半音訳半意訳語が三音節、「音訳＋範疇を表す形態素」語が四音節にまとまったことがわかった。また、中国語と外国語における音節の対応関係から考察を行い、音節の対応関係から見れば、増加であろうと縮減であろうと、音訳語の音節は大体漢字2文字から漢字5文字までであり、双音節を基本語彙単位とする現代中国語に変化をもたらした。また、音訳語の語形は一旦定着したら関連性がない漢字の組合は分離しにくく、省略もしにくいため、そのまま現代中国語に残り、多音節語の数量を増やしてきたのである。続いて、音訳語の音声と方言の関係について考察を行った。音訳語の音声から見れば、南方音から北方音に、中古音から現代音に変わる傾向があることを証明した。さらに、『英華大辞典』(1908)の音訳語と英語原文を比較してみると、「有気音」と「無気音」を意識せずに漢字を選ぶ傾向があった。しかし、『官話』(1916)では英語原文の「有気音」と「無気音」を対応できるように改訳していた。第三節は翻訳用字と翻訳方法の変遷と音訳造語要素の形成について述べた。まず、音訳過程の本質はある表意言語の語素表記を純粋な表音表記として使用することである。そのため音訳の過程において基本意味が確実に変動がない漢字を意識的に避けたり、漢字と漢字の組み合わせにも二字を合わせて新しい意味が出てくることを避ける傾向があると指摘した。その上で音訳語用字になりやすい漢字

や、「形旁」の役割、漢字間の組み合わせなどについて音訳語用漢字の特徴を述べた。次は翻訳方式と造語法の関係について述べた。「米」を例として、多音節（双音節も含まれている）音訳語で一つの外来概念を表現し、その後、一つの漢字に省略して同じ概念を表し、最後に意味がある造語要素として新語を創出しする。その後、外国語原文と対応関係がなくなるという段階に入る過程を説明した。

第二章では音訳専門用語と造語法について研究を行った。まず、専門用語を学術分野ごとに「化学」、「物理学」、「地理学」、「生物学」、「医学」、「機械学」に分けた。同じ分野における音訳語語形が統一していたかどうか、そして翻訳方式が同じかどうかについて考察した。第二節では「林克 (link)」、「卡克 (cock)」、「瓦路 (valve)」を例として音訳語語形の統一性と造語要素の類推機能の発達について述べた。これらの音訳語が英語原文に依存する状況から離れ、自ら造語過程に参加し、類推機能を持つようになっていたことがわかった。しかし、語形の定着がその音訳語の類推機能を発達させ、さらに造語要素になれる必要かつ不十分な条件である結論を得られた。第三節は一つの前語とさまざまな翻訳語の対応関係を中心に、それぞれの翻訳語に潜めた造語法を究明した。

第三章では意識語が必ず音訳語に取って代わるかについて、取って代わる傾向と代らない部分について論述した

第二部では意識語と造語法の関係について述べた。

第一章のはじめには漢字使用頻度の調査により、当時の意識語に生産力が高い造語要素がすでに存在していたことを証明した。次に意識語を現存語と廃語に分け、現存語は「性」を例として英語原文、日本語訳語、官話（1916）の訳語の三者を対照し、意識現存語の造語要素の形成過程には英語、日本語両方の影響を受けたことを立証した。廃語は「質」、「精」、「素」を中心に、当辞典に収録された「質」、「精」、「素」類新語、部定語の他の

訳語や『英華大辞典』(1908)の訳語と対照して、それ以前の訳語は語彙ではなくフレーズで表しており、音訳の場合、「質」、「精」、「素」を利用して新語を作る傾向があることを述べた。また、「質」は「物、体、精、素、組」など多くの意味を持つため、徐々に「精」や「素」に分化する傾向も解明した。

第二章では学術用語を中心に、新語を再分類し、各分野における語数統計、語彙の長さの統計及び字頻統計を行った。また、自然科学、社会科学という順番で、それぞれの学問領域から一つの分野を選び、それらの用語について調査を行った。第一節では生物学専門用語、第二節では言語学専門用語について論述した。

第三章では品詞分類や品詞転換の角度から中国語の造語法を研究した。また、新興品詞である区別詞を中心とした語の当時の発展状況や、「性」、「等」などの区別詞性格を持つ接辞の形成状況について考察を加えた。英日中を対照し、区別詞が英語書籍の中国語翻訳を通じて形成されたものであったとしても、この過程に日本語はそのまま直接使える漢字を用いた訳語や造語語素を提供した。これらのことから、中国語の新興区別詞は日中言語接触のもと、両国の語彙交流や受容のプロセスにおいて形成されたという結論が出られた。

総括すると、第二部では意識語の造語法について、現存語と廃語の造語要素、理系専門用語と文系専門用語の造語法、文法的な機能と造語法など三つの角度からアプローチし、現代中国語形成期における意識語の造語法を解明した。

本論文では『官話』(1916)に記載されている訳語を中心対象として、以上の内容について考察を行った。音訳語と意識語二つの方面から当時の中国語造語法の発展状況、中国語の造語法と英語、日本語の関係を解明した。しかし、本論文はあくまでも一時期の静態的な分析であったので、今

後の課題として、他の時代に出版された辞書を研究対象として、動態的な分析を行い、中国語造語法の近代化における研究の深化を進めることが求められるであろう。

参考文献

著書

日本

- 国語の中に於ける漢語の研究 山田孝雄著 東京：宝文館 1940 年
- 近代日本語の成立 杉本つとむ 桜楓社 1960 年
- 論集日本語研究 15 現代語 土屋信一編 有精堂 1983 年
- 近世語彙の研究 佐藤亨 桜楓社 1983 年
- 幕末、明治初期語彙の研究 佐藤亨 桜楓社 1986 年
- 近代語の成立 〈語彙編〉(改訂版) 森岡健二 明治書院 1991 年
- 『新爾雅』とその語 沈国威 白帝社 1995 年
- 近代日本語の成立と発展 杉本つとむ 八坂書房 1996 年
- 近代日中学術用語の形成と伝播—地理学用語を中心に 荒川清秀 白帝社 1997 年
- 植学啓原と植物学の語彙——近代日中植物学用語の形成と交流(関西大学東西学術研究所資料集刊 21) 沈国威 関西大学出版部 2000 年
- 近代における東西言語文化接触の研究 内田慶市 関西大学出版部 2001 年
- 思想課題としてのアジア—基軸、連鎖、投企 山室信一 岩波書店 2001 年
- 和製漢語の形成とその展開 陳力衛 汲古書院 2001 年
- 日本語彙の近代——幕末維新时期新漢語の成立に見られる漢訳洋書の影響 孫建軍 国際基督教大学博士論文 2001 年
- 近代日中新語の創出と交流：人文科学と自然科学の専門語を中心に 朱京偉 白帝社 2003 年
- 近代漢語の研究—日本語の造語法、訳語法 高野繁男 明治書院 2005 年
- 近代日中語彙交流史—新漢語の生成と受容(改訂新版) 沈国威 笠間書院 2008 年
- 文化交渉学と言語接触—中国言語学における周辺からのアプローチ 内田慶市 関西大学出版部 2010 年

英華辞典の総合的研究—19 世紀を中心として 宮田和子 白帝社 2010 年

中国語における東西文化交流——近代翻訳語の創造と伝播 千葉謙悟
三省堂 2010 年

中国

盲人瞎马之新名词 彭文祖 东京秀光舍 1915 年

国语学草创 胡以鲁 商务印书馆 1923 年

中等国文典 章士钊 商务印书馆 1935 年

汉语词汇 孙常叙 吉林人民出版社 1956 年

瞿秋白文集（第二卷） 瞿秋白 人民文学出版社 1957 年

现代汉语外来词研究 高名凯 刘正琰 文字改革出版社 1958 年

五四以来汉语书面语言的变迁和发展 北京师范学院中文系汉语教研室编著
商务印书馆 1959 年

汉语口语语法 赵元任 商务印书馆 1979 年

汉语史稿 王力 中华书局 1980 年

语法讲义 朱德熙 商务印书馆 1982 年

马氏文通 马建忠 商务印书馆 1983 年

中国语法理论（《王力文集》第一卷）王力 山东教育出版社 1984 年

中国近代教育史教学参考资料（上册） 陈学恂主编 人民教育出版社
1986 年

中国近现代人名大辞典 李盛平编 中国国际广播出版社 1989 年

中文参考书指南 何多源编 上海书店出版社 1989 年

汉语语法史（《王力文集》第十一卷）王力 山东教育出版社 1990 年 8 月

汉语词汇史（《王力文集》第十一卷）王力 山东教育出版社 1990 年 3 月

吕叔湘文集（第二卷）吕叔湘 商务印书馆 1990 年

对比语言学概论 许余龙 上海外语教育出版社 1992 年

西学东渐与晚清社会 熊月之 上海人民出版社 1994 年

现代汉语词汇的形成——十九世纪汉语外来词研究 马西尼 汉语大词典
出版社 1997 年

方光焘语言学论文集 方光焘 商务印书馆 1997 年
 汉语外来词 史有为 商务印书馆 2000 年
 晚晴学部研究 关晓红 广东教育出版社 2000 年
 傅兰雅与近代中国的科学启蒙 王扬宗 科学出版社 2000 年
 现代汉语词汇学 葛本仪 山东人民出版社 2001 年
 汉语精讲 曹炜 北京大学出版社 2001 年
 新中国成立以来汉语词汇发展变化研究 郭伏良 河北大学出版社 2001 年
 汉语新词研究 杨华 黑龙江教育出版社 2001 年
 汉语的构词法研究 潘文国 叶步青 韩洋 华东师范大学出版社 2004 年
 现代汉语词汇研究 曹炜 北京大学出版社 2004 年
 新语探源—中西日文化互动与近代汉字术语生成 冯天瑜 中华书局 2005 年
 现代汉语史 刁晏斌 福建人民出版社 2006 年 1 月
 青岛开埠十七年《胶澳发展备忘录》全译 于新华主编 北京市中国档案出版社 2007 年
 汉语外来词研究 杨锡彭 上海人民出版社 2007 年
 中日文化交流史研究 王宝平主编 上海辞书出版社 2008 年
 观念史研究—中国现代重要政治术语的形成 金观涛 刘青峰 香港中文大学出版社 2008 年
 百年华语 市川勘 小松岚 上海教育出版社 2008 年
 何九盈 中国现代语言学史 广东教育出版社 2008 年
 近代中日词汇交流研究—汉字新词的创制、受容与共享 沈国威 中华书局 2010 年
 当代汉语词语模研究 苏向红 浙江大学出版社 2010 年
 汉语词汇的生成与演化 陈宝勤 商务印书馆 2011 年
 现代汉语欧化语法概论 谢耀基 香港光明图书公司 1990 年
 现代汉语欧化语法现象研究 贺阳 商务印书馆 2008 年
 刘禾, 宋伟杰等译 跨语际的实践—文学、民族文化与被译介的现代性 三联书店 2002 年
 海晓芳 文法草创期中国人的汉语研究 关西大学文学研究科博士论文 2012 年 3 月

論文

日本

森岡健二 現代漢語の成立とその形態 『国語と国文学』 1967 年 4 月

森岡健二「開化期翻訳書の語彙」『近代の語彙 講座日本語の語彙 6』明治書院 1982 年

荒川清秀 中国語の造語力『日本語学』5 月号 1992 年

沈国威 現代中国語における日本製訳語 『日本語学』7 月号 1993 年

野村雅昭 漢字にささえられた日本語 『講座日本語の表現 2 日本語の動き』筑摩書房 1994 年

内田慶市 ヨーロッパ発—日本経由—中国行き—「西学東漸」のもう一つのみちすじ— 『関西大学東西学術研究所国際共同研究シリーズ 1 浙江と日本』1997 年

沈 国威「新漢語研究に関する思考」『文林』32 号 1998 年

手島邦夫「西周の新造語について」——「百学連環」から「心理説ノ一斑」まで『国語学研究』41 2002 年

19 世紀末の漢語の廃語化現象に関する研究——『時事新報』を中心に ト保境 東北大学国際文化研究科 博士論文 2004 年 3 月

沈国威 “译词”与“借词”-重读胡以鲁《论译名》(1914) 或问 第九号 2005 年

沈国威 中国語と近代——東アジアの言語環境における思考 外国語学部紀要 第 2 号 (2010 年 3 月)

中国

王立达 现代汉语中从日语借来的词汇 中国语文 1958 年第二期

王立达 从构词法上辨别不了日语借词 中国语文 1958 年第九期

周定一 “音译词”和“意译词”的消长 中国语文 1962 年第十期

王树槐 清末翻译名词的统一问题 中央研究院近代史研究所集刊 第一号 1969 年

吕叔湘 试论非谓形容词 中国语文 1981 年第二期

- 缪小放 说属性词兼说与其他词类的区别 首都师范大学学报(社会科学版)
1988 年第一期
- 周洪波 外来词译音成分的语素化 语言文字应用 1995 年第四期(总第 16 期)
- 周荐 汉语外来成分译借方式之我见 香港教育署《语文教育学院学报》
1991 年第 8 期
- 于根元 整理汉语新词语的若干思考 语言文字应用论文集 1995 年
- 仇志群 从早期外汉词典看现代汉语词汇的发展 中国语文 1996 年 06 期
- 王国维 论新学语之输入 王国维论学集 中国社会科学出版社 1997 年
- 沈怀兴 汉语偏正式构词探微 中国语文 1998 年第三期
- 苏新春 当代汉语外来单音语素的形成与提取 中国语文 2003 年第 6 期
- 李仕春 偏正式构词法并非一直最能产 学术论坛 2006 年第 01 期
- 彭雷霆 张之洞与编订名词馆 湖北大学学报(哲学社会科学版) 2010 年
1 月 第 37 卷 第 1 期

付録

表一 『官話』(1916) の音訳語

英語	訳語	新、部	ページ	他の訳語	現代中国語	英華大辞典 (1908)
a disc of cocaine	一张蔻客 因片	部定	392		【药物】可卡 因，古柯碱(麻 醉品)	高告精，从 高告草所得 之药料，麻 药冰
acetanilide	亚西炭尼 利	部定	13		乙酰(替)苯胺	X
Africa	阿非利加	部定	29	非洲	非洲	亚非利加 (洲名)
albite	阿勒倍得	新	36	钠瑛 (新)	钠长石	花岗石
alcoran	哥兰经	部定	1665		古兰经	回教之圣经
alemani	阿勒摩尼	部定	1665		X	X
alternating current dynamo	迭换代拿 木	新	432	间流发 电机 (部 定)	交流电机	X
ammonia	亚摩尼亚	部定	45	氨(部 定)	氨	X
ammoniated tincture of quinine	奎宁氨酒	部定	46		奎宁；金鸡纳 碱	金鸡纳霜 疟疾药 规 那盐 桂尼 精
ampere	安培	部定	47		【电学】安 (培)(电流单位)	X
ampere hour	安丕小时	新	664		[电] 安培小	X

					时	
amperemeter	安培电流 表	部定	47		[电] 电流计, 安培表	电力表 (以 电力准个 (安丕) 量 电力之器
Ampere's law	安培法则	部定	772		安培定律	X
anglesite	安古赛得	新	53	易熔铅	硫酸铅矿, 铅 矾	易熔铅 铅 硫强礬
anglo-saxons	盎格鲁撒 逊	部定	1667		盎格鲁一撒克 逊	盎格卢撒逊 人 (英人)
aniline	安呢林	新	54	生色精 (部 定)	苯胺	X
antipyrin	奄提牌认	新	59	解火药 (新)	安替比林 (解 热镇痛药)	X
apollo	亚波罗	部定	1669		【希腊、罗马 神话】阿波罗 (即太阳神)	亚波罗 (希 腊及罗马文 武神名)
aqua chloroformi	哥罗方水	部定	65	三氯易 一炭完 质水 (部 定)	氯仿	X
Arab	阿刺伯人	部定	65	天方人	阿拉伯人	亚刺伯人
Arabia	阿刺伯国	部定	66	天方	阿拉伯	亚刺伯国
Arabian figures	阿刺伯码	部定	66		阿拉伯数字	X
Arabian numerals	阿刺伯码	部定	943		阿拉伯数玛	亚刺伯数号
Arago's disc	阿拉戈片	新	392		阿拉哥圆盘	X

araroba	阿拉娄拔	部定	66	巴齐木散（部定）	柯桎粉	X
archimedes' pump	亚奇默德抽水机	部定	67		阿基米德	X
argand burner	亚干灯	部定	68、171		具有管状灯芯的灯头	亚根灯头（即发明家之名）
Argentina	阿根廷	部定	68		阿根廷	（南美）亚真廷民主国的
arnica rhizome	亚匿加根	部定	70		山金车	豹毒 亚儿尼加
arnott's valve	亚奴通气阀	部定	70		阿诺特式阀门	X
artesian well	阿提希安井	新/部	73、1622	自流井 承压井	自流井 承压井	钻井 自流井 喷水井 自来井
atlantosaurus	阿提兰巨鼍	部定	82		载域龙	X
atwood's machine	阿脱兀器	部定	85、825		阿特伍德	X
Australia	澳斯他利亚	部定	87	澳洲	澳大利亚	澳大利亚
Austria	奥国	部定	87	奥地利亚	奥地利	奥国
babbitt metal	巴皮得金	新	91、867	耐磨金（新）	巴比(特)合金，巴氏合金	X
babcock and	巴威汽锅	部定	141		小组联箱式锅	X

wilcox boiler					炉	
balanve valve spring	压汽门司 浦零	新	1381		弹簧	弹机 发条 弹物 弹簧 宽紧之物
balsam	拔尔撒摩	部定	96		香脂	香油, 香树 之脂膏
balsam of Peru	秘鲁树脂	部定	96		秘鲁香胶	X
balsam of Tolu	都鲁树脂	部定	97		妥鲁香胶	X
barker's mill	巴加水磨	新	101		巴克水磨机	X
barlow's wheel	巴尔娄轮	新	1675		巴罗轮	X
baume's hydrometer	蒲美重率 表	部定	672		波美液体比重 计	X
bavaria	巴非列	新	106		巴伐利亚州	巴维也拉 (德之一 邦)
benzine	遍西尼	新	118	石脑水 (新)	石油挥发油, 轻 质汽油	徧苏汽油 石脑油
berkefeld filter	裴克斐尔 滤器	部定	119、 526		伯克菲尔德滤 器	X
berlier system	裴利埃制	部定	119、 1458		X	X
Berlin conference	伯林会议	部定	119、 274		柏林	X
bessemer steel	别西墨钢	新	120、 1399		贝塞麦钢, 酸 性钢	由生铁径练 之钢 别西 墨钢(别西 墨所发明 也)

bianchi's airpump	比安溪抽气机	部定	35、 122、 1132		X	X
blow off cock	放汽塞门	新	244		吹熄开关	X
blower valve	风门瓦路	新	1580		鼓风机阀	X
bohnemberger's machine	波念白格气机	部定	140、 825		X	X
bolivia	玻利非亚	新	141		玻利维亚	玻利非亚国 (在南美洲)
Bond's euthermic stove	朋特良热炉	部定	1411		邦德的发热炉	X
bosnia	博士尼	新	146		波斯尼亚	波斯尼亚 (奥之南部)
Boyle's law	波以尔法则	部定	150、 772		玻意耳定律	X
brandy	伯兰地酒	新	153		白兰地(酒)	由酒蒸出之烈酒 伯兰地酒 烧酒
Brunner's gland	伯郎奈腺	部定	164、 429		十二指肠腺	X
brunswick green	布伦司会格绿色科	部定	612		布伦兹维克绿 (一种由铬酸铅和普蓝合成的油画颜料, 不持久)	铜绿颜料。 炭酸及石粉之颜料
Brush's lamp	白尔西电灯	新	764		X	X

Bruuner's gland	伯郎奈腺	部定	164、 593		布鲁纳腺	X
buchu	布球叶	部定	165		合香叶	X
buchu	哺咕叶	部定	165		合香叶	X
bunsen burner	邦生灯	新/部	169、 171	本生灯 (部 定)	本生灯	X
bunsen burner	本生灯	部定	171	邦生灯 (新)	本生灯	X
bunsen's cell	邦生电池	部定	169、 202		本生	X
bunsen's photometer	邦生光力 表	新	169		本生	X
Bunsen's photometer	本僧光力 表	部定	1036		本生的光度计	X
burgundy pitch	白尔根底 松脂	部定	170、 1047		勃艮第	X
Burnett's disinfecting fluid	伯尼得灭 臭料	新	398		波纳特氏消毒 液	X
cacao	卡高树	新	177	揸古律 树(新)	可可树	(植) 渣古 聿树
caffein	咖啡质	新	178	加啡精 (部 定)	咖啡因	(化) 咖啡 质 咖啡中 得之晶体苦 物 咖啡精
caffein	加非那	新	178		咖啡因	(化) 咖啡 质 咖啡中 得之晶体苦 物 咖啡精

Caffein	加啡精	部定	178	咖啡质 (新) 加非那 (新)	咖啡因	(化) 咖啡 质 咖啡中 得之晶体苦 物 咖啡精
cafein citrate	加菲枸橼 霜	部定	178		咖啡因	(化) 咖啡 质 咖啡中 得之晶体苦 物 咖啡精
calabar bean	喀拉把豆	部定	178	非琐替 玛豆 (部 定)	毒扁豆	一种豆
calamine	卡拉迷尼	新	179	钇电矿 (新)	异极矿, 菱亚 铅矿	(矿) 钇电 矿
calif	嘎利发	新	1681	回教王	哈里发 (伊斯 兰教的国王)	继回回教王 者 回回教 主
calomel	迦路粉	部定	181	轻粉 (部 定)	甘汞, 氯化亚汞	X
caloric	加罗里	部定	181	热气	热, 热量; 热 质	X
Canada balsam	坎拿大松 脂	部定	96	黄松脂 (部 定)	加拿大香胶	X
Cannabis Indica	印度麻	部定	184		印度大麻	X
capetian house	加伯朝	部定	1682		卡佩王朝	X
Carcel's lamp	哈斯理灯	新	764		X	X
carolingian house	加罗林朝	部定	664		分界线的房子	X

cement	塞门德泥	新	203	胶灰 (新) 铁水泥 (新) 洋石灰	水泥	塞门德泥 胶灰
centigramme	百分格兰姆	新	203	(瓦厘) (新) 百分瓦 (新)	厘克	白分格 克兰之百分之一 (克兰者法国之衡量名也)
centilitre	百分立特	新	203	(立厘) (新) 百分粒 (新)	厘升	立特之百分之一 (立特者, 法国之容量名也)
centimeter	百分米特	新	203	(米厘) (新) 百分米 (新)	厘米	梅得之百分之一, 四分半 (一寸计十二分)
chamberland filter	张伯伦滤器	部定	208、526		钱柏兰滤器	X
charles' law	察理法则	部定	772		【物理学】查理定律	X
cheese scoop	记司挖子	新	1270		乳酪	X
china bark	鸡那树皮	新	1687		金鸡纳树皮	X
chiretta	介利大	部定	219	印度龙胆草 (部	印度当药	X

				定)		
Chladnic's figure	克拉特尼 图	部定	220、 524		X	X
chlorodyne	哥罗颠	新	221		(药物) 哥罗 丁, 氯仿吗啡 酊 (止痛药)	止痛药 (内 含鸦片, 哥 个罗方, 大 麻等物)
chloroform	哥罗芳	部定	221	三氯 (火 米) (新)三 氯易一 碳完质 (部 定)	三氯甲烷, 氯 仿	X
chocolate	楂古律	新	221	哥哥 (新)卡 高(新)	巧克力	甘豆饼, 初 高辣 (热带 所出植物之 核, 磨碎后 加以砂糖肉 桂等物)
christ	基利斯督	新	223		【基督教】救 世主 基督	X
circular parts of Napier	纳白尔周 形五部法	部定	228、 914		圆形部分纳皮 尔	X
cissoid of Diocles	戴俄克利 斯曲线	部定	230、 388	挂藤曲 线 (部 定)	蔓叶线	X

club	俱乐部	新	241		(社会、政治、体育等的)俱乐部，会，社	会社，总会，雅集，俱乐部（一群之人聚集，以谋公共之事，如社会交通文学格致等，而立规约以自守者。
coca leaves	蔻喀叶	新	243		古柯叶（草药名）	X
cocaine	蔻卡印（卅那）	新	243		【药物】可卡因，古柯碱(麻醉品)	高告精，从高告草所得之药料，麻药冰
cocaine	高加印（卅那）	新	243		【药物】可卡因，古柯碱(麻醉品)	高告精，从高告草所得之药料，麻药冰
cocainism	寇卡因病	新	1689		可卡因瘾	X
cocoa	蔻蔻	新	245		可可粉，可可豆，可可饮料	椰子饮品
cocoa	哥哥	新	245		可可粉，可可豆，可可饮料	椰子饮品
code napoleon	拿破仑法典	部定	914		拿破仑法典	X
codeine	蔻弟茵	新	245	鸦片次精（新）	【药物】可待因(主要用作镇	鸦片精

					痛剂)	
codeine phosphate	蔻弟茵磷酸	新	245		磷酸可待因	X
coffee	加非	部定	246		咖啡	X
coffeine	咖啡质	新	1690		咖啡因	X
colchicum corm	柯奇坎根	部定	247、 302		用秋水仙种子 和球茎制的药 物	草地红花 (药草名)
collodion	哥罗弟恩	新	249	火棉酒 (新)	【化学】胶棉； 火棉胶；珂罗 酊	哥罗殿（火 药棉之胶黏 质，时与火 酒和合，以 备外科与照 相之用）
colocynth pulp	哥罗新	部定	250	野胡瓜 肉（部 定）	干药西瓜瓢	X
compound tincture of chloroform and morphine	哥罗方魔 菲复方酒	部定	221		复合酊的氯仿 和吗啡	X
compound tincture of seena	莘那复方 酒	部定	1291		复绕电机	X
compound wound dynamo	双缠代拿 木	新	432	复转发 电机 (部 定)	发电机	X
conchoid of Nicomedes	尼柯米地 斯曲线	部定	269	蚌甲曲 线（部	尼哥米德蚌线	X

				定)		
Condy's disinfecting fluid	甘弟灭臭 料	新	398		康迪研发的消 毒液体	X
Cooper's ventilation	古柏通气 机	部定	299、 1587		X	X
copaiba	柯拜把	部定	299		苦配巴香脂	X
copaiba balsam	枫香拔尔 撒摩	部定	96		香脂	X
coquimbite	格苟末倍 得	新	301		针绿矾	绿礬种，五 色之青礬硷 (出在支利 喀根巴)
corner spring shoes	司浦零两 头铁鞋	新	1315		弹簧	弹机 发条 弹物 弹簧 宽紧之物
corner spring shoes	司浦零两 头铁簸箕	新	1315		弹簧	弹机 发条 弹物 弹簧 宽紧之物
cornish boiler	可尼司汽 锅	部定	141、 303		内燃卧式锅炉	X
cornish engine	可尼司汽 机	部定	303、 459		X	X
corset	哥赛脱	新	306	弼子 奶腋子 (俗) 紧身儿	紧身胸衣	妇人之胸衣 紧身褙 (以 鲸骨制之， 西妇束之胸 际使腰纤细 也)

coulomb	克伦	部定	308		库仑(电量单位)	X
coulomb law	克伦法则	部定	308、773		库仑定律	X
crooke's tube	克路克司管	部定	322、1543		克鲁克斯管	X
curry	咖喇粉	新	331	黄酱 黄酱末	咖喱粉 咖喱	咖喇粉 黄姜末
cusparia bark	考斯巴利皮	部定	333		克斯伯里亚树皮	X
custard	喀斯特	新	333	鸡蛋羹	蛋奶糕	蛋乳糕
cut out cock	关风卡克	新	244		龙头, 活栓	龙头活嘴 塞门
cyanine	衰阿尼尼	新	336		菁, 花青	(化)衰阿尼尼
dammar	吧嘛油	新	339		【化学】达马(树)脂	吧嘛油
Daniell's cell	丹尼埃尔电池	部定	202、341		丹聂尔电池	X
Daniel's hygiene	丹尼埃验湿表	部定	673		达森瓦尔电流计	X
Darsonval galvanometer	达尔逊电流表	部定	338、577		X	X
devonian	地夫尼安	新	379		泥盆纪(或系的)	(地质)红砂石的, 地夫尼安的
devonian	低否年	部定	379		泥盆纪(或系的)	(地质)红砂石的, 地夫尼安的

discina rock	的星那石	部定	393		圆盘贝	X
drain cock	放水卡克	新	244		龙头，活栓	龙头活嘴 塞门
dynamo	代拿木	部定	432	发电机 (部 定) 电 磁互生 机	发电机	代那模 发 电机 发电 机器 转力 为电之机
dyne	代尼	新	432		达因(力的单 位)	(格致) 势 力准个 势 力单位
dyne	达因	部定	432		达因(力的单 位)	(格致) 势 力准个 势 力单位
East Indian senna	东印度莘 那	部定	1291		东印度塞纳	X
Edison's lamp	爱狄孙灯	新	764		爱迪生	X
Ellison's air brick	爱立生通 气砖	部定	35、 157、 448		埃里森	X
Engel's law	恩格尔例	部定	459、 773		恩格尔定律	X
ether	以脱	新	474	虚气 元气 微气	气氛	X
ether	伊打	新	474	醇精 (部 定)	醚	X
ethereal	伊打的	新	474	醇精的	(乙) 醚的	X

				(新)		
eucalyptus	犹加利沓	新	475		桉树	郁加利树 (奥洲巨树之一, 其皮可制成炭匿酸可匹樹皮之炭匿酸)
Euclidean geometry	欧几里得形学	部定	587		【数学】欧几里得几何	X
Euler's figure	欧拉氏语式	部定	524		X	X
Ewing's law	伊宾法则	部定	478、773		X	X
expansion link	吊死鬼林克	新	487、802		伸缩杆	连接具, 连杆
expansion link	林克边死铁马	新	487		伸缩杆	连接具, 连杆
extract of calabar bean	喀拉把豆膏	部定	178		卡拉八豆 毒扁豆	一种豆
extract of colchicum corm	柯奇坎膏	部定	247		秋水仙	草地红花 (药草名)
fahrenheit scale	法伦表	新	1263		华氏温度表	X
fahrenheit scale	法伦海得表	新	1263		【物理学】华氏温标	X
fahrenheit thermometer	法伦寒暑表	新	1490	华氏温度表 (部定)	华氏温度计	法伦寒暑表 (冰毒在三十二度沸度在二百二十度之寒暑)

						表, 法伦所创制, 故名)
fahrenheit thermometer	华氏温度表	部定	1490		华氏温度计	法伦寒暑表(冰毒在三十二度沸度在二百二十度之寒暑表, 法伦所创制, 故名)
farad	华拉德	部定	507	法拉	法拉(电容单位)	(电) 法拉(电气容量之单位)
faraday's law	华拉的法则	部定	507、773		法拉第定律	X
fatimite	发提麦	部定	511		法蒂玛(Fatima)的后裔(的); 法蒂玛王朝(909-1171)的(成员)	法替玛之裔(法替玛即回教祖穆罕麦德之女也。)
fee	费	部定	514	例金 规费 资	服务费, 报酬, 酬金	酬报, 谢金, 赁钱, 酬劳, 费, 规费
filix max	非利玛	部定	526	公蕨根(部定)	X	X

fortin's barometer	福丁气压表	部定	102		福丁气压表	X
fortin's barometer	福汀气压表	部定	557		福丁气压表	X
foucault current	甫克电流	部定	559	涡电流 (部定)	涡流	X
frankeni's pulse glass	弗兰克氏沸腾球	部定	562、 594、 1131		X	X
fuchsin	弗新	新	569		品红	X
galena	加里那	新	576		【矿物】方铅矿	方铅，铅硫磺（据云有治病之能故名）
galileas' thermometer	加氏温度表	部定	1490		X	X
galileo's experiment	加利辽实验	部定	576		X	X
galileo's thermo-meter	加氏温度表	部定	576		X	X
gallon	咖(口伦)	新	577		加仑	咖(口伦) (量名)
gallon	高伦	新	577		加仑	咖(口伦) (量名)
galton's ventilating stove	嘎东通气炉	部定	577、 1411、 1586		高尔顿的通风炉	X

galvanic cell	加尔巴尼 电池	部定	202、 577、 1600	和尔特 电池	【电学】伽伐 尼电池(组)， 原电池(组)	流电池
gamboge	干薄折	新	578	藤黄 (部 定)	藤黄胶	藤黄，雌黄 (黄色颜料 名)
gay-lussac's alcoholometer	格流沙酒 精表	部定	37		盖·吕萨克的 酒精比重计	X
gay-lussac's alcoholo-meter	格鲁萨酒 精表	部定	582		盖·吕萨克的 酒精比重计	X
gay-lussac's law	格鲁萨公 例	部定	582、 773		【物理学】盖 —吕萨克定律	X
Geissler's tube	该司拉管	部定	583		盖斯勒氏管	X
George's calorigen	佐治发热 炉	部定	181、 588		乔治	X
girondists	日伦大党	部定	591		吉伦特派(成 员)	X
governor spring	压风圆司 浦林	新	605		机] 调速器弹 簧	弹机 发条 弹物 弹簧 宽紧之物
gramme	格兰	新	607	公分 (新)瓦 (新)克 (新)格 (新)	克	格，格来姆， 权量之名 (法国权量 之名，约重 十五粟半)
gramme	格兰姆	新	607		克	格，格来姆， 权量之名 (法国权量 之名，约重

						十五粟半)
grave cell	葛罗弗电 池	部定	202		X	X
gresham's law	格列显公 例	部定	613、 773		【经济学】格 雷欣法则	X
Grove cell	葛罗弗电 池	部定	202、 617		【电工学】格 罗夫电池	X
guaiacum wood	怪阿克木	部定	618	愈疮木 (部 定)	愈疮木	(植) 圭厄 禁, 古阿古 木, 美洲温 燥地方之树 名
gum arabic	亚拉伯胶	新	620	白树 (廿 泗) (新) 白树胶	阿拉伯树胶	X
gunala	阿勃勒	新	621		X	X
gundali	干陀利	部定	621	女青 (部 定)	X	X
gutta-percha	革他坡卡	新	622		【化学】古塔 (波)胶, 胶木 胶, 杜仲胶	格搭伯查, 树汁胶 (马 拉群岛丛生 一种树木之 乳质)

Hamites	哈迈特族	新	627		含米特人，含族人	X
haranor	海拉诺尔	新	630		X	X
havertian canal	哈卫管	部定	183、 663		【解剖学】哈弗斯(骨)管	X
hayesine	亥以西尼石	新	637	(乍骨) 硼金(新)	硼酸方解石	X
henna	海蒺	部定	646		【植物】散沫花	(植) 热带上之矮树，凤仙花，指甲花
Henry	亨利	部定	646		亨利(男子名)	X
hercules	希尔古理	新	647	武仙	【古典神话】赫拉克勒斯	希腊寓言上之半神英雄，武仙
Hinke's bird's plan of window ventilation	辛伯通气窗	部定	652、 1050、 1586、 1635		X	X
hohenstaufen	和欣斯陶芬	部定	654		霍亨斯陶芬王朝	X
hohenzollern	和欣素伦	部定	654		霍亨索伦	X
Holy Roman empire	神圣罗马帝国	部定	453、 656、 1232		神圣罗马帝国	X
homatropine	后玛莨菪	部定	656		【有机化学】后马托品	X

homatropine hydrobromide	后玛莨菪溴盐	部定	656		氢溴酸后马托品	X
house of Bourbon	布尔奔朝	部定	665		波旁王朝	X
house of Lancaster	兰迦斯德朝	部定	665、765		兰开斯特王朝	X
house of Tudor	都度尔朝	部定	665、1544		都铎王朝	X
house of Valois	瓦罗亚朝	部定	665、1579		瓦卢瓦王朝	X
house of York	约克朝	部定	665		约克王朝	X
huguenot	优格诺	部定	667		【法国历史】胡格诺派教徒	从前在法国新教徒之名称
huronian period	胡柔年期	部定	669、1025		休伦纪	X
hyduochoridum apomorphine	亚么菲氯盐	部定	61		【药物】阿朴吗啡，脱水吗啡	X
iceland moss	哀斯兰苔	新	897		冰岛苔	哀司兰
infusion of buchu	哺咕浸水	部定	165		X	X
initiation fees	进会费	部定	514		入会费	X
iodine	挨阿颠	新	733	(气紫) (新)	【化学】碘	碘(气紫) (四非金属原质之一，以此名者，因其气作紫色也。)

ion	伊恩	部定	733	电使 (部 定) 传 点(新)	【物理化学】 离子	依央, 传点, 埃沃恩 (一 物受电化分 析时, 出于 两极原质之 一)
ipecacuanha	衣必格	新	733		【植物】吐根	衣必格 (南 美所产之苦 根, 多用之 以为呕剂)
islam	伊斯兰教	部定	736	回回教	伊斯兰教	回教 (以转 移众人服从 上帝之主意 为宗旨者)
Jacobins	雅各宾党	部定	739		【历史】雅各 宾党人[法国 大革命时期 (1789~1794 年) 激进派成 员, 因其俱乐 部会址设在巴 黎雅各宾修道 院而得名]	甲可兵革命 派 (法国革 命时代领袖 革命派之一, 名如此者, 因 其会地为 Jacobin 僧 之寺院也)
janizary	耶尼泽利	部定	740、 1459		【历史】(14~ 19 世纪) 土耳 其禁卫军士兵	土耳其之护 卫步兵 (一 千八百二十 六年解散, 处以被囚之 基督教青年

						组织而成)
Jebb's ventilation system	介伯通气制	部定	741、1586		X	X
Jehovah	耶和华	新	741		耶和华, 上帝	耶和华, 自然而然者, 上帝
Jenning's air brick	介宁通气砖	部定	35、157、742		X	X
joule	咀尔	部定	746		【物理学】焦耳(米千克秒制中功和能的单位)	X
joule's experiment	咀尔实验	部定	746		X	X
joule's experiment	焦卢法则	部定	746		X	X
Joule's experiment	焦卢之实验	部定	489、746		X	X
joule's law	焦卢法则	部定	773		【物理学】焦耳定律	X
Jupiter	犹弼德	部定	749		【罗马神话】朱庇特	古罗马之主神(似华之玉帝)
jurassic	注拉司	部定	749	如拉锡	【地质学】侏罗纪, 侏罗系	X

kangaroo	更格卢	部定	751	袋鹿 肚袋鹿	【动物】袋鼠	(动)袋鼠, 更格卢, 长 尾驴
Kerr's constant	克尔常数	部定	284、 753		克尔常数	X
kilo-watt	启罗窝特	部定	755		千瓦	X
kino	茛脑	新	756		【植物】吉纳 紫檀	鸡罗, 佳奴 (非洲奥洲 及印度树中 所得之胶质 物)
kirchhoff's law	克立货夫 法则	部定	773		基尔霍夫定律	X
knights of St.John	圣约翰骑 士	部定	758		X	X
kousso	考苏	部定	760		苦苏	(植)阿比 辛亚产之药 草
krupp	克虏伯	新	760		克虏伯	哥罗伯
Kundt's constant	孔特常数	新\部	284、 760		【光学】孔脱 常数	X
lamella cocaine	蔻喀菌片	部定	763		【药物】可卡 因, 古柯碱(麻 醉品)	高告精, 从 高告草所得 之药料, 麻 药冰
lancashire boiler	兰克舍汽 锅	部定	141、 765		【机械工程】 兰开夏式火管 锅炉, 兰开夏 (水平双火筒)	X

					锅炉	
lancaster	兰迦斯德	部定	765		兰开斯特王朝 (1399~1461, 包括英国亨利 四世、五世和 六世三代王 朝)	兰卡斯偷
larix	拉而撒	新	768		落叶松属	X
latimer Clark's standard cell	拉替马标 准电池	部定	202、 770		X	X
Latin	拉丁	部定	770	罗马国 的	拉丁语; 拉丁 语系	腊丁民族 的, 罗马的
Latin apologists	拉丁护教 派	新	770		X	X
Latin empire	拉丁帝国	部定	770		拉丁帝国	X
Latin monetary union	拉丁圜法 同盟会	部定	770、 888		拉丁货币同盟	X
laurentian	老林低安	新	772		(加拿大东部) 劳伦系(岩石 层)的	X
laurentian	老莲先	部定	772	老林低 安(新)	(加拿大东部) 劳伦系(岩石 层)的	X
lavender	拉芬大	新	772		薰衣草	啦芬特香草 (唇形科植 物用以熏衣 者)

leclanche	雷克兰斯	部定	781		X	X
leclanche cell	雷克兰斯 电池	部定	202、 781		勒克朗谢电池	X
lemniscate of bernoulli	贝鲁利曲 线	部定	119、 783		【数学】伯努 利双纽线	X
lenz's law	林兹法则	部定	773、 785		【电学】楞次 定律	X
Leyden jar	来顿瓶	新	741		【电工学】莱 顿瓶	电罇，蓄电 瓶，来顿瓶
Leyden jar	雷顿电瓶	部定	741、 789	蓄电瓶 (新)	【电工学】莱 顿瓶	电罇，蓄电 瓶，来顿瓶
lias	来阿司	部定	789		氨搽剂	(地质) 鱼 子石层
liniment of ammonia	亚摩尼亚 擦剂	部定	46		氨搽剂	X
liniment of chloroform	哥罗方擦 剂	部定	221		氯仿搽剂	X
liquid extract of ergot	儿葛流膏	部定	495、 803		麦角流浸膏	X
liquor calumbae concertratus	苦垅柏浓 液剂	部定	803		X	X
liter	立特	新	804	公升 (新) 粒(新)	公升	X
liter	立特单位	部定	804	公升 (新)粒 (新)立 特(新)	公升	X
litmus	立底末司	新	805	石蕊兰	【化学】石蕊	石蕊兰，紫

				(新)		染料草蓝
lombards	狼巴邸	部定	812		伦巴第人	兰把地人
longan	龙眼	部定	813		【植物】龙眼	(植)龙眼， 桂圆
lousan	鲁桑	部定	819		X	X
louvre ventilator	路佛通气 机	部定	819、 1587		X	X
Magdeburg hemisphere	麦葛得堡 半球	部定	645、 827		X	(物理) 试 验空气压力 之双半球之 器名，麦堡 半球
magellanic clouds	墨瓦腊尼 云	新	827		【天文学】麦 哲伦云	X
malachite	玛拉开得	新	834	绿沸铜 (新) 绿色铜 矿(新)	【矿物】孔雀 石；绿青	绿沸铜，绿 青，孔雀石
male fern	非利玛	部定	518	亚必安 (新) 公蕨根 (部 定)	【植物】绵马	有致吐及祛 风性质之凤 尾草
malthus	马而土斯	部定	836		马尔萨斯	玛儿土司
mamelukes	麦弥鲁	部定	836		马穆鲁克	埃及骑兵队 (被灭于一 千八百十一 年)

mangosteen	芒姑生	新	838		【植物】山竹 果树	芒姑生，山竹果树（西印度树名，果大如橘，其味甚佳）
manicheist	摩尼西教徒	新	838	光暗教徒（新）	摩尼教徒	麻尼西一
mariotte's law	吗利窝公例	部定	773		马略特定律	X
mariotte's law	马利窝公例	部定	842		X	X
Mason's hygrometer	美森验湿表	部定	674、 846		X	X
mass	弥撒	新	846	献圣体（新） 圣体（新）	【天主教】弥撒	献圣体，弥撒（天主教中领圣餐之献祭），天主教之奠祭
mckinnell ventilation	美金奈通气机	部定	852		X	X
mckinnell ventilator	美金奈通气机	部定	1587		X	X
medusa	米度沙	新	857		【希腊神话】美杜莎（三个蛇发女怪之一）	女神名，妖魔名（容颜奇丑见之者即化为石）
megohm	千千欧穆	新	859		【电工学】兆欧(姆)	X
Merovingian house	墨罗文朝	部定	665、		X	X

			866			
metre	米突	新	869		米(公制长度单位)	枚, 米特, 迈当
metre	迈当	新	869		米(公制长度单位)	枚, 米特, 迈当
metric system	米突法	部定	869	公尺法(新)	公制, 米制	米特量法, 米特衡
metric ton	公墩	新	1511		公吨; 米制吨(重量单位)	X
micro-farad	微华拉德	新	870		微法	X
micro-farad	千法拉	新	870		微法	X
micro-farad	微法拉	新	870		微法	X
micro-farad	米库罗华拉德	部定	870		微法	X
mixture of brandy	葡兰地酒合剂	部定	153、884		X	X
moncrieff	蒙克利夫	新	888		蒙克里夫	X
monroe doctrine	们罗主义	部定	891	护美洲之说	门罗主义	孟禄主义, 美洲闭关主义, 保守美洲主义
monroe doctrine	孟禄主义	部定	411、891		门罗主义	孟禄主义, 美洲闭关主义, 保守美洲主义
mopha	末杜迦	部定	893		X	X
mor	没药	部定	893		【林业】粗腐殖质	X

morphia acetate	魔菲醋酸	部定	895	菲醋酸 液剂 (部定)	吗啡	吗啡, 鸦片 精
morphia hydrochloride	魔菲氢氯 酸液剂	部定	895		吗啡	吗啡, 鸦片 精
morphia hydrochloride	魔菲氢氯 酸	部定	895		吗啡	吗啡, 鸦片 精
morphia tartarate	魔菲酒石 酸	部定	895		吗啡	吗啡, 鸦片 精
morse instrument	莫而司机	新	718		莫士机	X
morse telegraph	毛尔司电 报机	部定	895、 1475		莫尔斯电报	X
morse's telegraphy	莫而司电 报	新	1475		莫尔斯电报	X
mosaic gold	摩西金	新	600、 896	锡硫粉	【化学】彩色 金, 二硫化锡 颜料	摩西金, 彩 色金, 伪金
napier	纳白尔	部定	914		纳皮尔	奈毕
napier's logarithm	讷白尔对 数	部定	811、 914		讷代对数	奈毕
napoleon	拿破仑	部定	914		拿破仑	拿破仑
nemst	礼尔斯	部定	925		能斯特	X
nernst lamp	礼尔斯灯	部定	764、 925		【电工学】能 斯脱灯	X
newcome's engine	纽奈门汽 机	部定	928		X	X
newton's three laws	奈端三大 公录	部定	773、 1495		牛顿三大定律	奈端

nicholson's hydrometer	尼可逊重率表	部定	672		X	X
norman	诺曼	部定	937		诺曼人	挪曼民族的，挪曼国的
Oersted's galvanometer	儿司德底里电表	新	577		奥斯特电流计	X
ohm	翁漠	部定	958		欧姆	欧穆（电气阻力单位）
ohm	欧木	新	958	翁漠（部定）	欧姆	欧穆（电气阻力单位）
ohm's law	翁漠法则	部定	774、958		X	X
oil copaiba	柯拜把油	部定	299		X	X
oil of bergamot	伯格莫油	新	119	巴机密油（新）佛手香油	香柠檬油	佛手类 橘类
okonite	欧口奈	新	959		精制地蜡	X
omlah	庵摩勒	部定	961		X	X
ordovician	阿德危先	部定	973		奥陶系，奥陶纪	X
osram lamp	阿斯拉灯	部定	764		钨丝灯	X
osram lamp	柯司拉灯	部定	977		X	X
ounce	恩斯单位	部定	978	英两	盎司	英两
oxalis acid	恶西酸	部定	986	草酸（部定）	酢浆草酸	（植）醋

ozone	阿纯	新	987	臭氧气 (新) 臭氧 电臭气 (部 定)	【化学】臭氧	(化)变形 养气, 臭养 气阿纯
pacinian body	巴西尼体	部定	140、 988		柏希尼氏体	X
pallas	帕拉氏	新	991	古希腊 慧神	【希腊神话】 帕拉斯	(神祇) 慧 神
pandean pipes	潘底安筒	新	1046			牧人之神的
papain	巴巴印	新	994	树瓜精 (新) 木瓜精 (新)	木瓜蛋白酶	X
papin's digester	巴宾釜	新	996	省薪釜 (新)	X	X
paraffin	硬巴拉粉	新	997	硬煤蜡 (新) 石脑腊 (部 定)	石蜡	无味无香之 蜡状物质, 炭木之元 质, 地蜡, 矿蜡, 煤蜡, 矫质, 石脑 药
paraffin	巴拉粉	新	997	石脑 (諸 诸)(部 定) 石 脑药	石蜡	无味无香之 蜡状物质, 炭木之元 质, 地蜡, 矿蜡, 煤蜡,

				(新)		矫质, 石脑 药
paraffin condenser	帕拉非凝 电器	部定	271、 997		石蜡电容器	X
pareira root	沛离拉根	部定	999		X	药材名
Paris yellow	巴里黄	新	1655		【化学】巴黎 黄; 铬黄	X
pascal's principle	拍斯噶尔 原理	部定	1005、 1101		帕斯卡尔原理	X
pasteurize	用巴司徒 氏的法 灭... 里 的秒	新	1008		用巴氏法灭菌	X
pasteurize	用巴司徒 氏的法 灭... 里 的微生物	新	1008		用巴氏法灭菌	X
Peyer's gland	裴液腺	部定	593		X	X
peyer's gland	裴叶腺	部定	1031		X	X
peyer's patches	裴叶丛腺	部定	1032		【组织学】派 伊尔斑	X
Peyer's solitary gland	裴液孤腺	部定	593		X	X
peyer's solitary gland	裴叶孤腺	部定	1032		X	X
phenacetin	斐尼锡 (非那亭)	部定	1033		非那西丁	X

physostigmatis semina	非琐替玛	部定	1038、 1289		X	X
physostigminea sulphas	非琐替玛 硫酸	部定	1038		X	X
pilocarpine nitrate	啞罗喀攀	部定	1043		硝酸毛果芸香 碱	X
pix burgundica	白尔根底 松脂	部定	1048		X	X
probate fees	遗嘱证验 费	部定	514		遗嘱认证费	X
protestant	波罗德斯 丹	部定	1122	抗议派 徒（部 定）	抗罗宗，抗议 宗	抵拒英王查 耳斯第五所 颁教律者之 教徒，罗得 教徒，更正 教徒，耶稣 教徒，新教 徒
punic war	布尼之战	部定	1133、 1608		布匿战争	X
quaternary	夸天内利	部定	1145		[数] 四元的	X
reaumur thermometer	啰木耳寒 暑表	新	1490		列氏温度计	X
reaumur thermometer	列氏温度 表	新\部	1168、 1490		列氏温度计	X
reversing valve	风磅汽缸 起行瓦路	新	1216		换向阀	舌门，汽门， 瓣扇，汽罨， 合页

Robinson's anemometer	鲁宾孙气流表	部定	51		罗宾逊（男子名）	X
Roman numeral	罗马码	部定	943		罗马数字	X
Rousseau's densi-meter	卢梭密度表	部定	366、1239		X	X
safety valve	压汽瓦路	新	1251		安全阀门	舌门,汽门,瓣扇,汽罨,合页
safety valve column	压汽瓦路铜柱	新	1251		安全阀门	舌门,汽门,瓣扇,汽罨,合页
safety valve seat	压汽瓦路座	新	1279		安全阀门座	X
sago palm	莎面	部定	1251	钱树	西谷椰子	X
santonine	三多年	部定	1258		【药物】山道年素	X
sassanides	撒锡尼德朝	部定	1259		萨珊王朝	X
scheeleite	西里爱得	新	1266	(钒骨)(钒鹺)砷(新)重石	scheelite 【矿物】白钨矿	X
scott moncrieff system	蒙克利夫制	部定	888、1459		X	X
scum cock	炉面放污水卡克	新	1275		锅炉排污旋塞	龙头活嘴塞门
semites	塞迈特族	部定	1289		闪族：闪米特人	X

senna	莘拿	部定	1291		番泻叶	辛拿，（口先）嗲（各桂树之叶，用作泻药者）
senna alexandrian	亚烈山大莘那	部定	1291		X	X
seraphim	晒啦冰	新	1295	高等天使	【圣经】撒拉弗，六翼天使	西啦冰，上等天神，上等天使，头等天使
sherringham ventilator	赛林罕通气机	部定	1587		X	X
shone system	匈恩制	部定	1459		X	X
six's thermometer	息克斯验温表	部定	1336、1491		【工程】西科 斯温度计	X
solution of morphia tartarate	魔菲酒石酸液剂	部定	895		X	X
spiral of archimedes	亚奇默德螺线	部定	67	等距螺线（部定）	阿基米德蜗线	X
spiral spring	盘香司浦零	新	1375		螺旋弹簧	弹机 发条 弹物 弹簧 宽紧之物
spirit of chloroform	哥罗方（酉泽）	部定	221		氯仿酒精	X
spirits of nitrous ether	弱氰酸伊打酒	新	474	亚氮酸醇精酒（新）	X	X

spring buckle	司浦林中 间铁箍	新	165		弹簧箍	弹机 发条 弹物 弹簧 宽紧之物
spring hangers	车后司浦 林吊铁	新	630		[铁路] 弹簧 吊架	弹机 发条 弹物 弹簧 宽紧之物
starine boiler	斯他林汽 锅	部定	141、 1393		X	X
steam cock	进汽卡克	新	244		龙头, 活栓	龙头活嘴 塞门
steam heater reducing valve	暖汽管压 汽瓦路	新	1177		X	舌门, 汽门, 瓣扇, 汽罨, 合页
sturm's functions	司特美函 式	新	571		X	X
sutton system	索通制	部定	1459		X	X
syrup of balsam of Tolu	都鲁树脂 糖浆	部定	97		syrup: 糖浆, 糖汁	南美洲之一 种树脂
syrup of codeine	蔻弟茵糖 浆	部定	245		codeine: 【药 物】可待因	X
tantalum lamp	袒塔兰灯	部定	764		钽丝灯	(化) 钽
telephone cord	德律风引 线	新	301	电话引 线(新)	电话线	电话机 传 话器 德律 风
theory of malthus	玛尔土斯 学说	部定	836、 1489		X	X
thermometer	法伦寒暑 表	新	1490	华氏温 度表 (部	温度计, 体温 表	法伦表, 华 氏寒暑表

				定)		
thermometer	啰木耳寒暑表	新	1490	列氏温度表 (部定)	温度计, 体温表	X
tincture of arnica	亚匿架酒	部定	70		山金车	豹毒 亚儿尼加
tincture of balsam of Tolu	都鲁树脂酒	部定	97		X	南美洲之一 种树脂
tincture of buchu	布球酒	部定	165		tincture: 【药物】酊; 酊剂	X
					buchu: 合香叶	
tincture of chiretta	介利大酒	部定	219	印度龙胆草酒 (部定)	X	X
tincture of colchicum corm seeds	柯奇坎酒	部定	247		X	草地红花 (药草名)
tincture of kino	茛脑酒	部定	756		奇诺酊	X
to attend mass	望弥撒	新	846		做弥撒	X
to celebrate a requiem mass	作黑弥撒	新	846		X	X
to say mass	作弥撒	新	846		X	X
Tobin's ventilation system	陶宾通气制	部定	1587		X	X
Tomoson's	托莫逊电	部定	578		X	X

galvanometer	流表					
ton	吨	新	1511		吨	X
torricelli's principle	脱利西里原理	部定	1101		拖里拆利原理	陶历赛尼
tourmaline pincette	土码琳钳	新	1517		电气石铁	(矿) 电气石, 杜玛琳
trias	堆阿司	部定	1532	第七石段	三叠系	X
tungsten lamp	探司登灯	部定	764		钨丝灯	钨, (钨), 董斯敦 (金属元素之一, 其色灰色与钢一般坚硬)
Turkish bath	土耳其浴	部定	1546		土耳其浴; 蒸汽浴	X
ufyoon	阿芙蓉	部定	1551		X	X
umli	庵弭罗	部定	1553		X	X
umrite	庵摩勒	部定	1553		X	X
unit	么匿	部定	1563		单位; 单元	(数与理) 单位, 准个, 么匿, 本数
unit quantity	么匿几何	部定	1564		单位电荷	X
upper silurian	上西路连	部定	1572		【地质学】晚志留世	X
utopia	乌托邦	部定	1576	华胥国	乌托邦 (理想中最美好的社会)	安乐岛, 乌托邦, 安乐国 (摩尔公

						幻想所描摹之海岛治法尽美者)
valentinite	发仑弟内得	新	1578	明铍锈(新)	【矿物】锦华	X
vandals	蕃多尔	部定	1581		汪达尔人	X
vanilla	发尼拉	新	1581	兰香	【植物】香子兰(俗称香草)	发尼拉(一种之兰类植物, 其实有异香)
vanilla	伟呢喇	新	1581		【植物】香子兰(俗称香草)	发尼拉(一种之兰类植物, 其实有异香)
vaseline	花士苓		1583	软煤腊(新) 石油质(新)	【商标】凡士林; 矿脂	X
vedas	吠陀经典	新	1584	护法神	吠陀	X
venetian red	非尼司红料	新	1586	洋红土	威尼斯红(颜料)	赤茶, 铁硫酸成之洋红类
veratine	韦拉替印	部定	1587	非拉廷	X	X
Verdet's constant	维尔特常数	部定	284		X	X
vernier	佛逆	部定	1589		游标, 游标尺	副仪, 游尺, 毫厘尺, 奇零尺(或长

						直或圆曲者)
Vienna congress	维也纳会议	部定	1593		X	X
volt	弗打	新	1600		福特 (电压单位)	弗打, 福尔, 倭尔, 电力之准个, 电力之单位
volt	福尔	新	1600		福特 (电压单位)	弗打, 福尔, 倭尔, 电力之准个, 电力之单位
volt	和尔特	部定	1600		福特 (电压单位)	弗打, 福尔, 倭尔, 电力之准个, 电力之单位
voltaic cell	和尔特电池	部定	202、1600		【电工学】伏打电池	流电池 弗打电池
voltaic electricity	福尔达电	新	1600	化电 (新) 湿电 (新)	【电工学】伏打电	化电 弗打电 流电气
voltaic electricity	和尔特电	部定	446	化电 (新) 湿电 (新)	【电工学】伏打电	化电 弗打电 流电气
voltaic electricity	弗打电	新	446、1600		【电工学】伏打电	化电 弗打电 流电气

voltaic pile	弗打电气堆	新	1042		【电工学】伏打电堆	化电堆，流电堆，弗打电堆（铎板与银板相错而成之堆）
voltameter	福尔达化分表	新	1600	化分表（新）	【物理学】伏打表，电量计	化电表，分解器，化分表，量弗打电表，流电表（量经过流电之多少）
voltmeter	福尔表	新	1600	电压表（部定）	【电工学】伏特计，电压表	X
vulcanite	爱伯乃提	新	1602	坚库秋	硬橡皮（经硫化处理的橡皮）；硬橡胶	多硫磺之硬象皮，硬化树胶质。硫橡皮
vulcanite	以步奈得	新	1602		X	多硫磺之硬象皮，硬化树胶质。硫橡皮
wad	华得	新	1603	锰土（新） 笔铅形锰（气氧）二（新）	【矿物】锰土，沼锰矿	（矿）（牟黑）土，锰土，高（牟黑）强锈，笔铅形锰养二。

				高(乍 黑)弱 秀(新)		
war of Austrian succession	奥地利继 统之役	部定	1607		奥地利王位继 承战争	X
war of polish succession	波兰继统 之役	部定	1607		波兰王位继承 战争	X
war of Spanish succession	西班牙继 统之役	部定	1607		西班牙王位继 承战争	X
water cock	水门卡克	新	244		水龙头	X
watt	窝特	部定	1615		瓦特	(物理) 瓦 德(力之单 位或准个之 名)
watt hour	瓦德小时	新	1616		瓦时 瓦特小 时	X
watt meter	窝特表	部定	1615		电表	(物理) 计 力之单位 机, 瓦德表 (多用以计 电力者)
Wheatstone bridge	韦脱司登 电桥	部定	158		【电工学】惠 斯登电桥, 单 臂电桥	X
whig party	胡亦党	部定	1627	民党 (部 定)	辉格党	(英国十七 世纪) 民党 员, 民权党 员

whisky	灰(回)司 (思)克	新	1628	谷蒸酒 (新) 英国烧 酒(新)	威士忌酒	谷酒, 大麦 酒, 威士杞 酒
whistle valve spindle	笛儿瓦路 铜套	新	1375		汽笛阀杆	X
witch of agnesi	阿烈细曲 线	部定	32、 1638	Geom.	【数学】阿涅 西箕舌线	X
young Italy	少年义大 利党	部定	738、 1656		【历史】青年 意大利党	X
Young's modulus	杨克斯率	部定	886		【物理学】扬 氏模量, 弹性 模量	X
zafran	泊夫兰	部定	1657		扎弗兰	X
zamboni dry pile	山白尼电 堆	新	1042		赞博尼	X
zamia	撒米阿	部定	1657		【植物】泽米	(植)苏铁, 西米树
zinc blende	布伦得	新	1658	光铯矿 方铯矿	【矿物】闪铯 矿	铯硫治, 磺 铯合质, 磺 亚铅矿

表二 『官話』(1916) の「一性」

英語	訳語	新/部 定	ページ	他の訳語	現代中国語
accident	偶有性	新	1662		【哲学、逻辑学】偶有属性；附带性，别性，外性
activity	旋光性	部定	19		【化学】活性，活度
adequacy	妥当性	新	1663		【语言学】充分性
aerotaxis	走气性	新	1664		【生物学】趋氧性；趋气性
aerotropism	屈气性	新	1664		【植物学】向氧性；向气性
aptitude	适宜性	新	1669		适宜，适当，得休
certainty	确实性	新	1685		必然(性)；
certitude	确实性	新	1685		确实性；必然性
character	品性	部定	211		性格，个性；
characteristic	特性	新	211		特征，特色，特性，独特性；
chemotaxis	走化性	新	1687		【生物学】趋化性，趋药性
chemotropism	屈化性	新	1687		【生物学】向化性，向药性
choleric temperament	热性	部定	222、 1477	火性	胆汁质
coerciveness	顽性	部定	246		强制性
compatibility	相合性	新	1692		【计算机】互换性；兼容性；相容性
compressibility	压缩性	新	266、 1692		压缩性；压缩系数；

compressibility	可挤性	部定	266		压缩性；压缩系数；压缩率
compressibility of liquid	流质缩性	新	1692		X
congruence	相合性	新	1694		适合，和谐，一致
contemplative	有静观性	新	1695		熟思的；好冥想的，好沉思的；
convergency	会萃性	新	1695		收敛性
diathesis	偏向病性	新	381		【病理学】(易患某种疾病的)素质，体质
dimorphism	二形性	新	1705		【植物学、动物学】二形性，二态性；二形现象，二态现象
divisibility	可分性	部定	409		可分(性)，可分割性
docility	可型性	新	1707		温顺；顺从
duality	两性	新	1708	二性	二元性；两重性
ductility	可拉性	部定	427	可扯力(新)	延(展)性；可延展性；可锻性；
elasticity	自复性	新	443	跃回力(新)弹力(新)缩力(新)	弹性
elasticity	弹性	新	443		弹性
elasticity	韧性	部定	443		弹性
enterprise	冒险性	新	463	敢做 敢为	事业心，进取心；冒险精神；
expansibility	膨涨性	部定	487	涨力(新)	扩展性；发展性；膨胀力
extension	廓性	部定	493		【物理学】广延(性)
flexibility	曲性	新	538		灵活性；弹性；适应性

flexibility	柔性	新	538		灵活性；弹性；适应性
fluidity	流动性	部定	542		【物理学】流性，流动性； 流度；流状
forgetfulness	忘却性	新	552	善忘	健忘，忽略
fusibility	融解性	部定	574		可溶性
geotropism	屈地性	新	588		【植物学】向地性，屈地性
heliotropism	屈日性	新	644		向日性；向光性
homosexuality	同属性	新	657		同性恋，同性性欲
identity of state	国家不二性	部定	678、 1394		国家认同
idiosyncrasy	偏僻性	新	678	特异质 (新)	特质；气质；风格
impenetrability	不可入性	部定	685		不可测知；不能贯穿；不可入性
indestructibility	不灭性	部定	699		不灭性；不能破坏；不可毁灭性
individuality	个性	新	702	特质 性 分	个性；个人特征
inflammability	可燃性	部定	708		[物] 易燃性，[热] 可燃性；
intellect	知性	部定	720		智力；理解力；领悟力； 智能
intelligence	知性	部定	721	灵敏才 灵性 思 悟才 知 识神(新) 智能	智力；智慧；才智；聪明； 悟性
irritability	易激性	新	736	被惹能	【生理学】应激性；兴奋

				(新)	性；刺激感受性
malleability	展性	新	835	发展性	延展性
malleability	可捶性	部定	835	发展性 展性(新)	顺从；可锻性；展延性
melancholic temperament	郁性	部定	859、 1477	金性	抑郁质
mischief	戏玩性	新	880		恶作剧，捣蛋，胡闹
molecular nature of magnet	磁石分子 性	部定	828、 887		X
nature of contract	契约之本 性	部定	291、 918		合同性质
negative aerotropism	背气性	新	922		X（向气性）
negative chemotropism	背化性	新	922、 1687		负向化性
negative heliotaxis	逃日性	新	922		X（趋日性）
negative phototaxis	逃光性	新	923		负向光性
negotiability	输通性	新	923	流通之事 （部定）	流通性；可转让性；可磋商性
neutral	中立性	新	927	无效	【化学】中性的
neutral	酸硷中性	新	927		【化学】中性的
parasitic	有寄生性	新	999	有依赖性	【生物学】寄生的；依人为生的
perfect elasticity	完全韧性	部定	443、 1022		完全有弹性；完全弹性
personality	人格性	新	1029	人格 人 品	品格；人格；对性格总的 印象
phlegm	冷性	部定	1034	慢性 迟 钝 疲性	冷凝质；粘液质

phlegmatic temperament	冷性	部定	1034、 1477		粘液质
phototaxis	走光性	新	1036		【生物学】趋光性
phototaxis	逃光性	新	1036		【生物学】趋光性
phototropism	屈光性	新	1036		【植物学】向光性
phototropism	背光性	新	1036		【植物学】向光性
plasticity	受塑性	新	1053	黏性	【生物学】可塑性
point	特性	新	1062		特点, 特征;
polarity	两极性	新	1065		【物理学】(二)极性, 极
polarity	正负性	新	1065		【物理学】(二)极性, 极
porosity	微隙性	新	1072		【生物学】反向性; 极性
porosity	函孔性	部定	1072	含微隙 (新) 微 隙性(新)	多孔性; 有孔性
positive aerotaxis	趋气性	新	1074		趋气性
positive aerotropism	向气性	新	1074		向气性
possibility	可能性	新	1076	能有 可 以有 或 者有	可能性
probability	概然性	新	1105	约有性	盖然性
property	化性	新	1116		性质; 性能; 特性; 属性
property	体性	新	1116		性质; 性能; 特性; 属性
property	独性	新	1116		性质; 性能; 特性; 属性
reactive rigidity	反动僵固 性	新	1224		活性刚度
receptivity	受容性	新	1170		接受能力; [生理] 感受 性
regularity	整齐性	新	1184		规律性; 规则性
resonance	响应性	新	1205	涨发(部)	共鸣

				定) 共鸣	
retentiveness	保存性	部定	1211		好记性; 保持力
rigidity	僵固性	部定	1224		【物理学】刚性; 刚度
sanguine temperament	浮性	部定	1257、 1477	木性	多血质
sensibility	感性	新	1292	觉度 (部 定)	感受性; 敏感性
sensibility	感受性	新	1292	知觉敏	感受性; 敏感性
sensibility	弱性	新	1292	易受感动 的性子	感受性; 敏感性
sensibility	觉性	新	1292	觉度 (部 定)	感受性; 敏感性
sensori-motor	感觉运动 性	新	1293		感知运动
separable accident	可离的偶 有性	新	1294		X
sociability	社交性	新	1351		交际活动, 社交活动
sociality	社会性	新	1352		社会性
spatiality	充填性	新	1367		空间性
specific property	独性	新	1369		特性
surprise	骇性	部定	1447		惊奇, 诧异
susceptibility	感受性	新	1449		敏感性
taxis	走动性	新	1472		【生物学】向性; 趋性
tenacity	伸长性	部定	1479	物之扯力 (新) 黏 韧 (新) 韧力 (新)	坚韧, 韧性
transmission of character	特质移性	新	1524		X

tropism	屈动性	新	1538		向性，趋向性
virtue	德性	部定	1596		善，德；善行，德行
viscosity	胶性	部定	1596	粘度（部 定）	【物理学】黏滞性

表三-1 『官話』(1916)の「質」

英語	訳語	新/部 定	ペー ジ	学科分類	他の訳語	現代中国語
a substance sweet to the taste	有甜味的 质	新	1508			
abstract	离质	新	1661		意想	
acetylene	二碳亚羰 质	部定	13	化学		乙炔
acetylene	亚羰质	部定	13	有机化学		乙炔, 电石 气; 炔烃
albuminous substances	蛋白质	部定	36、 1428	有机化学		白蛋白物质
aliohated compounds	脂肪族化 合质	部定	37			
allylene	三碳亚羰 质	部定	40	有机化学		丙炔
amalgamation	合质	新	43		換合物	
amine	氮氢基质	部定	45	化学		胺卤氮化合 物
amylene	五碳羰质	部定	48	化学		戊烯
animal matter	动物质	部定	54、 850	生物		动物有机物 质
antitoxin	攻毒素之 质	新	59	医学		抗毒素 抗 毒素血清
aromatic compounds	芳香族化 合质	部定	70、 265	化学		芳香族化合 物
arsine	砷氢基质	部定	73	化学		膾
atonic dyspepsia	弱胃酸质	新	433	医学		

biliary (substances)	胆汁质	部定	124、 1428	生理学		胆的 胆汁 的
bioplasm	原形质	新	126	生物	元(津青)	原生质
bismuthine	铋氢基质	部定	128	化学		铋 三氢化 铋
bitter principles	苦味质	部定	129、 1101	化学		(从植物中 提取的)苦 素
blood fibrin	血液纤维 质	部定	135、 521	生物化学		血纤蛋白
butane	四碳完质	部定	174	化学		丁烷
butine	四碳亚羧 质	部定	174	化学		丁炔
butylene	四碳羧质	部定	175	化学		丁烯
cafein coffeine	咖啡质	新	178、 1690	生物	加啡精 (部定) 加非(廿 那)(新)	咖啡因
caliber	性质	新	180		品格	
carbohydrates	炭水化合 质	部定	189	化学	糖甙类	碳水化合物, 糖类
carbon	炭质	新	189	化学	碳(部定)	碳
casein	干酪质	部定	195	生物化学	干酪素	酪蛋白
cellular tissue	腔形织质	新	1685	解剖学		蜂窝组织
cellulose	细胞膜 质、植丝 质	部定、 新	203	生物化学	植丝质 (新) 荃 丝素(新) 纤维(部 定)	纤维素

cement	白垩质	部定	203	医学		牙骨质
character	特质	新	210		性状(新)	
characteristic	特质 性质	新	211		特性(新)	
chemical	化质	新	216	化学	化学物料 (新)	
chemical compound	化合质	部定	215	化学		化合物
chemical properties	化学性质	部定	215			
chivalry	骑士气质	新	1687			
chivalry	武士气质	新	220		武士道 (新) 义侠	
chloride	氯盐质	新	220	化学		氯化物
chloroform	三氯易一 碳完质	部定	221	化学	哥罗芳 (部定) 三氯(火 米)(新)	三氯甲烷, 氯仿
compound	化合质	部定	265	化学		化合物
compound bodies	化合质	部定	140、 265	化学		复合体
conductor	传引质	新	273	物理	导体(部 定)	导体
conductor of electricity	引电质	新	273	物理		电导体
conductor of heat	传热质	新	273	物理		导热体
constituent	配合质	新	285	物理化学		构成要素; 成分, 组分
contagion	(广罩) 质 染质	新	288	医学	(广罩) 毒(新)	接触传染病 毒, 病菌

cork suberin	软木质	部定	302、 1425	生物		软木脂
cortical substance	皮质	部定	306	生物		皮质
crypto-crystalline	潜晶质	新	1699	化学		
decane	十碳完质	部定	350	化学		癸烷
dentine	象牙质	部定	366	医学		牙本质, 牙 质
diamagnetic substance	反磁质	部定	380、 1428	物理		抗磁质 反 磁物质 抗 磁物质
dichoric	双色质	新	382			
dichroism	双色质	新	1704	化学		二色性
diploe	颅骨绒质	新	389	医学		板障(骨)
disposition	品质	部定	401		性 性情 性格 心 性	
dodecane	十二碳完 质	部定	411	有机化学		十二烷
effusion	发生质 渗出来的 质	新	441	医学		渗出液, 渗 出物
egg albumin	禽类蛋白 质	部定	36	生物化学		卵清蛋白
egg albumin	血清蛋白 质	部定	441			
electric medium	传质	新	857	物理		
electrolyte	电解质	部定	446	物理化学	电化料 (新)	电解(溶液) 电解质
electro-magnetic	磁电传质	新	857	物理		

medium						
element	原质	部定	447	化学	元素(新) 质素(新) 一分子 (新)	
enamel	珐琅质	部定	454	医学	釉药(部 定)	(牙齿的)釉 质, 珐琅质
enzyme	酵质	新	465		(米母) (新)	
ethane	二碳完质	部定	474	有机化学		乙烷
ethine	二碳亚羰 质	部定	474	化学		乙炔
ethylene	二碳羰质	部定	475			乙烯
ferro-magnetic substance	磁铁质	部定	518、 1428	物理		
fibrin	纤维质	部定	521	生物化学	纤维素 (部定)	血纤蛋白
first lien	第一质	部定	531、 792			
fluid	流质	部定	542		流体(新) 流动的体 (新)	
gas	气质	部定	580		气 气质	
gelatin	胶质	部定	583		骨胶(新) 素胶(新) 兽皮胶 (新) 筋 胶	
globular fibrin	眼球纤维	部定	596			

	质					
globulin fibrin	眼球纤维质	部定	521	有机化学		
glycoside	生糖质	部定	597			
green pulp of leaf	叶绿质	新	778、 1131	生物		叶绿素
grey nervous matter	脑(黑灰)质	新	850	医学		
haematin	红(月朱)色质	新	624	生物化学		羟高铁血红素
haloid	造盐质	部定	626			
haloid salts	造盐质	部定	1254		盐类	
hecane	六碳完质	部定	642			
hydrocarbonates	氢碳质	部定	671	地质		
idiosynceasy	特异质	新	678			
illuminant	发光质	部定	681			
impurity	异质	新	691	医学		
indoform	三碘易一碳完质	部定	733		黄(气紫)(新) 海(气紫) 仿(新)挨 阿颠(新)	
inflammable substance	可燃质	部定	708、 1428	无机化学		
inorganic impurity	无机秽质	部定	691、 714			
insensate matter	无知质	新	850		呆质	
insulator	隔电质、 绝电质、	新、部 定	719	物理		绝缘体

	绝缘质					
intercellular substance	细胞公质	部定	722、 1428	有机化学		
inulin	菊类淀粉 质	部定	729		土木香粉 (新)	
ivory	象牙质	部定	738			
keratin	角质	部定	753		角素(新)	
lignin	常木质	部定	796			
liquid	流质、液 质	新、部 定	803	化学	流体 (新) 液 (部定)	液体; 液态 (物质)
liquor	流质	新	803		液剂(部 定)	
lupulin	蛇麻之苦 质	新	823		酵母花精 (部定)	
magnetic substance	磁质	部定	829、 1428	物理		
matter	物质	部定	850		质料(新) 体 质	
medium of light	传光质	新	857	物理		
medium of transmission	(广罩) 质 染质	新	1525	医学	(广罩) 毒(新)	接触传染病 毒, 病菌
medullary substance	髓质	部定	857、 1429	生理学		
menstruum	浸药之流 质	新	862			
mesophyll	叶质	部定	866			
metallic elements	金类原质	部定	447、			

			867			
metallic poison	金属毒质	部定	867、 1064	卫生学		
methane	一碳完质	部定	849			
methylene	一碳羧质	部定	869			
milk casein	乳汁干酪 质	部定	195、 847	化学		鲜奶级干酪 素
myosin	筋肉纤维 质	部定	910		肌素（部 定）	
myosin fibrin	筋肉纤维 质	部定	521	有机化学		肌凝蛋白纤 维
natural dyes	色质	部定	917			
nonane	九碳完质	部定	935	有机化学		壬烷
non-metallic elements	非金属原 质	部定	447、 935	化学		非金属元素
non-porous substance	不渗透质	新	935	物理		无细孔物
nutrient nutritive or nutriment	育质	新	945		养生物 养育品	富于营养的 食品，补养 品
octane	八碳完质	部定	952	化学		辛烷
olefine	羧质	部定	960	化学		链烯烃
organic compounds	有机化合 质	部定	265、 974	化学		有机化合物
organic matter	有机质	部定	850			
organic matter or substances	有机质、 生物质	部定	974、 1429	化学	（廿胜） （新）	有机物 有 机物质
oxide	酸化质	部定	986	化学	（养秀） （新）	氧化物

pabulum	育质	新	987		养育料 (新) 胚 乳 仁肉 包胚质	
peculiarity	特质	新	1015		特色 特 性	
paraffin condenser	完质	部定	997	有机化学		
para-magnetic substance	毗磁质	部定	998、 1429	物理		磁性体
particularity	特质	新	1003		特色 特 性	
pentane	五碳完质	部定	1020	化学		戊烷
pentine	五碳亚羧 质	部定	1020	有机化学		戊炔
phlegm	黏液质	新	1034	医学	痰 痰涎	冷凝质；粘 液质
phosphine	磷氢基质	部定	1035	化学		磷；磷化氢
physiological properties	生理性质	新	1037	化学		
pigment	皮色质	部定	1041	生理学		
point	特质	新	1062			
precipitate	凝质	新	1086			
propane	三碳完质	部定	1116	有机化学		丙烷
propine	三碳亚羧 质	部定	1117	有机化学		丙炔
propylene	三碳羧质	部定	1119			
protoplasm	原形质	部定	1122	生物学	元(津育)	原生质；原 浆 细胞质

psychic elements	心之原质	部定	1126	心理学		
psychical element	心之原质	部定	447	心理学		
quiddity	本质	新	1147		体质	
recessive character	隐在特质	新	1170			
residue	遗质	部定	1203	地质学		
resorcin	钾松香合质	新	1205	有机化学	喇琐辛	雷琐辛
salt	盐质	新	1254	化学		盐；盐化物
sanguine	多血质	新	1257	古生理学	有血性的 心热的	多血质的
saturated hydrocarbons	已饱碳氢质	部定	671、 1260	有机化学		
substance	质	新	1428		实体	
serum albumin	血清蛋白质	部定	36、 441、 1297	有机化学		血清白蛋白
soild	实质 定质	新 部定	1356		固体 实体（新）	
speciality	特质	新	1368		特色 特性	
stibine	锑氢基质	部定	1402	有机化学		
structure	织质	新	1421	生物	组织（新） （月罔） （新）	组织
substantia	质	部定	1429	逻辑学		
substitution	换质	部定	1429	地质学		
tannin	鞣质	部定	1468		炭匿酸（新）	

temperament	气质	部定	1477		性	
tetradecane	十四碳完 质	部定	1485			
transmutation	变质	新	1525			
undecane	十一碳完 质	部定	1556			
unsaturated hydrocarbons	未饱碳氢 质	部定	671、 1568			
urea	尿质	部定	1573			
vaseline	石油质	新	1583	化学	软煤腊 (新) 花 士苓(新)	凡士林; 矿 脂
vegetable albumin	植物蛋白 质	部定	36、 1584	生物化学		
vegetable casein	植物干酪 质	部定	195、 1584	生物化学		植物白蛋白
vegetable fibrin	植物纤维 质	新 部 定	521、 1584	生物化学		植物性酪素
vegetable matter	植物质	新 部 定	851、 1584	生物		植物质 植 物性物质
volatile liquid	飞流质	新	803、 1599	化学	易散流体 (新)	挥发性液体
white nervous matter	脑白质	部定	851			
woody fibre	木纹质	新	1643	生物学	木质丝纹	
zymogen	生(米每) 质	新	1659	医学		

表三-2 『官話』(1916)の「精」

英語	訳語	新/ 部定	ページ	学科分類	他の訳語	現代中国語	英華大辞典 (1908)
abrin	相思子精	新	5	生物学		相思豆毒素	X
absintin	苦艾精	部定	6	生物学		苦艾素	X
aconitine	草乌头精	部定	16	医学		乌头碱	(化)阿古尼低尼
aesculin/esculin	马栗精	部定	27/4 72	医学		【药物】七叶灵, 马栗树皮甙	由山栗所得之碱
alcohol	酒精	部定	36	化学	醇(部定)	酒精, 乙醇	醇 极浓酒 浓酒 酒精 烈酒
aloin	芦荟精	部定	41	医学		【药物】芦荟素, 芦荟总苷(亦称葡萄糖蒽酮)	(化)沉香内致泻之苦质, 哑啰精
aluminium	钢精	部定	43	化学	铝(部定)	【化学】铝	(化)铝, 钍, 钒, (牟 礬)(即礬石之金类底质)
amygdaline	扁桃精	部定	48	医学	杏仁精	【生物化学、药物】苦杏仁苷, 扁桃苷	(化)杏仁霜(苦杏仁内炼出白色之结晶物)
aniline	生色精	部定	54	化学	安呢林(新)	【化学】苯胺	X

atropine	莨菪精	部定	83	医学	龙葵碱 (部定)	【药物】 阿托品,颠茄碱(用于镇痛、缓解平滑肌痉挛和散瞳)	龙葵及曼陀罗华中抽出之白色有毒能结晶之有机盐基,颠加精
berberine	黄连精	部定	118	化学		【化学】小檗碱	(化)草根苦汁
caffeine	加啡精	部定	178	化学	咖啡质 (新) 加非那 (新)	咖啡因	(化)咖啡质 咖啡中得之 晶体苦物 咖啡精
caffeine	茶精	部定	178	化学		茶精	X
camphene	樟脑精	部定	182	化学		【化学】蒾烯	(化)清松油
cantharidin	茺菁精	部定	185	化学		【有机化学】斑蝥素(抗刺激药)	(化)斑蝥质 起泡质
carbon gas	炭精	新	189	化学	煤气炭 (新)		X
carboniferous gas	炭精	新	189	化学	煤气炭 (新)	炭化气	X
carotin	胡萝卜精	部定	191	生物学		【生物化学】胡萝卜素	X
carthamin	红花精	部定	193	化学		红花甙	(植)豆蔻花红,红花之红 颜料

chlorophyl	绿叶精	部定	221	生物学	叶绿 (部 定) 叶 绿素 (新)	【植物学、 生物化学】 叶绿素 (可用作染 料、油料、 化妆品等)	(植) 叶绿 叶绿素
cholesterin	胆精	部定	222	医学		【医学、生 物化学】 胆固醇, 胆 甾醇	胆汁油, 胆渣 晶
citrene	柠檬油 精	部定	230	化学		【化学】苧 烯, 柠檬烯	柠檬油质 柠 檬油晶
cocaine	蔻喀精	部定	243	医学	蔻喀茵 (部 定)	【药物】可 卡因, 古柯 碱(麻醉 品)	高告精, 从高 告草所得之 药料, 麻药冰
codeine	鸦片次 精	新	245	医学	蔻弟茵 (新)	可待因	鸦片精
convolvulin	牵牛花 精	部定	297	生物学		旋花苷	X
curcumin	姜黄精	部定	330	化学		姜黄素	姜黄颜料
daphnin	芫花精	部定	341	医学		瑞香甙	瑞香木之苦 质
dextrin	糊精	部定	380		羧胶	【生物化 学】糊精	(化) 糊精, 羧胶, 糊质中 消融品(若验 以极光, 能使 偏光折至右 边, 故名)

ether	醇精	部定	474	化学		伊打（新）	X
extract of meat	肉精	部定	855		肉膏		X(extract: 汁,精汁;膏, 膏脂)
farinose	淀粉精	部定	508	生物学		产粉的,含 粉的	生谷粉的
fibroin	绢丝精	部定	521	化学		【生物化学】丝(心) 蛋白	丝之本质
gentianin	龙胆草 精	部定	586				(化)龙胆之 苦汁,龙胆精
gluside	糖精	部定	597	医学			X
helenin	木香精	部定	644				X
hesperidin	橙实精	部定	649				X
ischolesterine	异性胆 精	部定	736				X
lupulin	酵母花 精	部定	823		蛇麻之 苦质 (新)		蛇麻之苦质
morphia morphine	鸦片精	新	895	医学	莫(魔) 非(菲) (廿那) (新) 罂粟碱 (部 定)莫 非吗 啡鸦	吗啡	吗啡 鸦片精
mucin	唾精	部定	903	化学			X

naphthaline	石油精	部定	914				洋樟脑 石脑油质
papain	木瓜精	新	994	化学	巴巴印 (新)	木瓜蛋白酶	X
papain	木瓜精	新	994	化学		木瓜蛋白酶	X
phellandrene	水茴香油精	部定	1033	化学		水芹烯	X
phlorizin	苹果精	部定	1034	化学		根皮甙	梨根精, 果树根皮之质
picrotoxin	鱼毒果精	部定	1040	医学		木防己苦毒素	(化)比割路毒西尼, 白色毒晶物
pinene	松油精	部定	1044	化学		蒎烯	X
piperine	胡椒精	部定	1046	化学		胡椒碱	黑胡椒质
salicin	水杨精	部定	1253	医学 化学	柳皮精		柳皮精, 柳树苦质, 柳苦质, 从各种柳树皮所得之苦质
salol	水杨碳酸精	部定	1253		撒娄水杨		X
santalín	紫檀精	部定	1258	化学			紫檀色质
santonine	茵陈精	部定	1258	化学			山道年, 杀虫药质
saponin	草胰精	部定	1258	化学			胰皂质, 胰皂草根之原质
smilacin	茯苓精	部定	1346	化学			茯苓霜

solanine	黄芩精	部定	1355	化学			茄(杀辛)(茄类所产之植物性碱质)
strychnine	番木鳖精	部定	1421	医学			马钱子质, 马前冰, 木鳖精(毒性有机基盐)
thio ethers	磺酐精	部定	1493				X
vitellin	蛋黄精	部定	1598				卵黄, 蛋黄, 蛋黄质

表三-3 『官話』(1916)の「素」

英語	訳語	新/ 部定	ページ	学科分類	他の訳語	現代中国語	英華大辞典 (1908)
albumin	蛋白素	部定	36	生物化学	安息香	【生物化学】白蛋白, 清蛋白	蛋青 蛋白
axiom	论素	部定	90	逻辑学		【逻辑学、数学】公理	自然之理, 不易之论, 公论, 古语, 公理, 原理
benzol	煤本素	部定	118	化学		苯和其他苯族烃的混合物	(化) 浊徧苏油 (用以镕物者)
bilin	胆汁素	部定	124	生物		胆汁三烯	(化) 胆汁中树脂质
casein	干酪素	部定	195	生物化学	干酪质	酪蛋白	干乳酪, 酪质, 酪醒
cellulose	荖丝素	新	203	生物化学	植丝质 (新) 纤维 (部定) 细胞膜质 (部定)	纤维素	(植) 细胞膜质, 木材质, 植物丝质
chlorophy chlorophyll	叶绿素	新	221	生物化学	叶绿 (部定) 叶绿精 (部定)	叶绿素	
chondrin	软骨素	部定	222	生物化学	软骨胶	软骨胶	由肋骨或气管软骨中取

							得之胶汁
coloring matter	色素	部定	251				
creatin	肌素	新	1698	医学		肌氨酸; 肌 肉素	肉汁中白色 结晶之物质
creatinin	尿肌素	新	1698	生物化 学		肌酸酐	X
element	元素 质素	新	447	化学		原质 (部 定) 一分子 (新)	(化) 原质, 化学原素
essence	元素	新	473				质, 木质, 精质
essential	要素	新	473			主要	本质, 精气, 紧要, 主意
fibrin	纤维素	部定	521	生物化 学		血纤蛋白	丝质, 血丝 腥, 纤维素 (细丝质合 成动物或植 物体质)
globulin	血轮素	部定	596				(生理) 精 腥, 血珠之 要质
haemoglobin	血赤素	部定	624				经 (月朱) 铁腥, 红 (月 朱) 铁腥, 血之红质
hydrogen	水素	新	672	化学	氢 (部 定) 轻 气 (新)	氢	轻气 氢 水 素

keratin	角素	新	753	生物化学	角质（部定）	角蛋白，角朊；角质	角素 角质
lecithin	卵黄素	新	781	生物化学		卵磷脂	X
light corpuscle	光素	部定	304\ 795				
mucin	粘液素	部定	903	物理学			X
myosin	肌素	部定	910		筋肉纤维质		X
olein, olein fat	油素	新	960\ 510	化学		三油酸甘油酯；油精；三油精	油水 油质 油素
pepsin	胃液素	部定	1021	生物化学		胃蛋白酶	助消化素 卑白辛 胃汁素 胃液素（牛羊胃汁之要素用作药物，以助消化者）
pepsin	消化素	新	1021	生物化学	胃化脛酶（新） 胃酸（新）	胃蛋白酶	助消化素 卑白辛 胃汁素 胃液素（牛羊胃汁之要素用作药物，以助消化者）
pigment	色素	部定	1041	物理学			身体中之色

							料，色素
ptyalin	涎素	部定	1127	生物化学		唾液淀粉酶；唾液素	涎酶 唾液素
silica	硅素	新	1328	化学		二氧化硅，硅石	砂养洽，火石石英等之原质
skatol	粪臭素	新	1336	生物		粪臭素	X
stearine	脂素 肪素	新	1399	化学	硬脂	硬脂；硬脂酸	脂素 肪素 (膏油之本质)
vaccine	(广 翟) 秒 素	新	1577	医学			(医) 牛痘
vaccine	疫秒素	新	1577	医学		疫苗	(医) 牛痘
xylol	水化炭 素	新	1653	化学	赛劳	二甲苯	水化炭素

表四 『官話』(1916)の「科」

英語	訳語	新、部 定	ページ	英華大辞典(1908)	現代中国語
acanthaceae	大青科	新	8		爵床科
acanthopterygii	棘鳍科	新	8	棘鳍属	新鳍亚纲
araliaceae	五加科	新	66		五加科
balaenoida	软牙鲸鱼亚 科	新	95		
batoidei	鲳鱼亚科	新	105		鲳目
berberidaceae	小檗科	新	118		小檗科
bignoniaceae	紫葳科	新	124	紫葳花族	紫葳科
bimana	人亚科	新	125	双手兽类 人类	二手目
perching bird	栖树鸟科	新	127	栖树之鸟	栖木鸟类
bromeliaceae	凤梨科	新	161		凤梨科
celastraceae	卫矛科	新	201		卫矛科
cetacea	哺乳鱼科	新	206	鲸鱼族 乳鱼属	鲸类
cheiroptera	翅手科	新	215	翼首类 翅手类 蝙蝠类	翼手目
chenopodiaceae	藜科	新	216		藜科
chondropterygius	软骨鱼科	新	222	软骨鱼属 脆骨鱼属	
cirripeds	卷脚科	新	230	蔓足介类(部定) 卷脚类 蔓脚类	蔓足亚纲
crassulaceae	景天科	新	317		景天科
cruciferae	十字花科	新	325	十字形类	十字花科
ctenoidei	梳鳞鱼科	新	327	锯齿鳞鱼类 梳齿鳞	

				鱼	
cupuliferae	壳斗科	新	329		壳斗科 山毛 榉科
cycadaceae	凤尾科	新	336		苏铁科
cycloidei	圆鳞鱼科	新	336	光鳞鱼类 圆鳞鱼	
diapensiaceae	石梅科	新	381		岩梅科
dioscoreaceae	薯蓣科	新	388		薯蓣科
dipsaceae	续断科	新	389		川续断科
diptera	两翅蝇科	新	389	两翅虫属 两翼昆虫 双翅虫类	双翅目
droseraceae	茅膏菜科	新	425		茅膏菜科

表五 『官話』(1916)の言語学専門用語

英語	訳語	新、部 定	ページ	他の訳語	現代中国語
ablative	夺格	新	3		离格 夺格
accusative	第四变格	新	13		宾格
accusative	止词	新	13		宾格
adjective	势字	新	22		形容词
adjective	形容字	新	22		形容词
adjective	静字	新	22		形容词
adjective	指实字	新	22		形容词
adverb	疏状字	新	25		副词
adverb	状字	新	25		副词
adverb	随从字	新	25		副词
adverb	势字	新	25		副词
article	指件字	新	74		冠词
definite article	有定指件字	新	74		定冠词
indefinite article	不定指件字	新	74		不定冠词
aspirate	出气音	新	77	重音 浊音	送气音
aspirate	有口气的音	新	77		送气音
aspirate	带口气的音	新	77		送气音
attribute	区别字	新	85		偏正结构, 定语
auxiliar verb	助动字	新	88		助动词
ablative case	夺格	新	195		离格
dative case	与格	新	195		与格
nominative case	主格	新	195		主格
objective case	目的格	新	195		宾格
possessive case	物主格	新	195		所有格

abbreviated style of characters	减字	新	211	减笔字 省字 简字	X
classifier	分品字	新	234		量词
classifier	分类言	新	234		量词
classifier	指件字	新	234		量词
independent clause	余读	新	234		【语法学】独立分句
infinitive clause	扣目读	新	234		【语法学】不定式从句
instrumental clause	用目读	新	234		X
predicate clause	目读	新	234		短语
subject clause	纲读	新	234		主语从句
subjunctive clause	枢读	新	234		虚拟语气
conjunction	契合字	新	279		连词
conjunction	连合字	新	279		连词
conventional term	互认名词	新	295		常规术语
cross-reference	对注语	新	323		交叉引用
cross-reference	互指语	新	323		交叉引用
dative	与格	新	342		与格
definite article	有定指件字	新	358		定冠词
definitive	定限词	新	358		限定词
definitive	定限字	新	358		限定词
demonstrative	指明言	新	365		指示词
demonstrative	指示代名字	新	365		指示词
demonstrative	指示代名词	新	365		指示词
diminutive	指小辞	新	387		指小词
distribute type	还字	新	406		X
dual	二的	新	427		【语法学】双数的

esperanto	万国统一语	新	472		世界语
esperanto	世界语	新	472		世界语
etymology	字原学	新	475	字学	词源学
family of languages	语族	新	506		语系
formation	组织	新	556	结构 体格	构词
future perfect	将来即事式	新	574		将来完成时
future	后时类	新	574		【语法学】将来时
future	将来式	新	574		【语法学】将来时
grammar	语法	新	607	文法 言语结构 文字学	语法
hermeneutics	注释学	新	648		解释学; 诠释学
homonym	同音异义字	新	657		同音异义词
hyperbole	张喻	新	675	饰词太过 过喻 言过其实	【修辞学】夸张法
hyphen	连字号	新	675		连字符
imperative mood	使令说法	新	686		祈使语气
imperfect figure	不完全格	新	686		变格
incorporating language	抱合语	新	697		复综语
indefinite term	不定名词	新	698		不定术语
infinitive	无限说法	新	708	不定之法 无定式 无限状	【语法学】原形, 原形动词, 不定式
inflection	曲尾	新	708	字尾变体	曲折形式
intensive	加重言	新	721		【语法学】强调成分

interjection	语助言	新	724	语助词 口气字 感叹字	【语法学】感叹词；感叹语
interjection	间投字	新	724		【语法学】感叹词；感叹语
intransitive	自动词	新	728	不及物之云谓字	【语法学】不及物动词
intransitive	不贯动词	新	728		【语法学】不及物动词
inversion	反文	新	730		【语法学、语音学】转换；言语倒频；(词序的)倒装；倒置；卷舌
inversion	换位	新	730		【语法学、语音学】转换；言语倒频；(词序的)倒装；倒置；卷舌
masculine	公生类	新	846	阳类的 阳属的	阳性词
neuter verb	自动词	新	926		中性动词
nominative	主格	新	934	主施	【语法学】主格
abstract noun	虚总名词	新	941		抽象名词
objective	目的格	新	947		宾格
orthoepy	正音法	新	976		正音学；标准发音
orthography	正缀	新	976		【语言学】正字法
orthography	正拼	新	976		【语言学】正字法
palatalization	口盖音化	新	991		【语音学】发腭音(尤指使腭音)

					化), 使腭化
palatalization	上腭音化	新	991		【语音学】发腭音(尤指使腭音化), 使腭化
parenthetical sentences	充足句头	新	1000	插句	插入句
participle	活系名	新	1003		分词
participle	中语词	新	1003		分词
participle	活定名目字	新	1003		分词
participle	两用式	新	1003		分词
passive verb or voice	受动活字	新	1007	受式样	被动语态动词形式
passive verb or voice	主受	新	1007		被动语态动词形式
passive verb or voice	受样	新	1007		被动语态动词形式
passive verb or voice	柔声	新	1007		被动语态动词形式
past	先时类	新	1008		【语法学】过去时
past	过去式	新	1008		【语法学】过去时
perfect	既事式	新	1023	已成时	完成时
pluperfect	过去既事式	新	1060	前成时 先已过时	过去完成时
possessive case	物主格	新	1076		所有格
possessive pronoun	作主代字	新	1076		物主代词, 所有格代词
prefix	前置字	新	1088		前缀
preposition	示处言	新	1090	关系字 介系字	前置词, 介词

preposition	介绍字	新	1090		前置词，介词
preposition	先名字	新	1090		前置词，介词
present	今时类	新	1091		现在时态
present	现在式	新	1091		现在时态
pronoun	代名词	新	1115	代字	代名词
pronoun	称代字	新	1115		代名词
proper noun	定名词	新	1116		专有名词
sentence	句头	新	1293	句子 语句	句子，命题
conjunctive sentence	设若句头	新	1293		联合句
hypothetical sentence	虚构句头	新	1293		假设句
parenthetical sentence	充足句头	新	1293		插入句
stress	重音	新	1416	急切	【语音学】重音，重读
stress	语势	新	1416		【韵律学】扬音，语势
substantive	名物字	新	1429	实字	名词性实词
substantive	实名词	新	1429		名词性实词
suffix	接尾字	新	1434		【语法学】后缀，词尾
syllabary	缀音表	新	1455		【语言学】音节表
syllabary	并音表	新	1455		【语言学】音节表
syllabary	字音表	新	1455		【语言学】音节表
syllable	并音	新	1455	音节	【语音学】音节

syllable	缀音	新	1455		【语音学】音节
term	名词(辞)	新	1481	名目	术语, 专门名词
modern terms	新名词	新	1482		现代术语
technical terms	专门名词	新	1482		术语; 专门名词, 技术名词
technical terms	术语	新	1482		术语; 专门名词, 技术名词
terminology	名词(辞)	新	1483	名目	术语, 专有名词
universal term	一义名词	新	1564		通用术语
verb	活字	新	1587	云谓字	【语法学】动词
verb	动字	新	1587		【语法学】动词
verb	靠托言	新	1587		【语法学】动词
active verb	灵动活字	新	1587		主动动词
active verb	力行动字	新	1587		主动动词
finite verb	有限动词	新	1587		【语法学】限定动词
impersonal verb	无位动词	新	1587		【语法学】非人称动词, 无人称动词
intransitive verb	内动词	新	1587		【语法学】不及物动词
intransitive verb	自动字	新	1587		【语法学】不及物动词
passive verb	受动活字	新	1587		被动语态动词形式
reflexive verb	反照动字	新	1587		反身动词
transitive	及物的动字	新	1588	他动词	【语言学】(动词)及物的
vocabulary	语汇	新	1599	字汇	词汇

word formation	语构成法	新	1643		构词法
abstract term	抽象名词	新	1661		抽象术语
active voice or form	行式样	新	1662	刚声	主动语态
conjugate	读破	新	1694	变动	同源词
conjugate	配列	新	1694		同源词
conjunctive sentence	设若句头	新	1694	虚拟句头	联合句
descriptive terminology	叙写学语	新	1703	记载的学语	描述性术语
agglutinating language	添看语	新	1665		黏着语
quotation mark	引号	新	1149		引号
active verb	灵动活字	部定	19		主动动词
active verb	力行动字	部定	19		主动动词
simple bodies	简体	部定	140		短语
desynonymization	别义	部定	376		对(同义词)加以辨义, 区别(近义词)的意义
syncategorematic term	带用语	部定	1482		助范畴词短语
terminology of physiological botany	植物生理名词	部定	1483		植物生理学术语
categorematic term	独用语	部定	1481		范畴性术语
military term	军语	部定	1482		军语, 军事术语